

Honeywell

HF52X

定置型バーコードスキャナ

ユーザー・ガイド

免責

Honeywell International Inc およびその関連会社および子会社ならびに Honeywell グループを構成するその他の事業体（「HII」）は、本書に記載される仕様およびその他の情報について、事前に通知することなく変更できるものとします。ユーザーは、いかなる場合でも、変更の有無を確認するには HII までお問い合わせください。HII は、本書に記載された情報に必ずしも関与しているわけではありません。

Honeywell は、適用される保証期間中、弊社が製造するに商品について、材料や施工に欠陥がないことを保証します。Honeywell の標準製品保証は、Honeywell が書面で別段の合意をしない限り適用されます。各保証の詳細については、注文確認書を参照するか、お近くの営業所にお問い合わせください。保証対象商品が保証適用期間中に Honeywell に返品された場合、Honeywell は、自社の判断に基づき欠陥品であると認めた品目を、無償で、独自の裁量により修理または交換します。前記事項は、購入者の唯一の救済手段であり、明示または黙示を問わず、ある特定の目的に対する商品性または適合性に関する保証を含め、他のすべての保証に代わるものです。いかなる場合にも、Honeywell は、間接損害、特別損害、もしくは派生的損害に対して責任を負いません。Honeywell は、自社の資料および Honeywell のウェブサイトを通じて、直接アプリケーション・サポートを提供することができますが、アプリケーションにおける製品の適合性を判断するのは、購入者の責任となります。仕様は予告なく変更されることがあります。弊社が提供する情報は、本書が作成された時点において正確かつ信頼できるものであると考えられます。ただし、Honeywell は、その使用について責任を負いません。

本書には、著作権によって保護された占有情報が含まれます。すべての権利は著作権者が保有しています。HII の書面による同意なく、本書の一部を複製、複製、または他言語に翻訳することはできません。

Copyright © 2021 Honeywell International Inc 無断転載を禁ず。

Web アドレス：sps.honeywell.com/us/en/products/sensing-and-iot

本書に記載されるその他の製品の名称または記号は、その他の企業の商標または登録商標である場合があり、それぞれの所有者の財産です。

特許情報については、sps.honeywell.com/us/en/support/patents を参照してください。

目次

カスタマー・サポートおよび技術支援	xix
製品サービスおよび修理	xix
限定保証	xix
第 1 章—はじめに	1
概要	1
本書について	1
デバイスの開梱	1
必要な付属品（付属されていません）	1
オプション付属品	2
USB 接続	2
RS-232 の接続	3
バーコードの読み込み	3
メニュー・バーコードのセキュリティ設定	3
カスタム・デフォルトの設定	4
カスタム・デフォルトをリセットする	5
第 2 章—インターフェースのプログラミング	7
概要	7
インターフェースのプログラミング	7
RS232 Serial Port（RS232 シリアルポート）	7
USB IBM SurePos	9
USB PC または Macintosh キーボード	9
USB HID	10
USB Serial（USB シリアル）	10
CTS/RTS エミュレーション	10

ACK/NAK モード.....	10
USB 用 Remote MasterMind™ (リモートマスターマインド)	11
キーボードの国別レイアウト.....	11
キーボード配列.....	18
キーボード変換.....	19
制御文字出力	20
キーボードの修飾キー	20
RS232 修飾キー	22
RS232 ボーレート	22
RS232 ワード長：データビット、ストップビット、パリティ	23
RS232 レシーバー・タイムアウト.....	24
RS232 Handshaking (RS232 ハンドシェイク)	24
RS232 タイムアウト.....	25
XON/XOFF	25
ACK/NAK	26

第 3 章—入出力設定28

Power Up Beeper (起動ブザー)	28
BEL 文字受信時のブザー音	28
読み取り成功とエラー・インジケータ	29
ブザー—読み取り成功時.....	29
ブザーの音量—読み取り成功時	29
ブザーのピッチ—読み取り成功時.....	29
ブザーのピッチ—エラー時	30
ブザーの長さ—読み取り成功時	30
LED—読み取り成功時	31
ブザーの回数—読み取り成功時	31
ブザーの回数—エラー時.....	31
Good Read Delay (読み取り成功時の遅延)	32
User-Specified Good Read Delay (ユーザー指定の読み取り成功時の遅延)	32
ブザー信号の反転.....	32
携帯電話読み取りモード.....	33
プレゼンテーション・モード.....	33

プレゼンテーション・モード	33
プレゼンテーション・モード — 最大被写界深度	34
ストリーミング・プレゼンテーション™・モード	34
LED 照明 — プレゼンテーション・モード	34
アイドル照明 — プレゼンテーション・モード	35
デコード後のプレゼンテーション LED 挙動	36
プレゼンテーション感度	36
プレゼンテーション・センタリング	36
CodeGate®	38
文字有効化モード	38
有効化文字	39
読み取り成功後に文字有効化を終了	39
文字有効化タイムアウト	39
文字無効化モード	40
無効化文字	40
低品質コード	41
低品質 1 次元コード	41
低品質 PDF バーコード	41
デコードのセキュリティ	41
デコードタイムアウト	42
再読み取り遅延	42
ユーザー指定の再読み取り遅延	43
2D Reread Delay (2 次元再読み取り遅延)	43
照明	44
センタリング	44
優先シンボル体系	46
高優先度シンボル体系	46
低優先度シンボル体系	47
優先シンボル体系タイムアウト	47
優先シンボル体系のデフォルト設定	47
出力シーケンスの概要	47
出力シーケンス・エディタ	47
出力シーケンスの追加	48

その他のプログラミング選択項目	48
出力シーケンスの例	49
出力シーケンス・エディタ	50
部分シーケンス	50
出力シーケンスの必須化	51
複数シンボル	51
No Read (読み取りなし)	52
Video Reverse (ビデオ・リバース)	52
Working Orientation (読み取り方向)	53
第 4 章—データ編集	54
プレフィックス／サフィックスの概要	54
注意点	54
プレフィックスまたはサフィックスを追加するには	55
例：すべてのシンボル体系にタブ・サフィックスを追加する	55
1 つまたはすべてのプレフィックスまたはサフィックスをクリアする	56
すべてのシンボル体系にキャリッジ・リターン・サフィックスを追加する	56
プレフィックスの選択項目	56
サフィックスの選択項目	57
Function Code Transmit (ファンクション・コードの送信)	57
文字間、ファンクション間、およびメッセージ間の遅延	57
文字間遅延	58
ユーザー指定の文字間遅延	58
Interfunction Delay (ファンクション間遅延)	59
メッセージ間遅延	59
第 5 章—データ・フォーマット	60
データ・フォーマット・エディタの概要	60
データ・フォーマットを追加する	61
その他のプログラミング選択項目	62
データ・フォーマット・エディタ・コマンド	63
コマンドを送信する	63
F1—すべての文字を送信する	63

F2—指定の文字数を送信する	63
F3—特定の文字までの文字をすべて送信する	64
B9—文字列までのすべての文字を送信する	65
E9—末尾を除くすべての文字を送信する	65
F4—文字を複数回挿入する	65
BA—文字列を挿入する	66
B3—シンボル体系名を挿入する	67
B4—バーコード長を挿入する.....	67
B5—キーストロークを挿入する	68
移動コマンド.....	68
F5—カーソルを指定の文字数だけ前進させる	68
F6—カーソルを指定の文字数だけ後退させる	69
F7—カーソルを先頭に移動する	69
EA—カーソルを末尾に移動する	69
検索コマンド.....	70
F8—前方の文字を検索する	70
F9—後方の文字を検索する	70
B0—前方の文字列を検索する.....	70
B1—後方の文字列を検索する.....	71
E6—前方の一致しない文字を検索する	71
E7—後方の一致しない文字を検索する	72
その他のコマンド.....	72
FB—文字を抑止する.....	72
FC—文字の抑止を停止する	73
E4—文字を置換する.....	73
E5—文字の置換を停止する	73
FE—文字を比較する.....	74
B2—文字列を比較する	74
EC—数字かどうかを確認する	74
ED—数字以外の文字か確認する.....	74
EF—遅延を挿入する.....	75
B8—データを破棄する	75
データ・フォーマッター.....	76

データ・フォーマット不一致エラートーン	77
基準／代用データ・フォーマット	77
シングル・スキャン・データ・フォーマットの変更	78

第 6 章—シンボル体系.....80

All Symbolologies (すべてのシンボル体系)	81
メッセージ長の説明.....	81
Codabar	82
Codabar のオン／オフ	82
Codabar のスタート／ストップ・キャラクタ.....	82
Codabar のチェック・キャラクタ	82
Codabar の連結	83
Codabar Message Length (Codabar のメッセージ長)	84
Code 39.....	84
Code 39 のオン／オフ	84
Code 39 のスタート／ストップ・キャラクタ.....	84
Code 39 のチェック・キャラクタ	85
Code 39 のメッセージ長.....	85
Code 39 Redundancy (Code 39 照合設定)	86
Code 39 Append (Code 39 の連結)	86
Code 32 Pharmaceutical (PARAF)	86
Full ASCII.....	87
Code 39 のコードページ.....	87
Code 39 非定型キャラクタ間ギャップ	88
Trioptic Code.....	88
Trioptic Redundancy (Trioptic 照合設定)	88
Interleaved 2 of 5	89
Interleaved 2 of 5 のオン／オフ.....	89
チェック・デジット	89
Interleaved 2 of 5 のメッセージ長.....	90
FEBRABAN のデコード	90
NEC 2 of 5.....	90
NEC 2 of 5 のオン／オフ	91

チェック・デジット	91
NEC 2 of 5 のメッセージ長.....	91
NEC 2 of 5 Redundancy (NEC 2 of 5 照合設定)	92
Code 93.....	92
Code 93 のオン／オフ	92
Code 93 Message Length (Code 93 のメッセージ長)	93
Code 93 Redundancy (Code 93 照合設定)	93
Code 93 の連結.....	93
Code 93 のコードページ.....	94
Straight 2 of 5 Industrial (3 バー・スタート／ストップ)	94
Straight 2 of 5 Industrial のオン／オフ	94
Straight 2 of 5 Industrial Message Length (Straight 2 of 5 Industrial のメッセージ長)	94
Straight 2 of 5 Industrial Redundancy (Straight 2 of 5 Industrial 照合設定)	95
Straight 2 of 5 IATA (2 バー・スタート／ストップ)	95
Straight 2 of 5 IATA のオン／オフ.....	95
Straight 2 of 5 IATA のメッセージ長.....	95
Straight 2 of 5 IATA Redundancy (Straight 2 of 5 IATA 照合設定)	96
Matrix 2 of 5.....	96
Matrix 2 of 5 のオン／オフ	96
Matrix 2 of 5 のメッセージ長.....	97
Matrix 2 of 5 Redundancy (Matrix 2 of 5 照合設定)	97
Code 11.....	97
Code 11 のオン／オフ	97
必要チェック・デジット数.....	98
Code 11 のメッセージ長.....	98
Code 11 Redundancy (Code 11 照合設定)	98
Code 128	99
Code 128 のオン／オフ.....	99
ISBT 128 の連結	99
ISBT 128 連結モード	100
ISBT 128 の厳密連結	100
ISBT 128 連結アライメント.....	100

ISBT 128 代替 ID	101
Code 128 Message Length (Code 128 のメッセージ長)	101
Code 128 Append (Code 128 の連結)	101
Code 128 のコードページ	102
Code 128 Redundancy (Code 128 照合設定)	102
GS1-128	102
GS1-128 のオン/オフ	103
GS1-128 のメッセージ長	103
GS1-128 Redundancy (GS1-128 照合設定)	103
Telepen	103
Telepen のオン/オフ	104
Telepen の出力	104
Telepen のメッセージ長	104
Telepen Redundancy (Telepen 照合設定)	104
UPC-A	105
UPC-A のオン/オフ	105
UPC-A のチェック・デジット	105
UPC-A のナンバー・システム	106
UPC-A Redundancy (UPC-A 照合設定)	106
UPC-A のアドオン	106
UPC-A アドオン必須	107
アドオンのタイムアウト	107
UPC-A のアドオン・セパレーター	107
拡張クーポン・コード付き UPC-A/EAN-13	108
Coupon GS1 DataBar Output (クーポン GS1 DataBar 出力)	108
UPC-E0	109
UPC-E0 のオン/オフ	109
UPC-E0 Expand (UPC-E0 拡張)	109
UPC-E0 Redundancy (UPC-E0 照合設定)	109
UPC-E0 アドオン必須	110
UPC-E0 Addenda Separator (UPC-E0 のアドオン・セパレーター)	110
UPC-E0 Check Digit (UPC-E0 のチェック・デジット)	110
UPC-E0 の先頭のゼロ	111

UPC-E0 のアドオン	111
UPC-E1	112
EAN/JAN-13	112
EAN/JAN-13 のオン／オフ	112
UPC-A を EAN-13 に変換する	112
EAN/JAN-13 のチェック・デジット	113
EAN/JAN-13 Redundancy (EAN/JAN-13 照合設定)	113
EAN/JAN-13 のアドオン	113
EAN/JAN-13 アドオン必須	114
290 から始まる EAN-13 へのアドオン要求	114
378/379 から始まる EAN-13 へのアドオン要求	115
414/419 から始まる EAN-13 へのアドオン要求	115
434/439 から始まる EAN-13 へのアドオン要求	116
491 から始まる EAN-13 へのアドオン要求	117
977 から始まる EAN-13 へのアドオン要求	117
978 から始まる EAN-13 へのアドオン要求	118
979 から始まる EAN-13 へのアドオン要求	118
EAN/JAN-13 Addenda Separator (EAN/JAN-13 のアドオン・セパレーター)	119
ISBN Translate (ISBN 変換)	119
EAN/JAN-8	120
EAN/JAN-8 のオン／オフ	120
EAN/JAN-8 のチェック・デジット	120
EAN/JAN-8 Redundancy (EAN/JAN-8 照合設定)	120
EAN/JAN-8 のアドオン	121
EAN/JAN-8 アドオン必須	121
EAN/JAN-8 Addenda Separator (EAN/JAN-8 のアドオン・セパレーター)	121
MSI	122
MSI のオン／オフ	122
MSI のチェック・キャラクタ	122
MSI のメッセージ長	123
MSI Redundancy (MSI 照合設定)	123
GS1 DataBar Omnidirectional	124
GS1 DataBar Omnidirectional のオン／オフ	124

GS1 DataBar Omnidirectional Redundancy (GS1 DataBar Omnidirectional 照合設定)	124
.....	124
GS1 DataBar Limited.....	124
GS1 DataBar Limited のオン/オフ	125
GS1 DataBar Limited Redundancy (GS1 DataBar Limited 照合設定)	125
GS1 DataBar Expanded.....	125
GS1 DataBar Expanded のオン/オフ	125
GS1 DataBar Expanded のメッセージ長.....	126
GS1 DataBar Expanded Redundancy (GS1 DataBar Expanded 照合設定)	126
Codablock A.....	127
Codablock A のオン/オフ.....	127
Codablock A のメッセージ長.....	127
Codablock F.....	127
Codablock F のオン/オフ	128
Codablock F のメッセージ長.....	128
ラベル・コード.....	128
PDF417.....	129
PDF417 のオン/オフ	129
PDF417 のメッセージ長.....	129
PDF417 のコードページ.....	129
MacroPDF417	130
MicroPDF417	130
MicroPDF417 のオン/オフ.....	130
MicroPDF417 のメッセージ長.....	130
MicroPDF417 のコードページ	131
GS1 コンポジット・コード	131
UPC/EAN Version (UPC/EAN のバージョン)	132
GS1 コンポジット・コードのメッセージ長.....	132
GS1 コンポジット・コードのコードページ.....	132
GS1 Emulation (GS1 エミュレーション)	133
TCIF Linked Code 39 (TLC39)	134
QR Code.....	134
QR コードのオン/オフ	134

QR コードのメッセージ長.....	134
QR コードの連結.....	135
QR コードのコードページ.....	135
無 QR コードのクワイエットゾーン.....	135
ドットコード.....	136
ドットコードのオン／オフ.....	136
低品質ドットコード.....	136
ドットコードのメッセージ長.....	137
Digimarc バーコード™.....	137
Digimarc デコーダの試行.....	137
Digimarc バーコード.....	137
Data Matrix.....	138
Data Matrix のオン／オフ.....	138
低コントラスト Data Matrix の拡張.....	139
Data Matrix 小型反射型バーコード.....	139
Data Matrix のメッセージ長.....	139
Data Matrix の連結.....	140
Data Matrix コードのコードページ.....	140
Grid Matrix.....	140
Grid Matrix のオン／オフ.....	141
Grid Matrix のメッセージ長.....	141
MaxiCode.....	141
MaxiCode のオン／オフ.....	141
MaxiCode のメッセージ長.....	142
MaxiCode Message Length (MaxiCode のメッセージ長).....	142
Aztec Code.....	142
Aztec Code のオン／オフ.....	142
Aztec Code のメッセージ長.....	143
Aztec の連結.....	143
Aztec のコードページ.....	143
Chinese Sensible (Han Xin) コード.....	144
Han Xin コードのオン／オフ.....	144
Han Xin コードのメッセージ長.....	144

郵便コード - 2 次元.....	145
2 次元郵便コード (単独) :	145
2 次元郵便コード (組み合わせ) :	146
Planet Code Check Digit (Planet Code のチェック・デジット)	148
Postnet のチェック・デジット	148
Australian Post の解釈.....	149
郵便コード - リニア	149
China Post (Hong Kong 2 of 5)	149
China Post (Hong Kong 2 of 5) のオン/オフ	150
China Post (Hong Kong 2 of 5) のメッセージ長	150
China Post Redundancy (China Post 照合設定)	150
Korean Post.....	150
Korean Post のオン/オフ.....	151
Korean Post のメッセージ長.....	151
Korea Post Check Digit (Korean Post のチェック・デジット)	151

第 7 章—撮影コマンド152

シングル・ユース・ベース.....	152
コマンド構文.....	152
イメージ・スナップ - IMGSNP	153
IMGSNP モディファイア	153
P - Imaging Style (撮影スタイル)	153
B - Beeper (ビープ音)	153
T - Wait for Trigger (トリガー待機)	154
L - LED State (LED 状態)	154
E - Exposure (露出)	154
G - Gain (ゲイン)	155
W - Target White Value (ターゲットホワイト値)	155
D - Delta for Acceptance (許容デルタ)	155
U - Update Tries (更新試行回数)	156
% - Target Set Point Percentage (ターゲット・セットポイント割合)	156
Image Ship (画像送信) - IMGSHIP	156
IMGSHIP モディファイア	157

A - Infinity Filter (無限遠フィルター)	157
C - Compensation (補正)	157
D - Pixel Depth (ピクセル深度)	157
E - Edge Sharpen (エッジ・シャープニング)	158
F - File Format (ファイルフォーマット)	158
H - Histogram Stretch (ヒストグラム・ストレッチ)	159
I - Invert Image (画像反転)	159
IF- Noise Reduction (ノイズ低減)	160
IR - Image Rotate (画像回転)	160
J - JPEG Image Quality (JPEG の画質)	161
K - Gamma Correction (ガンマ補正)	161
L, R, T, B, M - Image Cropping (画像切り取り)	162
P - Protocol (プロトコル)	163
S - Pixel Ship (ピクセル送信)	163
U - Document Image Filter (文書画像フィルター)	163
V - Blur Image (画像ぼかし)	164
W - Histogram Ship (ヒストグラム送信)	164
Image Size Compatibility (画像サイズの互換性)	165
インテリジェント・シグネチャ・キャプチャ - IMGBOX	165
Signature Capture Optimize (シグネチャ・キャプチャの最適化)	166
IMGBOX モディファイア	167
RF のデフォルト撮影デバイス	170
第 8 章—ユーティリティ	172
すべてのシンボル体系にテスト・コード ID プレフィックスを追加する	172
ソフトウェアの改訂情報を表示する	172
データ・フォーマットを表示する	172
テスト・メニュー	173
EZConfig for Scanning ツールのインストール	175
工場出荷時設定にリセットする	177
第 9 章—シリアル・プログラミング・コマンド	178
表記規則	178

メニュー・コマンド構文.....	178
シリアル・コマンドの例.....	179
クエリ・コマンド.....	179
:Name:フィールドの使い方（オプション）.....	179
Tag フィールドの使い方.....	180
SubTag フィールドの使い方.....	180
Data フィールドの使い方.....	180
複数コマンドの連結.....	180
応答.....	180
カスタム・デフォルトを設定する.....	182
カスタム・デフォルトをリセットする.....	182
メニュー・コマンド.....	182

第 10—製品仕様206

HF52X の製品仕様.....	206
最大被写界深度.....	207
標準性能.....	207
視野.....	207

第 11 章—メンテナンスおよびトラブルシューティング208

修理.....	208
ケーブルおよびコネクタの点検.....	208
トラブルシューティング.....	208

付録 A—リファレンス・チャート.....210

シンボル体系チャート.....	210
リニア・シンボル体系.....	210
2次元シンボル体系.....	212
郵便シンボル体系.....	212
ASCII Conversion Chart (Code Page 1252) (ASCII 変換表 [コードページ 1252]).....	213
下位 ASCII 参照表.....	214
ISO 2022/ISO 646 置換文字.....	219
キーボードのキーマップ.....	221
シンボルの例.....	222

プログラミング・チャート	224
プログラミング・チャート	226

カスタマー・サポートおよび技術支援

カスタマー・サポートについては、お近くの Honeywell 営業担当者にお問い合わせいただくか、サポートフォーム (sps.honeywell.com/us/en/contact-us) にご記入ください。

製品サービスおよび修理

Honeywell International Inc.では、世界各地に展開しているサービス・センターを通じて、すべての製品を対象にサービスを提供しています。サービスを受けるには、保証対象であるかどうかにかかわらず、製品とともに日付が明記された購入記録の写しを Honeywell まで返送してください（送料はお客様負担です）。詳細は、sps.honeywell.com/us/en/support/sensing-and-iot/technical-support を参照してください。

限定保証

保証については、sps.honeywell.com/us/en/support/productivity/warranties を参照してください。

第 1 章—はじめに

概要

HF52X 固定設置式バーコードスキャナは、セルフサービスキオスク、アクセス制御システム、自動販売機などの OEM 筐体に統合できるように設計された 2D イメージモジュールです。

本書について

本ユーザー・ガイドでは、HF52X のデモンストレーション、インストール、プログラミングについて説明します。

HF52X は、最も一般的な端末および通信設定に合わせて工場プログラムされています。これらの設定を変更する必要がある場合は、EZConfig-Scanning ツール（173 ページを参照）を使用するか、またはシリアル・コマンド（第 9 章を参照）を送信して、本ガイドに記載のバーコードをスキャンすることにより、プログラミングを行えます。

オプションの隣にあるアスタリスク (*) は、デフォルト設定を示しています。

デバイスの開梱

輸送用の梱包箱を開けたら、以下の手順を実行してください。

- 輸送中の破損がないか確認する。破損がある場合は、梱包箱を届けた配送業者にすぐに報告してください。
- 梱包箱の内容が注文と一致していることを確認する。
- 梱包箱は、後で保管や輸送に使用するために保存しておく。

必要な付属品（付属されていません）

- RS-232 ケーブル + 電源、または
- USB ケーブル

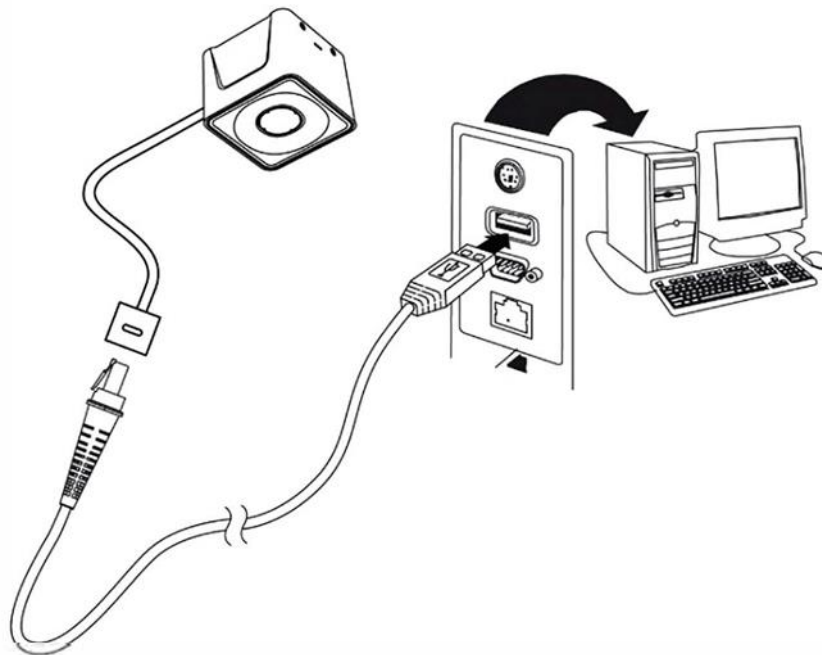
オプション付属品

- 電源アダプタ

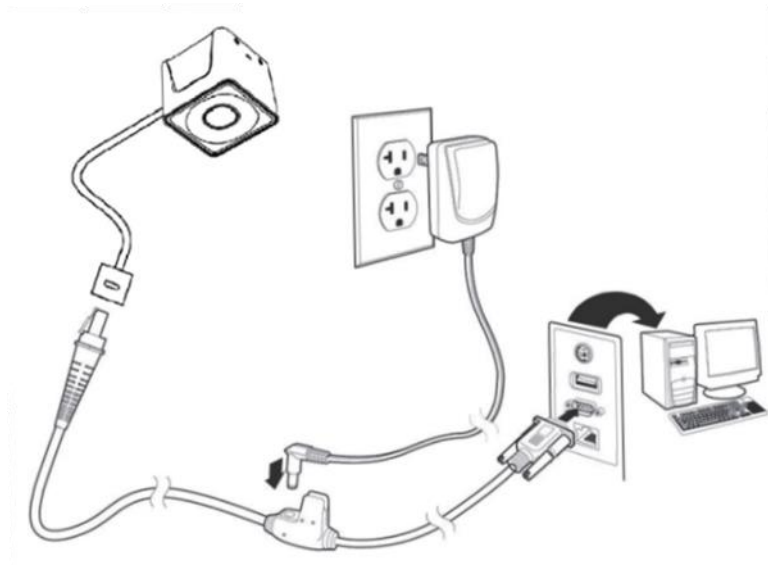
USB 接続



注意： スキャナを接続する前に、コンピュータの電源を切断してください。スキャナを完全に接続した後で、コンピュータの電源を入れてください。



RS-232 の接続



注： 必要に応じて、電源アダプタ（非同梱品）を使用してください。

バーコードの読み込み

バーコードを読み取るには、次のガイドラインに従ってください。

- スキャナを中心をバーコードに合わせます。スキャナは、どの方向にも動かさず。
- バーコードが小さい場合は、スキャナをコードの近くに置きます。バーコードがより大きい場合は、スキャナをコードから離して、コードがスキャナの視野内に完全に入るようにします。
- バーコードの反射率が高い場合は（フィルムコーティングなど）、読み取りやすい角度にスキャナを傾けてください。

メニュー・バーコードのセキュリティ設定

Honeywell のスキャナは、メニュー・バーコードをスキャンするか、スキャン・エンジンにシリアル・コマンドを送信することでプログラミングできます。メニュー・コードのスキャン機能を制限したい場合は、メニュー・バーコードのセキュリティ設定を使用できます。詳細については、最寄りのテクニカル・サポート・オフィス（xix ページの[カスタマー・サポート](#)および[技術支援](#)を参照）までお問い合わせください。

カスタム・デフォルトの設定

独自のカスタム・デフォルトとして、一連のメニュー・コマンドを作成できます。そのためには、カスタム・デフォルトのメニュー・コマンドをスキャンする前に、以下の Set Custom Defaults（カスタム・デフォルトを設定する）バーコードをスキャンしてください。メニュー・コマンドにより、バックカバーの数値コード、次に Save（保存）コードの順でスキャンが求められる場合、そのシーケンス全体がカスタム・デフォルトに保存されます。カスタム・デフォルトに保存したいコマンドをすべて入力したら、Save Custom Defaults（カスタム・デフォルトを保存する）バーコードをスキャンします。



Set Custom Defaults（カスタム・デフォルトを設定する）



Save Custom Defaults（カスタム・デフォルトを保存する）

一連のカスタム設定のうちの1つの設定を修正したい場合があるとします。これは、新しい設定をスキャンして、古い設定を上書きするだけで修正できます。たとえば、以前にカスタム・デフォルトとして Beeper Volume at Low（ブザー音量を下げる）設定を保存していた場合、ブザー音量を High（高）に設定するには、Set Custom Defaults（カスタム・デフォルトを設定する）バーコード、次に Beeper Volume High（ブザー音量を上げる）メニュー・コード、最後に Save Custom Defaults（カスタム・デフォルトを保存する）の順にスキャンします。残りのカスタム・デフォルトはそのまま残りますが、ブザーの音量設定は更新されません。

注： Save Custom Defaults（カスタム・デフォルトを保存する）バーコードを読み取った直後は、カスタム・デフォルトは適用されません。カスタム・デフォルトを有効にするには、以下の Activate Defaults（デフォルトを有効化する）バーコードを読み込む必要があります。

カスタム・デフォルトをリセットする

カスタム・デフォルト設定をスキャン・エンジンに復元したい場合は、以下の Activate Custom Defaults（カスタム・デフォルトを有効化する）バーコードをスキャンします。これは、ほとんどのユーザーに推奨されるデフォルトのバーコードです。これにより、スキャン・エンジンがカスタム・デフォルト設定にリセットされます。カスタム・デフォルト設定がない場合、スキャン・エンジンは工場出荷時設定にリセットされます。カスタム・デフォルトで指定されていない設定は、デフォルトで工場出荷時設定になります。



Activate Defaults（デフォルト
を有効化する）

- 注： シリアル・コマンドを使用して、スキャン・エンジンにカスタム・デフォルトのリストを送信することもできます。[181 ページの「カスタム・デフォルトを設定する」](#)を参照してください。
- 注： カスタム・デフォルトを削除するには、[176 ページの「工場出荷時設定にリセットする」](#)を参照してください。

第 2 章—インターフェースのプログラミング

概要

この章では、目的のインターフェースに合わせてシステムをプログラムする方法について説明します。

インターフェースのプログラミング

インターフェースをプログラムするには、以下の設定用バーコードを使用します。

注： インターフェースを有効にするには、いずれかのコードをスキャンした後、ホスト端末の電源を切り、再度電源を入れます。

RS232 Serial Port (RS232 シリアルポート)

RS232 Interface (RS232 インターフェース) バーコードは、PC または端末のシリアルポートに接続する際に使用します。以下の RS232 Interface (RS232 インターフェース) バーコードはまた、下記のキャリッジ・リターン (CR) とラインフィード (LF) サフィックス、ボーレート、およびデータ・フォーマットをプログラムします。

注： RS-232 ケーブルをスキャナに差し込むと、HF52X が自動的に RS-232 モードを検出します。

オプション	設定
ボーレート	115,200 bps
データ・フォーマット	8 データビット、パリティビットなし、1 ストップビット



TERMID0;232BAD9;232WRD2

RS-232 Interface

USB IBM SurePos

IBM SurePos (USB ハンドヘルド・スキャナ) または IBM SurePos (USB テーブルトップ・スキャナ) のインターフェース用にスキャン・エンジンをプログラムするには、以下の「プラグアンドプレイ」コードのいずれかをスキャンします。

注： これらのコードのいずれかをスキャンした後、キャッシュレジスタの電源を切り、再度電源を入れる必要があります。



上記の各バーコードは、シンボル体系ごとに次のサフィックスもプログラムします。

シンボル体系	サフィックス	シンボル体系	サフィックス
EAN 8	0C	Code 39	00 0A 0B
EAN 13	16	Interleaved 2 of 5	00 0D 0B
UPC-A	0D	Code 128	00 18 0B
UPC-E	0A	Code 39	00 0A 0B

USB PC または Macintosh キーボード

USB PC キーボードまたは USB Macintosh キーボード用にスキャン・エンジンをプログラムするには、次のいずれかのコードをスキャンします。これらのコードをスキャンすると、CR サフィックスも追加されます。



USB HID

USB HID 用にスキャン・エンジンをプログラムするには、以下のコードをスキャンします。



USB Serial (USB シリアル)

標準の RS232 ベースの COM ポートをエミュレートするようにスキャン・エンジンをプログラムするには、以下のコードを読み取ります。Microsoft® Windows® の PC を使用している場合は、Honeywell のウェブサイト

(www.honeywellaidc.com) からドライバをダウンロードする必要があります。ドライバは次に使用可能な COM ポート番号を使用します。Apple® Macintosh コンピュータは、スキャン・エンジンを USB CDC クラスのデバイスとして認識し、自動的にクラスドライバを使用します。



USB Serial (USB シリアル)

注： 追加の設定（ボーレートなど）は必要ありません。

CTS/RTS エミュレーション



CTS/RTS Emulation On (CTS/RTS エミュレーション・オン)



* CTS/RTS Emulation Off (CTS/RTS エミュレーション・オフ)

ACK/NAK モード



ACK/NAK Mode On (ACK/NAK モード・オン)



* ACK/NAK Mode Off (ACK/NAK モード・オフ)

USB 用 Remote MasterMind™ (リモートマスターマインド)

USB インターフェースを使用する場合、Remote MasterMind スキャナ管理ソフトウェア (ReM) と通信するようスキャナを設定できます。ReM と通信するには、ReM On (ReM オン) バーコードをスキャンします。この機能を無効にするには、ReM Off (ReM オフ) をスキャンします。



REMIFC0.

* ReM Off (ReM オフ)



REMIFC1.

ReM On (ReM オン)

キーボードの国別レイアウト

インターフェースが USB キーボードまたはキーボードウェッジの場合、キーボードレイアウトのデフォルトは US 配列キーボードです。このレイアウトを変更するには、下記の図で、お使いの国別キーボードを参照してください。レイアウトを変更するには、下記の中から適切なバーコードをスキャンします。

デフォルトでは、#、\$、@、[、¥、]、^、'、{、|、}、~ の各記号に国別置換文字が使用されます。国ごとの置換文字を確認するには、ISO 2022/ISO 646 置換文字 (A-218 ページ) を参照してください。

国別キーボード



KBDCTY0.

* United States (米国)



KBDCTY35.

Albania (アルバニア)



KBDCTY81.

Azeri (Cyrillic) (アゼリー語
[キリル])



KBDCTY80.

Azeri (Latin) (アゼリー語 ([ラ
テン])



KBDCTY82.

Belarus (ベラルーシ)

国別キーボード（続き）



KBDCTY33.

Bosnia (ボスニア)



KBDCTY59.

Brazil (MS) (ブラジル [MS])



KBDCTY53.

Bulgaria (Latin) (ブルガリア [ラテン])



KBDCTY18.

Canada (French) (カナダ [フランス語])



KBDCTY32.

Croatia (クロアチア)



KBDCTY40.

Czech (Programmers) (チェコ語 [プログラマー])



KBDCTY1.

Belgium (ベルギー)



KBDCTY16.

Brazil (ブラジル)



KBDCTY52.

Bulgaria (Cyrillic) (ブルガリア [キリル])



KBDCTY54.

Canada (French legacy) (カナダ [フランス語レガシー])



KBDCTY55.

Canada (Multilingual) (カナダ [マルチリンガル])



KBDCTY15.

Czech (チェコ語)

国別キーボード（続き）



KBDCTY38.

Czech (QWERTZ) (チェコ語 [QWERTZ])



KBDCTY11.

Dutch (Netherlands) (オランダ語 [オランダ])



KBDCTY83.

Faroese (フェロー語)



KBDCTY3.

France (フランス)



KBDCTY4.

Germany (ドイツ)



KBDCTY64.

Greek (220 Latin) (ギリシャ語 [220 ラテン])



KBDCTY39.

Czech (QWERTY) (チェコ語 [QWERTY])



KBDCTY8.

Denmark (デンマーク)



KBDCTY41.

Estonia (エストニア)



KBDCTY2.

Finland (フィンランド)



KBDCTY84.

Gaelic (ゲール語)



KBDCTY17.

Greek (ギリシャ語)

国別キーボード（続き）



KBDCTY65.

Greek (319 Latin) (ギリシャ語 [319 ラテン])



KBDCTY63.

Greek (Latin) (ギリシャ語 [ラテン])



KBDCTY60.

Greek (Polytonic) (ギリシャ語 [ポリトニック])



KBDCTY50.

Hungarian (101 key) (ハンガリー語 [101 キーボード])



KBDCTY75.

Iceland (アイスランド)



KBDCTY56.

Italian (142) (イタリア [142])



KBDCTY61.

Greek (220) (ギリシャ語 [220])



KBDCTY62.

Greek (319) (ギリシャ語 [319])



KBDCTY66.

Greek (MS) (ギリシャ語 [MS])



KBDCTY12.

Hebrew (ヘブライ語)



KBDCTY19.

Hungary (ハンガリー)



KBDCTY73.

Irish (アイルランド語)

国別キーボード（続き）



KBDCTY28.

Japan ASCII（日本語 ASCII）



KBDCTY79.

Kyrgyz (Cyrillic)（キルギス語 [キリル]）



KBDCTY42.

Latvia（ラトビア）



KBDCTY44.

Lithuania（リトアニア）



KBDCTY34.

Macedonia（マケドニア）



KBDCTY86.

Mongolian (Cyrillic)（モンゴル語 [キリル]）



KBDCTY5.

Italy（イタリア）



KBDCTY78.

Kazakh（カザフ語）



KBDCTY14.

Latin America（ラテン・アメリカ）



KBDCTY43.

Latvia (QWERTY)（ラトビア [QWERTY]）



KBDCTY45.

Lithuania (IBM)（リトアニア [IBM]）



KBDCTY74.

Malta（マルタ）

国別キーボード（続き）



KBDCTY20.

Poland (ポーランド)



KBDCTY58.

Polish (Programmers) (ポーランド語 [プログラマー])



KBDCTY25.

Romania (ルーマニア)



KBDCTY67.

Russian (MS) (ロシア語 [MS])



KBDCTY21.

SCS



KBDCTY36.

Serbia (Latin) (セルビア [ラテン])



KBDCTY9.

Norway (ノルウェー)



KBDCTY57.

Polish (214) (ポーランド語 [214])



KBDCTY13.

Portugal (ポルトガル)



KBDCTY26.

Russia (ロシア)



KBDCTY68.

Russia (ロシア)



KBDCTY37.

Serbia (Cyrillic) (セルビア [キリル])

国別キーボード（続き）



KBDCTY49.

Slovakia (QWERTY) (スロバキア
[QWERTY])



KBDCTY31.

Slovenia (スロベニア)



KBDCTY51.

Spanish variation (スペイン語バリエーシ
ョン)



KBDCTY29.

Switzerland (French) (スイス [フランス
語])



KBDCTY85.

Tatar (タタール語)



KBDCTY24.

Turkey Q (トルコQ)



KBDCTY22.

Slovakia (スロバキア)



KBDCTY48.

Slovakia (QWERTZ) (スロバキア
[QWERTZ])



KBDCTY10.

Spain (スペイン)



KBDCTY23.

Sweden (スウェーデン)



KBDCTY6.

Switzerland (German) (スイス [ドイツ
語])



KBDCTY27.

Turkey F (トルコF)

国別キーボード（続き）



KBDCTY7.

United Kingdom (イギリス)



KBDCTY88.

United States (Dvorak left) (米国 [Dvorak
左])



KBDCTY30.

United States (International) (米国 [イン
ターナショナル])



KBDCTY76.

Ukrainian (ウクライナ語)



KBDCTY87.

United States (Dvorak) (米国 [Dvorak])



KBDCTY89.

United States (Dvorak) (米国 [Dvorak])



KBDCTY77.

Uzbek (Cyrillic) (ウズベク語 [キリル])

キーボード配列

Caps Lock や Shift Lock などのキーボードスタイルをプログラムします。キーボード変換設定を使用した場合は、次のキーボードスタイル設定のいずれかが無効になります。デフォルト値 = Regular (標準)。

Regular (標準) は、通常 Caps Lock キーをオフにしている場合に使用します。



KBDSTY0.

* Regular (標準)

Caps Lock (Caps ロック) は、通常 Caps Lock キーをオンにしている場合に使用します。



KBDSTY1.

Caps Lock (Caps ロック)

Shift Lock (Shift ロック) は、通常 Shift Lock キーをオンにしている場合に使用します (米国のキーボードでは通常使用しません)。



KBDSTY2.

Shift Lock (Shift ロック)

Automatic Caps Lock (自動 Caps ロック) は、Caps Lock キーのオン/オフを変更するときを使用します。Caps Lock をオンまたはオフに切り替えると、ソフトウェアが追跡・反映します。この選択は、Caps Lock ステータスを認識する LED を持つシステム (AT キーボード) でのみ使用できます。



KBDSTY6.

Automatic Caps Lock (自動 Caps ロック)

Caps Lock の切り替えに Caps Lock キーを使用できない国 (ドイツ、フランスなど) では、Autocaps via NumLock (Num ロック経由の Autocaps) バーコードをスキャンする必要があります。NumLock オプションは通常の Autocaps と同様に機能しますが、Caps Lock の現在の状態を取得するには、NumLock キーを使用します。



KBDSTY7.

Autocaps via NumLock (Num ロック経由
の Autocaps)

外付けキーボード (IBM AT または同等品) がない場合は、Emulate External Keyboard (外付けキーボードをエミュレートする) をスキャンする必要があります。



KBDSTY5.

Emulate External Keyboard (外付けキー
ボードをエミュレートする)

注： *Emulate External Keyboard* (外付けキーボードをエミュレートする) バーコードをスキャンした後は、コンピュータの電源を切り、再度電源を入れる必要があります。

キーボード変換

英字キーボード文字は、強制的にすべて大文字またはすべて小文字に変換できます。したがって、たとえば「abc569GK」というバーコードがある場合、Convert All Characters to Upper Case (すべての文字を大文字に変換する) をスキャンして出力「ABC569GK」を作成するか、Convert All Characters to Lower Case (すべての文字を小文字に変換する) をスキャンして「abc569gk」を作成できます。

これらの設定は、**キーボードスタイル**選択より優先されます。

注： インターフェースがキーボードウェッジの場合は、まず **Automatic Caps Lock (自動 Caps ロック)** (18 ページ) のメニューコードをスキャンします。そうしないと、出力が想定どおりに行われなかった場合があります。

デフォルト値 = Keyboard Conversion Off (キーボード変換オフ)。



* Keyboard Conversion Off (キーボード変換オフ)



Convert All Characters to Upper Case (すべての文字を大文字に変換する)



Convert All Characters to Lower Case (すべての文字を小文字に変換する)

制御文字出力

これを選択すると、制御文字ではなくテキスト文字列が送信されます。たとえば、キャリッジ・リターンの制御文字が想定される場合、ASCII コードの 0D の代わりに [CR] が出力表示されます。212 ページの [ASCII 変換表 \[コードページ 1252\]](#) を参照してください。変換されるのは、コード 00~1F (表の最初の列) のみです。

注： Control + X (Control + ASCII) Mode は、このモードより優先されます。

デフォルト値 = Off (オフ)。



Control Character Output On (制御文字出カオン)



* Control Character Output Off (制御文字出カオフ)

キーボードの修飾キー

ここでは、CTRL+ASCII コードやターボモードなどの特別なキーボード機能を変更します。

Control + X (Control + ASCII) Mode On: (Control + X [Control + ASCII]) モード・オンスキャン・エンジンから、値 00~1F の ASCII 制御文字に対応するキーの組み合わせが送信されます。推奨モードは Windows です。すべての国別キーボードのコードに対応しています。DOS モードはレガシー・モードであるため、すべての国別キーボードのコードに対応していません。新しいユーザーは、Windows モードを使用してください。

Windows Mode Prefix/Suffix Off (Windows モードのプレフィックス/サフィックス・オフ) :スキャン・エンジンから、値 00~1F の ASCII 制御文字に対応するキーの組み合わせが送信されますが、プレフィックスやサフィックスの情報は変換されません。

デフォルト値 = Control + X Mode Off (Control + X モード・オフ)



Windows Mode Control + X Mode On (Windows モードの Control + X モード・オン)



* Control + X Mode Off (Control + X モード・オフ)



DOS Mode Control + X Mode On (DOS モードの Control + X モード・オン)



Windows Mode Prefix/Suffix (Windows モードのプレフィックス/サフィックス)



DOS Mode Control + X Mode On with Windows Mode Prefix/Suffix (DOS モードの Control + X モード・オン、Windows モードのプレフィックス/サフィックス付き)

Turbo Mode (ターボモード) : スキャン・エンジンが端末に高速で文字を送信します。端末で文字の読み落としがある場合は、ターボモードは使用しないでください。デフォルト値 = Off (オフ)。



Turbo Mode On (ターボモード・オン)



* Turbo Mode Off (ターボモード・オフ)

Numeric Keypad Mode (テンキーモード) : テンキーから入力したものと同じように数字を送信します。デフォルト値 = Off (オフ)。



Numeric Keypad Mode On (テンキーモード・オン)



* Numeric Keypad Mode Off (テンキーモード・オフ)

Automatic Direct Connect Mode (自動直接接続モード)：この選択は、IBM AT 型の端末を使用しており、システムで文字の読み落としがある場合に使用できません。デフォルト値 = Off (オフ)。



KBDADC1.

Automatic Direct Connect
Mode On (自動直接接続モード・オン)



KBDADC0.

* Automatic Direct Connect
Mode Off (自動直接接続モード・オフ)

RS232 修飾キー

RS232 ボーレート

ボーレートは、指定されたレートでスキャン・エンジンから端末にデータを送信します。ホスト端末はスキャン・エンジンと同じボーレートに設定する必要があります。デフォルト値 = 115,200。



232BAD0.

300



232BAD1.

600



232BAD2.

1200



232BAD3.

2400



232BAD4.

4800



232BAD5.

9600



232BAD6.

19200



232BAD7.

38400



232BAD8.

57,600



232BAD9.

* 115,200

RS232 ワード長：データビット、ストップビット、パリティ

Data Bits（データビット）は、ワード長を1文字あたり7ビットまたは8データビットに設定します。ASCII 16進文字0から7Fまでの10進数（文字、数字、および句読点）のみを必要とするアプリケーションでは、7データビットを選択します。フルセットのASCII文字を使用する必要があるアプリケーションでは、1文字あたり8データビットを選択します。デフォルト値 = 8。

Stop Bits（ストップビット）は、ストップビットを1または2に設定します。デフォルト値 = 1。

Parity（パリティ）は、妥当性確認のため、文字のビットパターンを確認する手段を提供します。

デフォルト値 = None（なし）。



232WRD3.

7 Data, 1 Stop, Parity Even（7データビット、
1ストップビット、パリティ偶数）



232WRD0.

7 Data, 1 Stop, Parity None（7データビット、
1ストップビット、パリティなし）



232WRD6.

7 Data, 1 Stop, Parity Odd（7データビット、1
ストップビット、パリティ奇数）



232WRD4.

7 Data, 2 Stop, Parity Even（7データビット、
2ストップビット、パリティ偶数）



232WRD1.

7 Data, 2 Stop, Parity None（7データビット、
2ストップビット、パリティなし）



232WRD7.

7 Data, 2 Stop, Parity Odd (7 データビット、2 ス
トップビット、パリティ奇数)



232WRD5.

8 Data, 1 Stop, Parity Even (8 データビット、1 ス
トップビット、パリティ偶数)



232WRD2.

* 8 Data, 1 Stop, Parity None (8 データビット、1
ストップビット、パリティなし)



232WRD8.

8 Data, 1 Stop, Parity Odd (8 データビット、1 ス
トップビット、パリティ奇数)



232WRD14.

8 Data, 1 Stop, Parity Mark (8 データビット、1 ス
トップビット、パリティマーク)

RS232 レシーバー・タイムアウト

ユニットは、RS232 レシーバー・タイムアウトの時間切れまで、データ受信のために起動状態のままになります。タイムアウトは手動またはシリアルトリガーによりリセットされます。RS232 レシーバーがスリープ状態のときは、文字を送信することによってレシーバーを復帰させ、タイムアウトをリセットできます。CTS ライン上のトランザクションもレシーバーを復帰させます。レシーバーが完全に復帰するには 300 ミリ秒かかります。RS232 レシーバーのタイムアウトを変更するには、下記のバーコードをスキャンしてから、本マニュアルの裏表紙裏に記載されている数字をスキャンした後で、Save (保存) をスキャンします。範囲は 0~300 秒です。デフォルト値 = 0 秒 (タイムアウトなし、常にオン)。



232LPT.

RS232 レシーバー・タイムアウト

RS232 Handshaking (RS232 ハンドシェイク)

RS232 ハンドシェイクでは、ホストデバイスからソフトウェア・コマンドを使用して、スキャン・エンジンからのデータ送信を制御できます。RTS/CTS がオフの場合、データ・フロー制御は使用されません。

Flow Control, No Timeout (フロー制御、タイムアウトなし) スキャン・エンジンは、データを送信する必要があるときに RTS をアサートし、ホストによって CTS がアサートされるまで無期限に待機します。

Two-Direction Flow Control (2 方向フロー制御) : スキャン・エンジンは、ホストが送信可能な場合に RTS をアサートします。ホストは、デバイスが送信可能な場合に CTS をアサートします。

Flow Control with Timeout (フロー制御、タイムアウトあり)：スキャン・エンジンは、データを送信する必要があるときに RTS をアサートし、ホストによって CTS がアサートされるまでの遅延時間 (24 ページの [RS232 タイムアウト](#) を参照してください) だけ待機します。CTS がアサートされないまま遅延時間が経過すると、デバイスの送信バッファがクリアされ、スキャンを再開することができます。

デフォルト値 = RTS/CTS Off (RTS/CTS オフ)。



232CTS1.

Flow Control, No Timeout (フロー制御、タイムアウトなし)



232CTS2.

Two-Direction Flow Control (2方向フロー制御)



232CTS3.

Flow Control with Timeout (フロー制御、タイムアウトあり)



232CTS0.

* RTS/CTS Off (RTS/CTS オフ)

RS232 タイムアウト

Flow Control with Timeout (フロー制御、タイムアウトあり) を使用する場合は、ホストからの CTS を待機する遅延時間をプログラムする必要があります。タイムアウトの時間 (ミリ秒単位) を設定するには、下記のバーコードをスキャンしてから、裏表紙裏の数字をスキャンしてタイムアウト (1~5,100 ミリ秒) を設定した後で、Save (保存) をスキャンします。



232DEL.

RS232 タイムアウト

XON/XOFF

標準の ASCII 制御文字を使用して、スキャン・エンジンにデータ送信の開始 (XON/XOFF オン) またはデータ送信の停止 (XON/XOFF オフ) を指示できます。ホストがスキャン・エンジンに XOFF 文字 (DC3、16 進数の 13) を送信すると、データ送信が停止します。送信を再開するには、ホストが XON 文字 (DC1、16 進数の 11) を送信します。データ伝送は、XOFF の送信によって中断されたところから続行されます。デフォルト値 = XON/XOFF Off (XON/XOFF オフ)。



232XON1.

XON/XOFF On (XON/XOFF オン)



232XON0.

* XON/XOFF Off (XON/XOFF
オフ)

ACK/NAK

データを送信した後、スキャン・エンジンはホストからの応答として ACK 文字（16 進数の 06）または NAK 文字（16 進数の 15）を待機します。ACK を受信した場合、その通信サイクルは完了し、スキャン・エンジンはさらにバーコードを探します。NAK を受信した場合、最後のバーコード・データセットが再送され、スキャン・エンジンは ACK/NAK を再度待機します。ACK/NAK プロトコルをオンにするには、下記の ACK/NAK On (ACK/NAK オン) バーコードをスキャンします。プロトコルをオフにするには、ACK/NAK Off (ACK/NAK オフ) をスキャンします。デフォルト値 = ACK/NAK Off (ACK/NAK オフ)。



232ACK1.

ACK/NAK On (ACK/NAK オ
ン)



232ACK0.

* ACK/NAK Off (ACK/NAK オ
フ)

第 3 章—入出力設定

Power Up Beeper (起動ブザー)

スキャン・エンジンは起動時にブザー音を鳴らすようにプログラムできます。起動ブザー音が不要な場合は、**Off** (オフ) バーコードをスキャンします。デフォルト値 = *Power Up Beeper On - Scanner* (起動ブザー・オン - スキャナ)。



BEPPWR0.

Power Up Beeper Off -
Scanner (起動ブザー・オフ -
スキャナ)



BEPPWR1.

* Power Up Beeper On -
Scanner (起動ブザー・オン -
スキャナ)

BEL 文字受信時のブザー音

ホストから送信されたコマンドで強制的にスキャナのブザー音を鳴らすこともできます。下記の **Beep on BEL On** (BEL 文字受信時のブザー音オン) バーコードをスキャンすると、スキャナはホストから BEL 文字を受信するたびにブザー音を鳴らします。デフォルト値 = *Beep on BEL Off* (BEL 文字受信時のブザー音オフ)。



BELBEP0.

* Beep on BEL Off (BEL 文字
受信時のブザー音オフ)



BELBEP1.

Beep on BEL On (BEL 文字受
信時のブザー音オン)

読み取り成功とエラー・インジケータ

ブザー—読み取り成功時

読み取り成功時のブザーを、**On** (オン) または **Off** (オフ) にプログラムできます。このオプションをオフにすると、読み取り成功を通知するブザーのみがオフになります。エラーおよびメニューのブザー音は、すべて今までどおり聞こえます。
デフォルト値 = *Beeper - Good Read On* (ブザー - 読み取り成功時・オン)



BEPBEP0.

Beeper - Good Read Off (ブザー - 読み取り成功時・オフ)



BEPBEP1.

* Beeper - Good Read On (ブザー - 読み取り成功時・オン)

ブザーの音量—読み取り成功時

ブザーの音量コードは、読み取り成功時にスキャン・エンジンから発せられるブザーの音量を変更します。デフォルト値 = *High* (高)。



BEPLVL1.

Low (低)



BEPLVL2.

Medium (中)



BEPLVL3.

* High (高)



BEPLVL0.

Off (オフ)

ブザーのピッチ—読み取り成功時

ブザーのピッチ・コードは、読み取り成功時にスキャン・エンジンから発せられるブザーのピッチ (周波数) を変更します。デフォルト値 = *Medium* (中)。



BEPFQ11600.

Low (1600 Hz) (低 [1,600Hz])



BEPFQ12700.

* Medium (2700 Hz) (中
[2,700Hz])



BEPFQ14200.

High (4200 Hz) (高
[4,200Hz])

ブザーのピッチ—エラー時

ブザーのピッチ・コードは、読み取り失敗時またはエラー時にスキャン・エンジンから発せられる音のピッチ（周波数）を変更します。デフォルト値 = *Razz*（ブー音）。



BEPFQ2250.

* *Razz* (250 Hz) (ブー音
[250Hz])



BEPFQ23250.

Medium (3250 Hz) (中
[3250Hz])



BEPFQ24200.

High (4200 Hz) (高
[4,200Hz])

ブザーの長さ—読み取り成功時

ブザーの長さコードは、読み取り成功時にスキャン・エンジンから発せられるブザーの長さを変更します。デフォルト値 = *Normal*（通常）。



BEPBIP0.

* Normal Beep (通常のブザー
音)



BEPBIP1.

Short Beep (短いブザー音)

LED—読み取り成功時

読み取り成功時の LED インジケータを、On (オン) または Off (オフ) にプログラムできます。デフォルト値 = On (オン)。



* LED - Good Read On (LED -
読み取り成功時オン)



LED - Good Read Off (LED -
読み取り成功時オフ)

ブザーの回数—読み取り成功時

読み取り成功時のブザーの回数は、1～9 回にプログラムできます。同じ回数のブザー音が、読み取り成功時にブザーと LED に適用されます。たとえば、このオプションでブザーを 5 回にプログラムした場合、読み取り成功時にはブザーが 5 回鳴り、LED が 5 回点滅します。ブザーと LED の点滅は、互いに同期しています。ブザーの回数を変更するには、下記のバーコードをスキャンしてから、本マニュアルの裏表紙裏の **プログラミング・チャート** で数値 (1～9) バーコードをスキャンし、その後 **Save (保存)** バーコードをスキャンします。デフォルト値 = 1。



Number of Good Read Beeps/LED Flashes (読
み取り成功時のブザーと LED 点滅の回数)

ブザーの回数—エラー時

読み取り失敗時またはエラー時にスキャン・エンジンから発せられるブザーと LED 点滅の回数は、1～9 回にプログラムできます。たとえば、このオプションでエラー音を 5 回にプログラムした場合、エラー時にはエラー音が 5 回鳴り、LED が 5 回点滅します。エラー時のブザー回数を変更するには、下記のバーコードをスキャンしてから、本マニュアル裏表紙裏の **プログラミング・チャート** で数値 (1～9) バーコードをスキャンし、その後 **Save (保存)** バーコードをスキャンします。デフォルト値 = 1。



Number of Error Beeps/LED Flashes (エ
ラー時のブザーと LED 点滅の回数)

Good Read Delay (読み取り成功時の遅延)

スキャン・エンジンで別のバーコードの読み取りが可能になるまでの最短時間を設定します。デフォルト値 = 0ms (遅延なし)。



DLYGRD0.

* No Delay (遅延なし)



DLYGRD500.

Short Delay (500 ms) (短い遅延 [500ms])



DLYGRD1000.

Medium Delay (1000 ms) (中程度の遅延
[1,000ms])



DLYGRD1500.

Long Delay (1500 ms) (長い遅延 [1,500ms])

User-Specified Good Read Delay (ユーザー指定の読み取り成功時の遅延)

読み取り成功時の遅延の長さを独自に設定したい場合は、以下のバーコードをスキャンして、裏表紙裏の数値をスキャンして遅延 (0~30,000 ミリ秒) を設定し、その後 **Save** (保存) バーコードをスキャンします。



DLYGRD.

User-Specified Good Read Delay (ユーザー指定の読み取り成功時の遅延)

ブザー信号の反転

ブザー信号反転 0 = PWM アクティブロー (アイドルハイ)、1 = PWM アクティブハイ (アイドルロー)、2 = DC アクティブロー (アイドルハイ)、3 = DC アクティブハイ (アイドルロー)。デフォルト値 = 1。



BEPINV0.

PWM active low (idle high) (PWM アクティブロー [アイドルハイ])



BEPINV1.

* PWM active high (idle low) (PWM アクティブハイ [アイドルロー])



BEPINV2.

DC active low (idle high) (DC アクティブロー
[アイドルハイ])



BEPINV3.

DC active high (idle low) (DC アクティブハイ
[アイドルロー])

携帯電話読み取りモード

このモードを選択すると、携帯電話や他の LED ディスプレイからバーコードを読み込めるように、スキャン・エンジンが最適化されます。ただし、このモードを有効にすると、印刷されたバーコードの読み取り速度が若干低下する場合があります。グローバル・シャッター・エンジンは、フレーム毎にそれぞれの読み取りを最適化する二重露光制御を備えており、携帯電話および紙上のバーコードを読み取るのに適しています。



PAPSPC.

Streaming Presentation - Mobile Phone (ス
トリーミング・プレゼンテーション—携帯電
話)

注： 携帯電話読み取りモードをオフにするには、別のプレゼンテーション・モード設定バーコードをスキャンします。

プレゼンテーション・モード

プレゼンテーション・モード

プレゼンテーション・モードでは、バーコードの検出時に、周囲光とスキャン・エンジンの照明を使用します。プレゼンテーション・モードでは、バーコードがスキャン・エンジンに表示されるまでは LED が暗い状態のままで、バーコードが表示されるとエイマーが点灯し、LED が点灯してコードが読み取られます。室内の照明レベルが十分ではない場合、プレゼンテーション・モードが正しく機能しない場合があります。

スキャン・エンジンをプレゼンテーション・モードにプログラムするには、以下のバーコードをスキャンします。



PAPTPR.

Presentation Mode (プレゼン
テーション・モード)

プレゼンテーション・モード — 最大被写界深度

プレゼンテーション・モードは、多くの場合、近距離でバーコードを読み取る際に使用します。ただし、より遠距離でバーコードを読み取る必要のある場合は、アプリケーションが存在する場合があります。この場合、遠距離でスキャンするときは、Presentation Mode—Full Depth of Field（プレゼンテーション・モード — 最大被写界深度）を使用します。



PAPTPE.
Presentation Mode—Full Depth of Field（プレゼンテーション・モード — 最大被写界深度）

ストリーミング・プレゼンテーション™・モード

ストリーミング・プレゼンテーション・モードでは、スキャン・エンジンのエイマーは短時間で消えますが、スキャン用照明は常にオンのままで、バーコードを継続的に検索します。Normal（標準）モードと Enhanced（拡張）モードの2つのモードがあります。Normal（標準）モードでは、スキャン速度が良好で、動作範囲（被写界深度）が最も長くなります。

Enhanced（拡張）モードでは、最大限のスキャン速度を得られますが、範囲はNormal（標準）モードよりやや小さくなります。Enhanced（拡張）モードは、非常に速いスキャン速度が必要で、長い作業範囲を必要としない場合に最適です。



PAPSPN.
Streaming Presentation Mode - Normal（ストリーミング・プレゼンテーション・モード - 標準）



PAPSPE.
Streaming Presentation Mode - Enhanced（ストリーミング・プレゼンテーション・モード - 拡張）

優先シンボル体系（3～45 ページ）を使用する場合は、ストリーミング・プレゼンテーション・モードで読み込むエイミングパターンの中央に、より優先度の低いシンボルを配置する必要があります。

LED 照明 — プレゼンテーション・モード

照明 LED の明るさを設定するには、以下のバーコードをスキャンします。これにより、プレゼンテーション・モード時のスキャナの LED 照明が設定されます。デフォルト値 = High（高）。

注： LED はカメラのフラッシュに似ています。部屋の周辺光が弱いほど、スキャナでバーコードを読み取れるよう、LED の輝度を上げる必要があります。

注： LED 照明設定を低くすると、グローバル・シャッター・エンジンよりも、ローリング・シャッター・エンジンでユーザーがより見やすくなります。



PWRLDC0.

Off (オフ)



PWRLDC100.

Low (低)



PWRLDC150.

* High (高)

注： LED 照明 — プレゼンテーション・モードは、[ストリーミング・プレゼンテーション™](#)・モードまたは[携帯電話読み取りモード](#)には適用されません。

アイドル照明 — プレゼンテーション・モード

注： この設定は N360X シリーズではサポートされていません。

プレゼンテーション・モード中にアイドル状態でスキャナの LED 照明を設定するには、以下のバーコードを読み取ります。デフォルト値 = High (高)。

注： アイドル照明設定が低く、周囲光が十分でない場合、バーコードがスキャナに表示されたときに検出が困難になることがあります。バーコードの読み取り時にスキャナの「復帰」が困難な場合は、アイドル照明を明るく設定する必要がある場合があります。



PWRIDL0.

Off (オフ)



PWRIDL7.

Low (低)



PWRIDL15.

Medium (中)



PWRIDL50.

* High (高)

デコード後のプレゼンテーション LED 挙動

スキャン・エンジンがプレゼンテーション・モードに設定されている場合、バーコードがデコードされてから 30 秒後に LED が暗くなります。バーコードがデコードされた直後に LED を暗くしたい場合は、以下の **LEDs Off (LED オフ)** バーコードをスキャンします。デフォルト値 = **LEDs On (LED オン)**。



TRGPCK1.

* LEDs On (LED オン)



TRGPCK0.

LEDs Off (LED オフ)

プレゼンテーション感度

プレゼンテーション感度とは、バーコード表示に対するスキャン・エンジンの反応時間を増減させる数値範囲です。感度を設定するには、**Sensitivity (感度)** バーコードをスキャンしてから、裏表紙裏のいずれかの感度 (0~20) をスキャンした後、**Save (保存)** をスキャンします。0 は最も高い感度設定であり、20 は最も低い感度設定です。デフォルト値 = 1。



TRGPMS.

Sensitivity (感度)

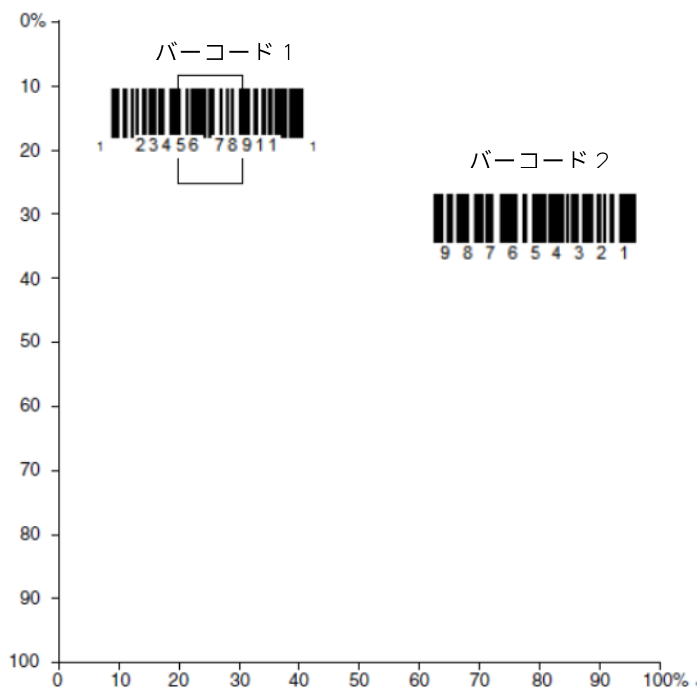
プレゼンテーション・センタリング

スキャナをスタンドに装着したときに、ユーザーの意図するバーコードだけが読み取られるようにスキャナの読み取りエリアを狭めるには、プレゼンテーション・センタリングを使用します。たとえば、複数のコードが互いに近接している場合に、プレゼンテーション・センタリングを使用することで、目的のコードだけが読み取られるようになります。

注： ハンドヘルドのスキャナでセンタリングを調整するには[センタリング](#) (3~43 ページ) を参照してください。

事前定義されたウィンドウにバーコードが触れない場合、スキャナによるデコードも出力も行われません。**Presentation Centering On (プレゼンテーション・センタリング・オン)** をスキャンしてプレゼンテーション・センタリングをオンにした場合、**Top of Presentation Centering Window (プレゼンテーション・センタリング・ウィンドウ上辺)**、**Bottom of Presentation Centering Window (プレゼンテーション・センタリング・ウィンドウ下辺)**、**Left of Presentation Centering Window (プレゼンテーション・センタリング・ウィンドウ左辺)**、および **Right of Presentation Centering Window (プレゼンテーション・センタリング・ウィンドウ右辺)** の各バーコードで指定したセンタリング・ウィンドウを通過するコードのみがスキャナで読み取られます。

以下の例では、白いボックスがセンタリング・ウィンドウです。センタリング・ウィンドウは左側 20%、右側 30%、上側 8%、下側 25%に設定されています。バーコード 1 はセンタリング・ウィンドウを通過するため、読み取られます。バーコード 2 はセンタリング・ウィンドウを通過しないため、読み取られません。



注： バーコードはセンタリング・ウィンドウに触れると読み取られます。バーコードがセンタリング・ウィンドウを完全に通過する必要はありません。

センタリング・ウィンドウの上辺、下辺、左辺、または右辺を変更するには、**Presentation Centering On** (プレゼンテーション・センタリング・オン) をスキャンしてから、以下のいずれかのバーコードをスキャンします。次に、本マニュアル裏表紙裏の数字を使用して、センタリング・ウィンドウの位置を変更する割合をスキャンします。**Save** (保存) をスキャンします。プレゼンテーション・センタリングのデフォルト値 = 40% (上辺および左辺)、60% (下辺および右辺)。



PDCWIN1.

Presentation Centering On (プレゼンテーション・センタリング・オン)



PDCWIN0.

* Presentation Centering Off (プレゼンテーション・センタリング・オフ)



PDCTOP.

Top of Presentation Centering Window (プレゼンテーション・センタリング・ウィンドウ上辺)



PDCBOT.

Bottom of Presentation Centering Window (プレゼンテーション・センタリング・ウィンドウ下辺)



PDCLFT.

Presentation Centering Window (プレゼンテーション・センタリング・ウィンドウ)



PDCRGT.

Right of Presentation Centering Window (プレゼンテーション・センタリング・ウィンドウ 右辺)

CodeGate®

CodeGate が **On (オン)** の場合、トリガーを使用することにより、デコード済みデータをホストシステムに送信できるようになります。スキャナはオン状態を保ち、バーコードのスキャンおよびデコードは行われますが、トリガーが押されるまでバーコード・データは送信されません。CodeGate が **Off (オフ)** の場合は、デコード時にバーコード・データが送信されます。デフォルト = CodeGate Off Out-of- Stand (CodeGate オフ、スタンド不使用時)



AOSCGD0.

* CodeGate Off Out-of- Stand (CodeGate オフ、スタンド不使用時)



AOSCGD1.

* CodeGate On Out-of- Stand (CodeGate オン、スタンド不使用時)

文字有効化モード

ホストから送信される文字によってスキャン・エンジンをトリガーして、スキャンを開始できます。有効化文字を受信すると、**文字有効化タイムアウト** (3~38 ページ) になるか、無効化文字を受信するか (39 ページの**無効化文字**を参照)、バーコードを送信するまで、スキャン・エンジンがスキャンを継続します。文字有効化を使用するには、以下の **On (オン)** バーコードをスキャンしてから、**有効化文字** (下記) を使用して、スキャン開始のためにホストから送信する文字を選択します。デフォルト値 = Off (オフ)。



HSTACH.

Activation Character (有効化文字)



HSTCEN0.

* Off (オフ)



HSTCEN1.

On (オン)

有効化文字

文字有効化モードでスキャン開始のために使用する文字を設定します。212 ページの [ASCII 変換表 \(コードページ 1252\)](#) で、スキャン開始のために使用する文字を表す 16 進値を見つけます。以下のバーコードをスキャンしてから、その ASCII 文字を表す英数字の組み合わせを [プログラミング・チャート](#) で読み取ります。Save (保存) をスキャンして終了します。デフォルト値 = 12 [DC2]。



HSTACH.

Activation Character (有効化文字)

読み取り成功後に文字有効化を終了

スキャン・エンジンでバーコードの検出および読み取りに成功した後、照明をオンのままにしてスキャンを継続するか、照明をオフにするかをプログラムできます。End Character Activation After Good Read (読み取り成功後に文字有効化を終了) を有効にすると、読み取り成功後に照明はオフになりスキャンが停止します。Do Not End Character Activation After Good Read (読み取り成功後に文字有効化を終了しない) をスキャンすると、読み取り成功後も照明はオン状態のままになります。デフォルト = Do Not End Character Activation After Good Read (読み取り成功後に文字有効化を終了しない)。



HSTCGD0.

* Do Not End Character
Activation After Good Read
(読み取り成功後に文字有効化
を終了しない)



HSTCGD1.

End Character Activation After
Good Read (読み取り成功後に
文字有効化を終了)

文字有効化タイムアウト

文字有効化モードの使用時に照明をオンのままにしてバーコードのデコードを試行する時間を表す、タイムアウトを設定できます。タイムアウトの時間 (ミリ秒単位) を設定するには、下記のバーコードをスキャンしてから、本マニュアル裏表紙裏の [プログラミング・チャート](#) にある数字をスキャンしてタイムアウト (1 ~ 300,000 ミリ秒) を設定した後で、Save (保存) をスキャンします。デフォルト値 = 30,000ms。



HSTCDT.

文字有効化タイムアウト

文字無効化モード

ホストから文字を送信することによってスキャン・エンジンをトリガーしてスキャンを開始した場合は、無効化文字を送信してスキャンを停止することもできます。文字無効化を使用するには、以下の **On (オン)** バーコードをスキャンしてから、無効化文字（下記参照）を使用して、スキャン終了のためにホストから送信する文字を選択します。デフォルト値 = *Off (オフ)*。



HSTDEN0.

* *Off (オフ)*



HSTDEN1.

On (オン)

無効化文字

文字無効化モードでスキャン終了のために使用する文字を設定します。212 ページの [ASCII 変換表 \(コードページ 1252\)](#) で、スキャン終了のために使用する文字を表す 16 進値を見つけます。以下のバーコードをスキャンしてから、本マニュアル裏表紙裏の [プログラミング・チャート](#) を使用して、その ASCII 文字を表す英数字の組み合わせを読み取ります。Save (保存) をスキャンして終了します。デフォルト値 = 14 [DC4]。



HSTDCH.

Deactivation Character (無効化文字)

低品質コード

低品質 1 次元コード

この設定を使用すると、損傷したりニアバーコードや印刷状態の悪いニアバーコードを読み取る機能が向上します。**Poor Quality 1D Reading On (低品質 1 次元読み取りオン)** をスキャンすると、低品質のニアバーコードの読み取り機能は向上しますが、スキャナの機敏性は低下するため、高品質のバーコードを読み取る際の生産性が低くなります。この設定は、2次元バーコードの読み取りには影響しません。デフォルト値 = *Poor Quality 1D Reading Off* (低品質 1 次元読み取りオフ)。



DECLDI1.

Poor Quality 1D Reading On (低品質 1 次元読み取りオン)



DECLDI0.

* Poor Quality 1D Reading Off (低品質 1 次元読み取りオフ)

低品質 PDF バーコード

この設定を使用すると、複数の画像の情報を組み合わせることにより、損傷した PDF バーコードや印刷状態の悪い PDF バーコードを読み取る機能が向上します。**Poor Quality PDF On (低品質 PDF 読み取りオン)** をスキャンすると、低品質の PDF バーコードの読み取り機能は向上しますが、スキャナの機敏性は低下するため、高品質のバーコードを読み取る際の生産性が低くなります。この設定は、1次元バーコードの読み取りには影響しません。デフォルト値 = *Poor Quality PDF Reading Off* (低品質 PDF 読み取りオフ)。



PDFXPR1.

Poor Quality PDF Reading On (低品質 PDF 読み取りオン)



PDFXPR0.

* Poor Quality PDF Reading Off (低品質 PDF 読み取りオフ)

デコードのセキュリティ

損傷したコード、印刷エラー、およびアンダーサンプリングの取り扱いに対応するための、Code 39、UPC、および Code 128 の堅牢かつ積極的な処理です。**Very High Reading Tolerance (読み取り許容レベル：非常に高い)** は、最も許容レベルの高いモードです。この設定を有効にすると、スキャナでさまざまな品質のコードを読み取ることができます。**Low Reading Tolerance (読み取り許容レベル：低)** は、最も許容レベルの低いモードです。デフォルト値 = *Medium Reading Tolerance* (読み取り許容レベル：中)。



DECSEC0.

Very High Reading Tolerance (読み取り許容
レベル：非常に高い)



DECSEC1.

High Reading Tolerance (読み取り許容レベ
ル：高)



DECSEC2.

* Medium Reading Tolerance (読み取り許容
レベル：中)



DECSEC3.

Low Reading Tolerance (読み取り許容レベ
ル：低)

デコードタイムアウト

この設定は、全体的なデコードタイムアウトを定義します。単位はミリ秒です。

Decode Time-Out (デコードタイムアウト) バーコードをスキャンし、裏表紙裏で 0~2,500ms のタイムアウト時間をスキャンし、**Save (保存)** をスキャンします。デフォルト値 = 800ms。



DECTMX.

Decode Time-Out (デコードタ
イムアウト)

再読み取り遅延

スキャン・エンジンで同じバーコードを再度読み取れるようになるまでの時間を設定します。再読み取り遅延を設定することで、同じバーコードを誤って再読み取りするのを防げます。不測の再読み取りを最小限に抑えるには、遅延時間を長くすることが有効です。バーコードを繰り返しスキャンする必要がある場合は、アプリケーションの遅延時間を短くしてください。再読み取り遅延は**プレゼンテーション・モード**でのみ機能します (32 ページを参照)。デフォルト値 = *Medium (中)*。



DLYRRD500.

Short (500 ms) (短 [500ms])



DLYRRD750.

* Medium (750 ms) (中 [750ms])



DLYRRD1000.

Long (1000 ms) (長 [1,000ms])



DLYRRD2000.

Extra Long (2000 ms) (極長 [2,000ms])

ユーザー指定の再読み取り遅延

再読み取り時の遅延の長さを独自に設定したい場合は、以下のバーコードをスキャンして、裏表紙裏の数値をスキャンして遅延 (0~30,000 ミリ秒) を設定し、その後 Save (保存) バーコードをスキャンします。



DLYRRD.

User-Specified Reread Delay (ユーザー指定の再読み取り遅延)

2D Reread Delay (2次元再読み取り遅延)

2次元バーコードの読み取りには他のバーコードより時間がかかることがあります。2次元バーコード用に別の再読み取り遅延を設定するには、以下のプログラミング・コードのいずれかをスキャンします。**2D Reread Delay Off (2次元再読み取り遅延オフ)** では、[再読み取り遅延](#)に設定した時間が1次元バーコードと2次元バーコードの両方に使用されます。デフォルト値 = 2D Reread Delay Off (2次元再読み取り遅延オフ)。



DLY2RR0.

* 2D Reread Delay Off (2次元再読み取り遅延オフ)



DLY2RR1000.

Short (1000ms) (短 [1,000ms])



DLY2RR2000.

Medium (2000ms) (中 [2,000ms])



DLY2RR3000.

Long (3000ms) (長 [3,000ms])



DLY2RR4000.

Extra Long (4000ms) (極長 [4,000ms])

照明

バーコードの読み取り時に照明を点けたい場合は、以下の **Lights On** (照明オン) または **Lights On - Mobile Phone Reading** (照明オン - 携帯電話読み取り) バーコードをスキャンします。照明のみをオフにしたい場合は、**Lights Off** (照明オフ) バーコードをスキャンします。デフォルト値 = **Lights On** (照明オン)。

注： この設定は、エイマーの照明には影響しません。エイミングの照明は[センタリング](#) (43 ページ) で設定できます。



SCNLED1.

* Lights On (照明オン)



SCNLED0.

Lights Off (照明オフ)



SCNLED3.

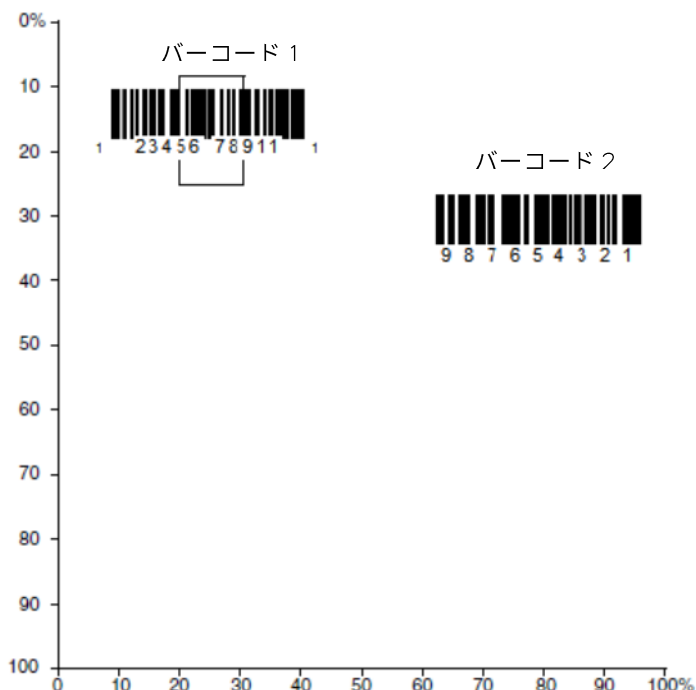
Lights On - Mobile Phone
Reading (照明オン - 携帯電話
読み取り)

センタリング

ハンドヘルドのスキナで、ユーザーの意図するバーコードだけが読み取られるようにスキャン・エンジンの読み取りエリアを狭めるには、センタリングを使用します。たとえば、複数のコードが互いに近接している場合に、センタリングを使用することで、目的のコードだけが読み取られるようになります。

事前定義されたウィンドウにバーコードが触れない場合、スキャン・エンジンによるデコードも出力も行われません。**Centering On** (センタリング・オン) をスキャンしてセンタリングをオンにすると、スキャン・エンジンは、**Top of Centering Window** (センタリング・ウィンドウ上辺) または **Bottom of Centering Window** (センタリング・ウィンドウ下辺) バーコードで指定されたセンタリング・ウィンドウを通過するコードのみを読み込みます。

以下の例では、白いボックスがセンタリング・ウィンドウです。センタリング・ウィンドウは上側 8%、下側 25%に設定されています。バーコード 1 はセンタリング・ウィンドウを通過するため、読み取られます。バーコード 2 はセンタリング・ウィンドウを通過しないため、読み取られません。



バーコードはセンタリング・ウィンドウに触れると読み取られます。バーコードがセンタリング・ウィンドウを完全に通過する必要はありません。

センタリング・ウィンドウの上辺および下辺を変更するには、**Centering On** (センタリング・オン) をスキャンしてから、以下のいずれかのバーコードをスキャンします。次に、本マニュアル裏表紙裏の数字を使用して、センタリング・ウィンドウの位置を変更する割合をスキャンします。**Save** (保存) をスキャンします。センタリングのデフォルト値 = 上辺 40%、下辺 60%。



DECWIN1.

Centering On (センタリング・オン)



DECWIN0.

* Centering Off (センタリング・オフ)



DECTOP.

Top of Centering Window (センタリング・ウィンドウ上辺)



DECBOT.

Bottom of Centering Window (センタリング・ウィンドウ下辺)

優先シンボル体系

複数のバーコード・シンボルが同じラベル上に表示され、かつ、優先度の低いシンボル体系を無効にできない場合、特定のシンボル体系の優先度を他のシンボル体系よりも高く指定するよう、スキャン・エンジンをプログラムできます。

たとえば、小売店の設定でスキャナを使用してUPCシンボルを読み取るときに、時折、ドライバライセンスでコードを読み取る必要があるとします。ライセンスによっては、Code 39シンボルやPDF417シンボルが含まれているため、そのような場合は、優先シンボル体系を使用し、Code 39の代わりにPDF417シンボルを読み取るように指定できます。

優先シンボル体系では、各シンボル体系が、高優先度、低優先度、または未指定タイプのいずれかに分類されます。低優先度シンボル体系が表示されると、スキャナは、そのシンボル体系を一定時間（46ページの**優先シンボル体系のタイムアウト**を参照）無視し、高優先度シンボル体系を検索します。この時間内に高優先度シンボル体系が見つかった場合、即座にそのデータが読み取られます。

高優先度シンボル体系が読み取られる前にタイムアウト時間が経過すると、スキャナはその読み取りエリア内のバーコード（低優先度か未指定）を読み取ります。タイムアウト時間が経過してもスキャナの読み取りエリアにバーコードがない場合、データは報告されません。

注： 低優先度のシンボル体系は、読み取るエイミングパターンの中心に合わせる必要があります。

優先シンボル体系を有効化または無効化するには、以下のバーコードをスキャンします。デフォルト値 = Preferred Symbology Off（優先シンボル体系オフ）



Preferred Symbology On（優先シンボル体系オン）



* Preferred Symbology Off（優先シンボル体系オフ）

高優先度シンボル体系

高優先度のシンボル体系を指定するには、以下の High Priority Symbology（高優先度シンボル体系）バーコードをスキャンします。209ページの**シンボル体系表**で、優先度を高く設定したいシンボル体系を探します。そのシンボル体系の16進値を見つけ、2桁の16進値を**プログラミング・チャート**（裏表紙裏）でスキャンします。選択を保存するには、Save（保存）をスキャンします。デフォルト値 = None（なし）。



High Priority Symbology（高優先度シンボル体系）

低優先度シンボル体系

低優先度のシンボル体系を指定するには、以下の Low Priority Symbology (低優先度シンボル体系) バーコードをスキャンします。209 ページの [シンボル体系表](#) で、優先度を低く設定したいシンボル体系を探します。そのシンボル体系の 16 進値を見つけ、2 桁の 16 進値をプログラミング・チャート (裏表紙裏) でスキャンします。

低優先度シンボル体系を追加設定する場合は、FF をスキャンしてから、次のシンボル体系に対応する 2 桁の 16 進値をプログラミング・チャートでスキャンします。低優先度シンボル体系は、最大 5 つまでプログラムできます。選択を保存するには、Save (保存) をスキャンします。デフォルト値 = None (なし)。



Low Priority Symbology (低優先度シンボル体系)

優先シンボル体系タイムアウト

優先シンボル体系を有効にし、高優先度シンボル体系と低優先度シンボル体系を入力したら、タイムアウト時間を設定する必要があります。これは、低優先度バーコードが検出された後、スキャン・エンジンが高優先度バーコードを検索する時間の長さです。下記のバーコードをスキャンしてから、裏表紙裏の数字をスキャンして遅延時間 (1~3,000 ミリ秒) を設定し、Save (保存) をスキャンします。デフォルト値 = 500ms。



Preferred Symbology Time-out (優先シンボル体系タイムアウト)

優先シンボル体系のデフォルト設定

すべての優先シンボル体系の入力をデフォルト値に設定するには、以下のバーコードを読み取ります。



Preferred Symbology Default (優先シンボル体系のデフォルト設定)

出力シーケンスの概要

出力シーケンス・エディタ

このプログラミングを選択すると、複数のシンボルをスキャンする場合、バーコードのスキャン順序に関係なく、アプリケーションが必要とする順序でデータを出力するよう、スキャン・エンジンをプログラムできます。**Default Sequence** (デフォルト・シーケンス) シンボルを読み取ると、スキャン・エンジンは次のような汎用値にプログラムされます。これらはデフォルトです。**Default Sequence** (デフォルト・シーケンス) シンボルを読み込む前に、すべてのフォーマットを削除またはクリアして問題ないか確認してください。

注： 出力シーケンス・エディタを選択するには、アプリケーションに必要なコードID、コード長、および文字一致を把握しておく必要があります。これらのオプションを読み込むには、英数字シンボル（裏表紙裏）を使用します。シーケンス内の各バーコードを読み取るときは、トリガーを常に握っている必要があります。

出力シーケンスの追加

1. **Enter Sequence**（シーケンスを入力）シンボルをスキャンします（50 ページの「出力シーケンスの必須化」を参照）。
2. **コード ID**
209 ページのシンボル体系表で、出力シーケンス・フォーマットを適用するシンボル体系を特定します。そのシンボル体系の 16 進値を見つけ、2 桁の 16 進値をプログラミング・チャート（裏表紙裏）でスキャンします。
3. **長さ**
このシンボル体系で対応可能なデータ出力の長さ（最大 9999 文字）を指定します。プログラミング・チャートで、4 桁のデータ長をスキャンします。（注：50 文字の場合は 0050 と入力します。9999 は、任意の長さを表す汎用の数値です）。長さを計算するときは、プログラムされたプレフィックスとサフィックス、およびフォーマットされた文字のすべてを、長さの一部として含める必要があります（9999 を使用しない場合）。
4. **文字一致シーケンス**
212 ページの ASCII 変換表（コードページ 1252）で、一致させたい文字を表す 16 進値を見つけます。その ASCII 文字を表す英数字の組み合わせをプログラミング・チャートで読み取ります。（99 は、すべての文字を表す汎用の数値です）。
5. **出力シーケンス・エディタの終了**
FF をスキャンして追加するシンボル体系の出力シーケンスを入力するか、Save（保存）をスキャンして入力を保存します。

その他のプログラミング選択項目

- **Discard（破棄）**
この項目を選択すると、出力シーケンスの変更を保存せずに終了します。

出力シーケンスの例

この例では、Code 93、Code 128、および Code 39 のバーコードをスキャンした後、以下のように、Code 39 を 1 番目、Code 128 を 2 番目、Code 93 を 3 番目にスキャナから出力させます。

注： この例を使用するには、Code 93 を有効にする必要があります。



A - Code 39



B - Code 128



C - Code 93

次のコマンドラインを使用して、シーケンス・エディタを設定します。

SEQBLK62999941FF6A999942FF69999943FF

SEQBLK	シーケンス・エディタ開始コマンド
62	Code 39 のコード識別子
9999	Code 39 に一致させるコード長。9999 = すべての長さ
41	Code 39 の開始文字一致。41h = 「A」
FF	最初のコードの終端文字列
6A	Code 128 のコード識別子
9999	Code 128 に一致させるコード長。9999 = すべての長さ
42	Code 128 の開始文字一致。42h = 「B」
FF	2 番目のコードの終端文字列
69	Code 93 のコード識別子
9999	Code 93 に一致させるコード長。9999 = すべての長さ
43	Code 93 の開始文字一致。43h = 「C」
FF	3 番目のコードの終端文字列

特定の長さを使用して上述の例をプログラムするには、プログラムされたプレフィックスとサフィックス、およびフォーマットされた文字のすべてを、長さの一部として含める必要があります。48 ページの例で、<CR>サフィックスと特定のコード長を仮定する場合は、次のコマンドラインを使用します。

SEQBLK62001241FF6A001342FF69001243FF

SEQBLK	シーケンス・エディタ開始コマンド
62	Code 39 のコード識別子
0012	A - Code 39 のサンプル長 (11) + CR サフィックス (1) = 12

41	Code 39 の開始文字一致。41h = 「A」
FF	最初のコードの終端文字列
6A	Code 128 のコード識別子
0013	B - Code 128 のサンプル長 (12) + CR サフィックス (1) = 13
42	Code 128 の開始文字一致。42h = 「B」
FF	2 番目のコードの終端文字列
69	Code 93 のコード識別子
0012	C - Code 93 のサンプル長 (11) + CR サフィックス (1) = 12
43	Code 93 の開始文字一致。43h = 「C」
FF	3 番目のコードの終端文字列

出力シーケンス・エディタ



Enter Sequence (入力シーケ
ンス)



Default Sequence (デフォル
ト・シーケンス)

部分シーケンス

出力シーケンス条件がすべて満たされる前に出力シーケンス動作が中断されると、その時点までに取得されたバーコード・データは「部分シーケンス」になります。

出力シーケンス動作が完了前に中断された場合、部分シーケンスを破棄するには、**Discard Partial Sequence (部分シーケンスを破棄)** をスキャンします。部分シーケンスを送信するには、**Transmit Partial Sequence (部分シーケンスを送信)** をスキャンします。(データの一致が発生しなかったシーケンスのフィールドはすべて、出力時にスキップされます。)



Transmit Partial Sequence
(部分シーケンスを送信)



* Discard Partial Sequence
(部分シーケンスを破棄)

出力シーケンスの必須化

出力シーケンスが **Required (必須)** の場合、すべての出力データが、編集されたシーケンスと一致している必要があります。それ以外の場合、スキャン・エンジンは出力データをホストデバイスに送信しません。**On/Not Required (オン/必須ではない)** の場合、スキャン・エンジンは、出力データを、編集されたシーケンスと一致させようと試みます。それができない場合、スキャン・エンジンは、すべての出力データをそのままホストデバイスに送信します。

出力シーケンスが **Off (オフ)** の場合、スキャン・エンジンがバーコード・データをデコードするときに、バーコード・データがホストに出力されます。デフォルト値 = **Off (オフ)**。

注： 「複数シンボルの選択」がオンになっていると、このオプションは選択できません。



SEQ_EN2.

Required (必須)



SEQ_EN1.

On/Not Required (オン/必須
ではない)



SEQ_EN0.

* Off (オフ)

複数シンボル

このプログラミング・オプションを **On (オン)** にすると、スキャナのトリガーONの状態では複数のシンボルを読み取ることができます。スキャナを一連のシンボルに向けると、各シンボルが1回ずつ読み取られ、読み取りごとにビーブ音（オンになっている場合）が鳴ります。スキャナは、トリガーONの間は常に、新しいシンボルを見つけてデコードしようとしています。このプログラミング・オプションを **Off (オフ)** にすると、エイミングビームに最も近いシンボルのみがスキャナで読み取られます。デフォルト値 = **Off (オフ)**。



SHOTGN1.

On (オン)



SHOTGN0.

* Off (オフ)

No Read (読み取りなし)

No Read (読み取りなし) を **On (オン)** にすると、スキャン・エンジンはコードを読み取れない場合にユーザーに通知します。EZConfig for Scanning のツール・スキャン・データ・ウィンドウ (173 ページを参照) を使用している場合、コードを読み取れないときに「NR」が表示されます。No Read (読み取りなし) を **Off (オフ)** にすると、「NR」は表示されません。デフォルト値 = Off (オフ)。



SHWNRD1.

On (オン)



SHWNRD0.

* Off (オフ)

「NR」ではなく「Error」(エラー) や「Bad Code」(異常なコード) などの別の表記にしたい場合は、出力メッセージを編集できます (5~59 ページ以降の「データ・フォーマット」を参照)。No Read (読み取りなし) のシンボルの 16 進数コードは 9C です。

Video Reverse (ビデオ・リバース)

ビデオ・リバースを使用すると、反転したバーコードをスキャン・エンジンで読み取ることができます。下記の **Video Reverse Off (ビデオ・リバース・オフ)** バーコードは、このようなバーコードの一例です。反転したバーコードだけを読み取るには、**Video Reverse Only (ビデオ・リバースのみ)** をスキャンします。両方のタイプのバーコードを読み取るには、**Video Reverse and Standard Bar Codes (ビデオ・リバースおよび標準のバーコード)** をスキャンします。

注： **Video Reverse Only (ビデオ・リバースのみ)** をスキャンした後に、メニュー・バーコードを読み取ることはできません。メニュー・バーコードを読み取るには、**Video Reverse Off (ビデオ・リバース・オフ)** または **Video Reverse and Standard Bar Codes (ビデオ・リバースおよび標準のバーコード)** をスキャンする必要があります。

注： ユニットからダウンロードした画像は反転していません。これは、デコード専用の設定です。



VIDLDP0.

* Video Reverse Off (ビデオ・リバース・オフ)

)



VIDLDP1.

Video Reverse Only (ビデオ・リバースのみ)



VIDLDP2.

Video Reverse and Standard Bar Codes (ビデオ・リバースおよび標準のバーコード)

オ・リバースおよび標準のバーコード)

Working Orientation (読み取り方向)

バーコードによっては、読み取り方向の影響を受けるものがあります。たとえば、KIX コードや OCR は、横からまたは上下逆さまにスキャンすると誤読が発生する場合があります。読み取り方向の影響を受けるコードが、スキャナに対して常に直立で提示されない場合は、読み取り方向を設定します。デフォルト値 = Upright (直立)。

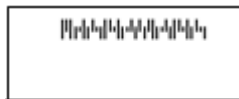
Upright (直立) :



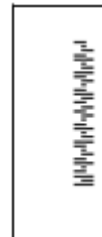
Vertical, Top to Bottom (垂直、先頭上) : (時計回りに 90° 回転)



Upside Down (上下反対) :



Vertical, Bottom to Top (垂直、先頭下) : (反時計回りに 90° 回転)



ROTATN0.

* Upright (直立)



ROTATN1.

Vertical, Bottom to Top (垂直、先頭下)



ROTATN2.

Upside Down (上下反対)



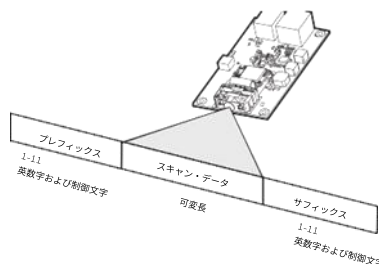
ROTATN3.

Vertical, Top to Bottom (垂直、先頭上)

プレフィックス／サフィックスの概要

バーコードをスキャンすると、バーコード・データとともに、追加情報がホスト・コンピュータに送信されます。このバーコード・データと追加のユーザー定義データの集まりを「メッセージ文字列」と呼びます。このセクションに示す選択項目は、メッセージ文字列にユーザー定義データを組み込むために使用されます。

プレフィックス文字およびサフィックス文字は、スキャンされたデータの前後に送信できるデータ文字列です。すべてのシンボル体系に付加して送信するか、特定のシンボル体系にのみ付加して送信するかを指定できます。以下の図は、メッセージ文字列の内訳を示しています。



注意点

- メッセージ文字列の構築は必須ではありません。この章に示す選択項目は、デフォルト設定を変更したい場合にのみ使用してください。プレフィックスのデフォルト値 = None (なし)。サフィックスのデフォルト値 = None (なし)。
- プレフィックスまたはサフィックスの追加またはクリアは、1つのシンボル体系のみ、またはすべてのシンボル体系に対して行うことができます。
- 212 ページ以降の [ASCII 変換表 \(コードページ 1252\)](#) から任意のプレフィックスまたはサフィックスを追加でき、またコード ID と AIM ID も追加できます。
- 一度に複数のシンボル体系に対して複数の入力をつなげることもできます。
- 出力に表示したい順にプレフィックスとサフィックスを入力します。

- (すべてのシンボル体系ではなく) 特定のシンボル体系に対して設定を行う場合、特定のシンボル体系の ID 値は、追加されたプレフィックス文字またはサフィックス文字として扱われます。
- プレフィックスまたはサフィックス設定の最大サイズは、200 文字です (ヘッダー情報を含む)。

プレフィックスまたはサフィックスを追加するには

- 手順 1. **Add Prefix (プレフィックスを追加)** または **Add Suffix (サフィックスを追加)** シンボル (55 ページ) をスキャンします。
- 手順 2. プレフィックスまたはサフィックスを適用するシンボル体系の 2 桁の 16 進値を、シンボル体系表 (209 ページ以降の「[シンボル体系表](#)」に記載) で特定します。たとえば、Code 128 の場合、コード ID は「j」で、16 進数 ID は「6A」です。
- 手順 3. 本マニュアルの裏表紙裏に記載されている [プログラミング・チャート](#) で、この 2 桁の 16 進値をスキャンします。すべてのシンボル体系の場合は 9、9 をスキャンします。
- 手順 4. 212 ページ以降の [ASCII 変換表 \(コードページ 1252\)](#) から 16 進値を決定します。

注: コード ID を追加するには、5、C、8、0 をスキャンします。
 AIM ID を追加するには、5、C、8、1 をスキャンします。
 バックスラッシュ (¥) を追加するには、5、C、5、C をスキャンします。
 手順 7 のようにバックスラッシュ (¥) を追加するには、5C を 2 回スキャンする必要があります。1 回目は先行バックスラッシュを作成するため、2 回目はバックスラッシュ自体を作成するためです。

- 手順 5. 本マニュアルの裏表紙裏に記載されている [プログラミング・チャート](#) で、この 2 桁の 16 進値をスキャンします。
- 手順 6. すべてのプレフィックス文字またはサフィックス文字について、手順 4 と 5 を繰り返します。
- 手順 7. 保存して終了するには **Save (保存)** をスキャンし、保存しないで終了するには **Discard (破棄)** をスキャンします。

別のシンボル体系にプレフィックスまたはサフィックスを追加するには、手順 1～6 を繰り返してください。

例：すべてのシンボル体系にタブ・サフィックスを追加する

- 手順 1. **Add Suffix (サフィックスを追加)** をスキャンします。
 - 手順 2. このサフィックスをすべてのシンボル体系に適用するには、本マニュアルの裏表紙裏に記載されている [プログラミング・チャート](#) から 9、9 をスキャンします。
 - 手順 3. 本マニュアル裏表紙裏の [プログラミング・チャート](#) から 0、9 をスキャンします。これは、212 ページ以降の [ASCII 変換表 \(コードページ 1252\)](#) に示す水平タブの 16 進値に一致します。
- Save (保存)** をスキャンするか、保存しないで終了するには **Discard (破棄)** をスキャンします。

1 つまたはすべてのプレフィックスまたはサフィックスをクリアする

シンボル体系のプレフィックスまたはサフィックスは、1 つまたはすべてクリアできます。単一のシンボル体系にプレフィックスおよびサフィックスを入力した場合、**Clear One Prefix (Suffix)** (1 つのプレフィックス (サフィックス) をクリア) を使用すると、シンボル体系から特定の文字を削除できます。**Clear All Prefixes (Suffixes)** (すべてのプレフィックス (サフィックス) をクリア) を使用すると、シンボル体系のプレフィックスまたはサフィックスがすべて削除されます。

- 手順 1. **Clear One Prefix** (1 つのプレフィックスをクリア) または **Clear One Suffix** (1 つのサフィックスをクリア) シンボルをスキャンします。
- 手順 2. プレフィックスまたはサフィックスをクリアしたいシンボル体系の 2 桁の 16 進値を、シンボル体系表 (209 ページ以降の「[シンボル体系表](#)」に記載) で特定します。
- 手順 3. 本マニュアルの裏表紙裏に記載されている [プログラミング・チャート](#) で、この 2 桁の 16 進値をスキャンします。すべてのシンボル体系の場合は **9、9** をスキャンします。

変更内容は自動的に保存されます。

すべてのシンボル体系にキャリッジ・リターン・サフィックスを追加する

すべてのシンボル体系にキャリッジ・リターン・サフィックスを一括で追加する場合は、以下のバーコードをスキャンします。この操作では、最初に現在のサフィックスがすべてクリアされ、次にすべてのシンボル体系に対してキャリッジ・リターン・サフィックスがプログラムされます。



Add CR Suffix All Symbologies (すべてのシンボル体系に CR サフィックスを追加)

プレフィックスの選択項目



Add Prefix (プレフィックスを追加)



Clear One Prefix (1 つのプレフィックスをクリア)



Clear All Prefixes (すべてのプレフィックスをクリア)

サフィックスの選択項目



SUFBK2.

Add Suffix (サフィックスを追加)



SUFCL2.

Clear One Suffix (1つのサフィックスをクリア)



SUFCA2.

Clear All Suffixes (すべてのサフィックスをクリア)

Function Code Transmit (ファンクション・コードの送信)

この選択が有効になっているときに、スキャンしたデータ内にファンクション・コードが含まれていた場合、スキャン・エンジンから端末にファンクション・コードが送信されます。これらのファンクション・コードの一覧は、[212 ページ](#)以降の [ASCII 変換表 \(コードページ 1252\)](#) に記載されています。スキャナがキーボードウェッジモードの場合、スキャンコードは送信前にキーコードに変換されます。デフォルト値 = Enable (有効)。



RMVFNC0.

* Enable (有効)



RMVFNC1.

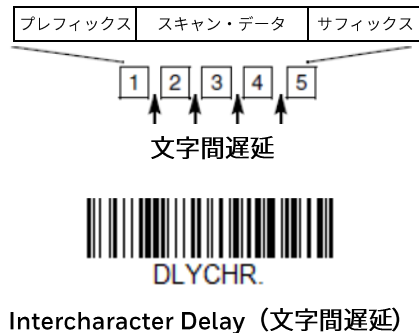
Disable (無効)

文字間、ファンクション間、およびメッセージ間の遅延

端末によっては、データの着信が速すぎると情報（文字）が失われることがあります。文字間、ファンクション間、およびメッセージ間の遅延を使用すると、データの送信速度を下げてもデータの整合性を高めることができます。

文字間遅延

スキャンされたデータを送信するときに、各文字の間に最大 5,000 ミリ秒 (5ms 単位) の文字間遅延を挿入できます。下記の **Intercharacter Delay (文字間遅延)** バーコードをスキャンしてから、本マニュアルの裏表紙裏に記載されている **プログラミング・チャート** で 5ms の遅延の回数をスキャンし、**Save (保存)** バーコードをスキャンします。



この遅延を削除するには、**Intercharacter Delay (文字間遅延)** バーコードをスキャンしてから、遅延の回数を 0 に設定します。本マニュアル裏表紙裏の **プログラミング・チャート** を使って **Save (保存)** バーコードを読み込みます。

注： 文字間遅延は、USB シリアル・エミュレーションでは使用できません。

ユーザー指定の文字間遅延

スキャンされたデータを送信するときに、特定の文字の後に最大 5,000 ミリ秒 (5ms 単位) の文字間遅延を挿入できます。下記の **Delay Length (遅延時間)** バーコードをスキャンしてから、本マニュアルの裏表紙裏に記載されている **プログラミング・チャート** で 5ms の遅延の回数をスキャンし、**Save (保存)** バーコードをスキャンします。

次に、Character to Trigger Delay (遅延を発生させる文字) バーコードをスキャンし、212 ページ以降の **ASCII 変換表 (コードページ 1252)** で、遅延をトリガーする ASCII 文字の 2 桁の 16 進値をスキャンします。



Delay Length (遅延時間)

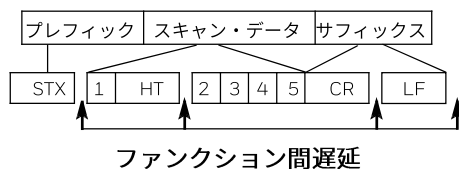


Character to Trigger Delay (遅延を発生させる文字)

この遅延を削除するには、**Delay Length (遅延時間)** バーコードをスキャンしてから、遅延の回数を 0 に設定します。本マニュアル裏表紙裏の **プログラミング・チャート** を使って **Save (保存)** バーコードを読み込みます。

Interfunction Delay (ファンクション間遅延)

メッセージ文字列を送信するときに、各制御文字の間に最大 5,000 ミリ秒 (5ms 単位) のファンクション間遅延を挿入できます。下記の **Interfunction Delay (ファンクション間遅延)** バーコードをスキャンしてから、本マニュアルの裏表紙裏に記載されている **プログラミング・チャート** で 5ms の遅延の回数をスキャンし、**Save (保存)** バーコードをスキャンします。

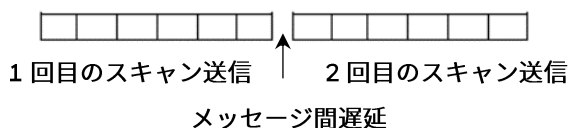


Interfunction Delay (ファンクション間遅延)

この遅延を削除するには、**Interfunction Delay (ファンクション間遅延)** バーコードをスキャンしてから、遅延の回数を 0 に設定します。本マニュアル裏表紙裏の **プログラミング・チャート** を使って **Save (保存)** バーコードを読み込みます。

メッセージ間遅延

スキャンを送信するたびに、最大 5,000 ミリ秒 (5ms 単位) のメッセージ間遅延を挿入できます。下記の **Intermessage Delay (メッセージ間遅延)** バーコードをスキャンしてから、本マニュアルの裏表紙裏に記載されている **プログラミング・チャート** で 5ms の遅延の回数をスキャンし、**Save (保存)** バーコードをスキャンします。



Intermessage Delay (メッセージ間遅延)

この遅延を削除するには、**Intermessage Delay (メッセージ間遅延)** バーコードをスキャンしてから、遅延の回数を 0 に設定します。本マニュアル裏表紙裏の **プログラミング・チャート** を使って **Save (保存)** バーコードを読み込みます。

データ・フォーマット・エディタの概要

データ・フォーマット・エディタを使用して、スキャン・エンジンの出力を変更できます。たとえば、データ・フォーマット・エディタを使用して、スキャン中にバーコード・データの任意の位置に文字を挿入できます。以降のページの選択項目は、出力を変更する場合にのみ使用してください。データ・フォーマット設定のデフォルト値 = None (なし)

通常、バーコードをスキャンするとデータが自動的に出力されます。しかし、フォーマットを作成する場合は、フォーマット・プログラム内で「送信」コマンド (62 ページの「[送信コマンド](#)」を参照) を使用してデータを出力する必要があります。

スキャン・エンジンには複数のフォーマットをプログラムできます。それらは、入力された順にスタックされます。ただし、フォーマットが適用される順番は以下のリストに示すとおりです。

1. 特定の端末 ID、実際のコード ID、実際の長さ
2. 特定の端末 ID、実際のコード ID、汎用の長さ
3. 特定の端末 ID、汎用のコード ID、実際の長さ
4. 特定の端末 ID、汎用のコード ID、汎用の長さ
5. 汎用の端末 ID、実際のコード ID、実際の長さ
6. 汎用の端末 ID、実際のコード ID、汎用の長さ
7. 汎用の端末 ID、汎用のコード ID、実際の長さ
8. 汎用の端末 ID、汎用のコード ID、汎用の長さ

データ・フォーマット設定の最大サイズは、2,000 バイトです (ヘッダー情報を含む)。

バーコードが読み取られ、最初のデータ・フォーマットに失敗した場合、次のデータ・フォーマットがあれば、それがバーコード・データに使用されます。他のデータ・フォーマットがない場合は、生データが出力されます。

データ・フォーマットの設定を変更した場合、すべてのフォーマットをクリアして工場出荷時設定に戻すには、以下の **Default Data Format** (デフォルト・データ・フォーマット) コードをスキャンしてください。



DFMDF3.

* Default Data Format (デフォルト・データ・フォーマット)

データ・フォーマットを追加する

手順 1. **Enter Data Format** (データ・フォーマットを入力) シンボル (61 ページ) をスキャンします。

手順 2. **Primary/Alternate Format** (基準/代用フォーマット) を選択します。基準データ・フォーマットであるか、3つの代用フォーマットのいずれかであるかを決定します。合計4つの異なるデータ・フォーマットを保存できます。基準フォーマットをプログラムする場合は、本マニュアルの裏表紙裏に記載されている **プログラミング・チャート** で 0 をスキャンします。代用フォーマットをプログラムするには、どの代用フォーマットをプログラムするかによって、1、2、または 3 をスキャンしてください。(詳細については、76 ページの「基準/代用データ・フォーマット」を参照)。

手順 3. **端末の種類**

「**端末 ID 表**」(62 ページ) を参照して、ご使用の PC の端末 ID 番号を見つけます。裏表紙裏で 3 つの数値バーコードをスキャンして、スキャン・エンジンに端末 ID をプログラムします (3 桁入力する必要があります)。たとえば、AT ウェッジの場合は 0、0、3 をスキャンします。

注： 099 はすべての端末の種類を示します。

手順 4. **コード ID**

209 ページ以降の **シンボル体系表** で、データ・フォーマットを適用したいシンボル体系を探します。そのシンボル体系の 16 進値を見つけ、本マニュアルの裏表紙裏に記載されている **プログラミング・チャート** で、2 桁の 16 進値をスキャンします。

特定のシンボル体系を除き、すべてのシンボル体系のデータ・フォーマットを作成する場合は、B8 (74 ページ) を参照してください。

バッチモード数のデータ・フォーマットを作成する場合は、コード ID として 35 を使用します。

注： 99 はすべてのシンボル体系を表します。

手順 5. **長さ**

このシンボル体系で対応可能なデータ長 (最大 9999 文字) を指定します。本マニュアルの裏表紙裏に記載されている **プログラミング・チャート** で、4 桁のデータ長をスキャンします。たとえば、文字数が 50 の場合は「0050」を入力します。

注： 9999 はすべての長さを表します。

手順 6. **エディタ・コマンド**

データ・フォーマット・エディタ・コマンド (62 ページ) を参照してください。入力したいコマンドを表すシンボルをスキャンします。

手順 7. データ・フォーマットを保存するには、**Save (保存)** をスキャンします。
変更を保存せずに終了するには、**Discard (破棄)** をスキャンします。



DFMBK3.

Enter Data Format (データ・フォーマットを
入力)



MNUSAV.

Save (保存)



MNUABT.

Discard (破棄)

その他のプログラミング選択項目

- **Clear One Data Format (1 つのデータ・フォーマットをクリア)**
1 つのシンボル体系のデータ・フォーマットを 1 つ削除します。基準フォーマットをクリアする場合は、本マニュアルの裏表紙裏に記載されている **プログラミング・チャート** で、0 をスキャンします。代用フォーマットをクリアする場合は、どのフォーマットをクリアするかによって、1、2、または 3 をスキャンします。端末の種類とコード ID (209 ページの「**シンボル体系表**」を参照)、および削除したい特定のデータ・フォーマットのバーコードのデータ長をスキャンします。その他のすべてのフォーマットへの影響はありません。
- **Clear All Data Formats (すべてのデータ・フォーマットをクリア)**
すべてのデータ・フォーマットをクリアします。
- データ・フォーマットへの変更を保存して終了するには、**Save (保存)** をスキャンします。
- データ・フォーマットへの変更を保存せずに終了するには、**Discard (破棄)** をスキャンします。



DFMCL3.

Clear One Data Format (1 つのデータ・フ
ォーマットをクリア)



DFMCA3.

Clear All Data Formats (すべてのデータ・フ
ォーマットをクリア)



MNUSAV.

Save (保存)



MNUABT.

Discard (破棄)

端末 ID 表

端末	機種	端末ID
USB	PCキーボード (HID)	124
	Macキーボード	125
	PCキーボード (日本語)	134
	シリアル (COMドライバが必要)	130
	HID POS	131
	USB SurePOSハンドヘルド	128
	USB SurePOSテーブルトップ	129
シリアル	RS232 TTL	000
	RS232 True	000
キーボード	PS2互換機	003
	AT互換機	002

データ・フォーマット・エディタ・コマンド

データ・フォーマット・エディタで作業する場合、仮想カーソルが入力データの文字列に沿って移動します。以下のコマンドは、このカーソルを別の位置に移動し、またデータを選択し、置換し、最終出力に挿入するために使用します。

コマンドを送信する

F1—すべての文字を送信する

入力メッセージのうち現在のカーソル位置以降にあるすべての文字を出力メッセージに含め、その後に挿入文字を付加します。構文 = $F1xx$ です。xx は挿入文字の ASCII コードを表す 16 進値です。10 進コード、16 進コード、および文字コードについては、212 ページ以降の [ASCII 変換表 \(コードページ 1252\)](#) を参照してください。

F2—指定の文字数を送信する

指定した数の文字を出力メッセージに含め、その後に挿入文字を付加します。入力メッセージのうち現在のカーソル位置以降にある「nn」個の文字または最後の文字までが含まれ、その後に「xx」の文字が付加されます。構文 = $F2nnxx$ です。nn は文字数を表す数値 (00~99) で、xx は挿入文字の ASCII コードを表す 16 進値です。10 進コード、16 進コード、および文字コードについては、212 ページ以降の [ASCII 変換表 \(コードページ 1252\)](#) を参照してください。

例： 指定の文字数を送信する



上記のバーコードの最初の 10 個の文字を送信し、続けてキャリッジ・リターンを送信します。コマンド文字列：F2100D

F2 「指定の文字数を送信する」コマンドです。
10 送信する文字の数です。
0D キャリッジ・リターンの 16 進値です。

データは以下のように出力されます。1234567890

例： 文字を 2 行に分割する

上記のバーコードの最初の 10 個の文字を送信し、続けてキャリッジ・リターンと残りの文字を送信します。コマンド文字列：F2100DF10D

F2 「指定の文字数を送信する」コマンドです。
10 最初の行に送信する文字の数です。
0D キャリッジ・リターンの 16 進値です。
F1 「すべての文字を送信する」コマンドです。
0D キャリッジ・リターンの 16 進値です。

データは以下のように出力されます。

1234567890
ABCDEFGHIJ
<CR>

F3—特定の文字までの文字をすべて送信する

入力メッセージのうち現在のカーソル位置から検索文字「ss」の直前までのすべての文字を出力メッセージに含め、その後に挿入文字を付加します。カーソルは文字「ss」まで前進します。構文 = F3ssxx です。ss は検索文字の ASCII コードを表す 16 進値で、xx は挿入文字の ASCII コードを表す 16 進値です。10 進コード、16 進コード、および文字コードについては、212 ページ以降の [ASCII 変換表 \(コードページ 1252\)](#) を参照してください。

例： 特定の文字までの文字をすべて送信する



上記のバーコードのうち「D」の直前までのすべての文字にキャリッジ・リターンを付加したものを送信します。

コマンド文字列：F3440D

F3 「特定の文字までの文字をすべて送信する」コマンドです。

44 「D」の16進値です。
0D キャリッジ・リターンの16進値です。

データは以下のように出力されます。
1234567890ABC
<CR>

B9—文字列までのすべての文字を送信する

入力メッセージのうち現在のカーソル位置から検索文字列「s...s」の直前までのすべての文字を出力メッセージに含めます。カーソルは文字列「s...s」の先頭に移動します。構文 = B9nnnns...s です。nnnn は文字列の長さを表し、s...s は一致させる文字列を表します。文字列は、文字列内の文字を表す16進値で構成されます。10進コード、16進コード、および文字コードについては、212ページ以降の [ASCII変換表（コードページ1252）](#) を参照してください。

B9の例：定義された文字列までのすべての文字を送信する



上記のバーコードのうち、「AB」の直前までのすべての文字を送信します。

コマンド文字列：B900024142

B9 「文字列までのすべての文字を送信する」コマンドです。
0002 文字列の長さ（2文字）
41 Aの16進値です。
42 Bの16進値です。

データは以下のように出力されます。**1234567890**

E9—末尾を除くすべての文字を送信する

現在のカーソル位置以降にあるすべての文字を、末尾の「nn」個の文字を除いて出力メッセージに含めます。カーソルは、前方の入力メッセージに含まれた最後の文字の1つ先の位置に移動します。構文 = E9nn です。nn は、メッセージの末尾の送信されない文字数を表す数値（00～99）です。

F4—文字を複数回挿入する

カーソルを現在の位置に置いたまま、出力メッセージに文字「xx」を「nn」回送信します。構文 = F4xxnn です。xx は挿入文字のASCIIコードを表す16進値で、nn はその送信回数を表す数値（00～99）です。10進コード、16進コード、および文字コードについては、212ページ以降の [ASCII変換表（コードページ1252）](#) を参照してください。

E9 と F4 の例：最後の文字以外すべて送信し、その後タブを 2 つ送信する



上記のバーコードから末尾の 8 文字を除いたすべての文字に、2 つのタブを付加して送信します。

コマンド文字列：E908F40902

- E9 「末尾を除くすべての文字を送信する」コマンドです。
- 8 無視する末尾の文字数です。
- F4 「文字を複数回挿入する」コマンドです。
- 9 水平タブの 16 進値です。
- 02 タブ文字を送信する回数です。

データは以下のように出力されます。1234567890AB <tab><tab>

BA—文字列を挿入する

カーソルを現在の位置に置いたまま、出力メッセージに長さ「nn」の文字列「ss」を送信します。構文 = BAnnnns...s です。nnnn は文字列の長さを表し、s...s は文字列を表します。文字列は、文字列内の文字を表す 16 進値で構成されます。10 進コード、16 進コード、および文字コードについては、212 ページ以降の [ASCII 変換表 \(コードページ 1252\)](#) を参照してください。

B9 および BA の例：文字列「AB」を探し、2 つのアスタリスク (**) を挿入します。



上記のバーコードのうち、「AB」の直前までのすべての文字を送信します。その場所にアスタリスクを 2 つ挿入し、残りのデータを、キャリッジ・リターンを後ろに付けて送信します。

コマンド文字列：B900024142BA00022A2AF10D

- B9 「文字列までのすべての文字を送信する」コマンドです。
- 0002 文字列の長さ (2 文字)
- 41 A の 16 進値です。
- 42 B の 16 進値です。
- BA 「文字列を挿入する」コマンドです。
- 0002 追加する文字列の長さ (2 文字)
- 2A アスタリスク (*) の 16 進値です。
- 2A アスタリスク (*) の 16 進値です。
- F1 「すべての文字を送信する」コマンドです。
- 0D キャリッジ・リターンの 16 進値です。

データは以下のように出力されます。

1234567890**ABCDEFGHIJ
<CR>

B3—シンボル体系名を挿入する

カーソルを移動せずに、出力メッセージにバーコードのシンボル体系名を挿入します。Honeywell の ID を持つシンボル体系のみが含まれます（209 ページの [シンボル体系表](#) を参照）。10 進コード、16 進コード、および文字コードについては、212 ページ以降の [ASCII 変換表（コードページ 1252）](#) を参照してください。

B4—バーコード長を挿入する

カーソルを移動せずに、出力メッセージにバーコードの長さを挿入します。長さは数字列で表され、先頭のゼロは含まれません。

B3 および B4 の例：シンボル体系の名称と長さを挿入します。



上記のバーコードから、バーコード・データの前のシンボル体系名と長さを送信します。それぞれの挿入は、スペースで区分されます。最後にキャリッジ・リターンを送信します。

コマンド文字列：B3F42001B4F42001F10D

- B3 「シンボル体系名を挿入する」コマンドです。
- F4 「文字を複数回挿入する」コマンドです。
- 20 スペースの 16 進値です。
- 01 スペース文字を送信する回数です。
- B4 「バーコード長を挿入する」コマンドです。
- B4 「バーコード長を挿入する」コマンドです。
- F4 「文字を複数回挿入する」コマンドです。
- 20 スペースの 16 進値です。
- 01 スペース文字を送信する回数です。
- F1 「すべての文字を送信する」コマンドです。
- F1 「すべての文字を送信する」コマンドです。
- 0D キャリッジ・リターンの 16 進値です。

データは以下のように出力されます。

Code128 20 1234567890ABCDEFGHIJ
<CR>

B5-キーストロークを挿入する

キーストロークまたはキーストロークの組み合わせを挿入します。キーストロークは、キーボードによって異なります（220ページの「[キーボードのキーマップ](#)」を参照してください）。矢印キーや機能キーを含め、すべてのキーを挿入できます。構文 = B5xxssnn です。xx は押されたキーの数（キーモディファイア以外）、ss は下表のキーモディファイア、nn は 220 ページの[キーボードのキーマップ](#)のキー番号です。

キーモディファイア	
キーモディファイアなし	00
Shift 左	01
Shift 右	02
Alt 左	04
Alt 右	08
Ctrl 左	10
Ctrl 右	20

例： B501021F は、US 配列キーボードの 104 キーに「A」を挿入します。B5 = コマンド、01 = 押されたキーの数（キーモディファイア以外）、02 は Shift 右のキーモディファイア、1F は「a」のキーです。小文字の「a」を挿入する場合は、B501001F を入力します。

キーストロークが 3 つある場合、構文は、1 つのキーストロークに対応する B5xxssnn から、B5xxssnnssnnssnn に変わります。「abc」を挿入する例を示します。B503001F00320030F833。

注： 必要に応じて、キーモディファイアを一緒に追加できます。例：Ctrl 左 + Shift 左 = 11。

移動コマンド

F5-カーソルを指定の文字数だけ前進させる

カーソルを現在のカーソル位置から「nn」文字数だけ前進させます。構文 = F5nn です。nn はカーソルを前進させる文字数を表す数値（00～99）です。

F5 の例：カーソルを前方に移動し、データを送信する



上記のバーコードで、カーソルを 3 文字分前進させてから、残りのバーコード・データを送信します。最後にキャリッジ・リターンを送信します。

コマンド文字列：F503F10D

- F5 「カーソルを指定の文字数だけ前進させる」コマンドです。
- 03 カーソルを移動する文字数です。

- F1 「すべての文字を送信する」コマンドです。
0D キャリッジ・リターンの 16 進値です。

データは以下のように出力されます。
4567890ABCDEFGHIJ
<CR>

F6—カーソルを指定の文字数だけ後退させる

カーソルを現在のカーソル位置から「nn」文字数だけ後退させます。
構文 = F6nn です。nn はカーソルを後退させる文字数を表す数値 (00~99) です。

F7—カーソルを先頭に移動する

カーソルを入力メッセージの最初の文字に移動します。構文 = F7 です。

FE と F7 の例：1 で始まるバーコードを操作する



1 で始まるバーコードを検索します。一致するバーコードがあれば、カーソルをデータの先頭に戻し、6 文字にキャリッジ・リターンを付加したものを送信します。上記のバーコードを使用すると以下ようになります。

コマンド文字列：FE31F7F2060D

- FE 「文字を比較する」コマンドです。
31 1 の 16 進値です。
F7 「カーソルを先頭に移動する」コマンドです。
F2 「指定の文字数を送信する」コマンドです。
06 送信する文字の数です。
0D キャリッジ・リターンの 16 進値です。

データは以下のように出力されます。
123456
<CR>

EA—カーソルを末尾に移動する

カーソルを入力メッセージの最後の文字に移動します。構文 = EA です。

検索コマンド

F8—前方の文字を検索する

入力メッセージで、現在のカーソル位置の前方にある文字「xx」を検索し、カーソルが文字「xx」を指している状態にします。構文 = F8xx です。xx は検索文字の ASCII コードを表す 16 進値です。

10 進コード、16 進コード、および文字コードについては、212 ページ以降の [ASCII 変換表 \(コードページ 1252\)](#) を参照してください。

F8 の例：特定の文字以降のバーコード・データを送信する



バーコード内で文字「D」を検索し、「D」およびそれに続くすべてのデータを送信します。上記のバーコードを使用すると以下ようになります。

コマンド文字列：F844F10D

- F8 「前方の文字を検索する」コマンドです。
- 44 「D」の 16 進値です。
- F1 「すべての文字を送信する」コマンドです。
- 0D キャリッジ・リターンの 16 進値です。

データは以下のように出力されます。

DEFGHIJ
<CR>

F9—後方の文字を検索する

入力メッセージで、現在のカーソル位置の後方にある文字「xx」を検索し、カーソルが文字「xx」を指している状態にします。構文 = F9xx です。xx は検索文字の ASCII コードを表す 16 進値です。

10 進コード、16 進コード、および文字コードについては、212 ページ以降の [ASCII 変換表 \(コードページ 1252\)](#) を参照してください。

B0—前方の文字列を検索する

現在のカーソル位置の前方にある文字列「s」を検索し、カーソルが文字列「s」を指している状態にします。構文 = B0nnnnS です。nnnn は文字列の長さ (最大 9999)、S は一致文字列の各文字の ASCII の 16 進値で構成されます。たとえば、B0000454657374 は、4 文字の文字列「Test」の最初の出現を前方検索します。10 進コード、16 進コード、および文字コードについては、212 ページ以降の [ASCII 変換表 \(コードページ 1252\)](#) を参照してください。

B0 の例：特定の文字列以降のバーコード・データを送信する



バーコード内で文字「FGH」を検索し、「FGH」およびそれに続くすべてのデータを送信します。上記のバーコードを使用すると以下ようになります。

コマンド文字列：B00003464748F10D

B0 「前方の文字列を検索する」コマンドです。
0003 文字列の長さ（3文字）
46 「F」の16進値です。
47 「G」の16進値です。
48 「H」の16進値です。
F1 「すべての文字を送信する」コマンドです。
0D キャリッジ・リターンの16進値です。

データは以下のように出力されます。

FGHIJ
<CR>

B1—後方の文字列を検索する

現在のカーソル位置の後方にある文字列「s」を検索し、カーソルが文字列「s」を指している状態にします。構文 = B1nnnnS です。nnnn は文字列の長さ（最大 9999）、S は一致文字列の各文字の ASCII の 16 進値で構成されます。たとえば、B1000454657374 は、4 文字の文字列「Test」の最初の出現を後方検索します。10 進コード、16 進コード、および文字コードについては、212 ページ以降の [ASCII 変換表（コードページ 1252）](#) を参照してください。

E6—前方の一致しない文字を検索する

入力メッセージで、現在のカーソル位置の前方にある「xx」以外の最初の文字を検索し、カーソルがその「xx」以外の文字を指している状態にします。構文 = E6xx です。xx は検索文字の ASCII コードを表す 16 進値です。10 進コード、16 進コード、および文字コードについては、212 ページ以降の [ASCII 変換表（コードページ 1252）](#) を参照してください。

F6 の例：バーコード・データの先頭のゼロを削除する



この例のバーコードはゼロで埋められています。ゼロを無視して、それ以降のデータをすべて送信することができます。E6 は、ゼロ以外の最初の文字を前進方向へ検索し、それより後のすべてのデータにキャリッジ・リターンを付加したものを送信します。上記のバーコードを使用すると以下ようになります。

コマンド文字列：E630F10D

- E6 「前方の一致しない文字を検索する」コマンドです。
- 30 0 の 16 進値です。
- F1 「すべての文字を送信する」コマンドです。
- 0D キャリッジ・リターンの 16 進値です。

データは以下のように出力されます。

37692
<CR>

E7—後方の一致しない文字を検索する

入力メッセージで、現在のカーソル位置の後方にある「xx」以外の最初の文字を検索し、カーソルがその「xx」以外の文字を指している状態にします。構文 = E7xx です。xx は検索文字の ASCII コードを表す 16 進値です。10 進コード、16 進コード、および文字コードについては、212 ページ以降の [ASCII 変換表 \(コードページ 1252\)](#) を参照してください。

その他のコマンド

FB—文字を抑止する

他のコマンドによってカーソルが現在の位置から移動する際に、最大 15 種類の文字をすべて抑止します。FC コマンドが検出されると抑止機能は終了します。カーソルは、FB コマンドでは移動しません。

構文 = FBnnxyy ... zz です。nn はリストに指定する抑止文字の数で、xyy ... zz は抑止する文字のリストです。

FB の例：バーコード・データ内のスペースを削除する



この例のバーコードには、データにスペースが含まれています。データを送信する前に、スペースを削除することができます。上記のバーコードを使用すると以下ようになります。

コマンド文字列：FB0120F10D

- FB 「文字を抑止する」コマンドです。
- 01 抑止する文字の種類の数です。
- 20 スペースの 16 進値です。
- F1 「すべての文字を送信する」コマンドです。
- 0D キャリッジ・リターンの 16 進値です。

データは以下のように出力されます。

34567890

<CR>

FC—文字の抑止を停止する

抑止フィルターを無効にし、抑止した文字をすべて消去します。構文 = FC です。

E4—文字を置換する

カーソルを動かさずに、出力メッセージの文字を最大 15 個置換します。置換は、E5 コマンドが検出されるまで続きます。構文 = E4nnxx-₁xx₂yy₁yy₂...zz₁zz₂ です。nn は、リストに指定する文字の合計数（置換する文字と置換文字）です。xx₁ は置換する文字で、xx₂ は置換文字です。以下、zz₁ および zz₂ まで同様です。

E4 の例：バーコード・データのゼロをキャリッジ・リターンに置換する



ホスト・アプリケーションにとって不適切な文字がバーコードに含まれている場合は、E4 コマンドを使用して、別の文字に置換できます。この例では、上記のバーコード内のゼロをキャリッジ・リターンに置換します。

コマンド文字列：E402300DF10D

- E4 「文字を置換する」コマンドです。
- 02 置換する文字と置換文字の合計数です（0 をキャリッジ・リターンで置換するため、文字の合計数は 2 です）。
- 30 0 の 16 進値です。
- 0D キャリッジ・リターン（0 を置換する文字）の 16 進値です。
- F1 「すべての文字を送信する」コマンドです。
- 0D キャリッジ・リターンの 16 進値です。

データは以下のように出力されます。

1234

5678

ABC

<CR>

E5—文字の置換を停止する

文字の置換を終了します。構文 = E5 です。

FE—文字を比較する

現在のカーソル位置にある文字を文字「xx」と比較します。文字が一致する場合は、カーソルを1つ先の位置に移動します。構文 = FE_{xx}です。xxは比較文字のASCIIコードに対する16進値を表します。
10進コード、16進コード、および文字コードについては、212ページ以降の[ASCII変換表（コードページ1252）](#)を参照してください。

B2—文字列を比較する

入力メッセージ内の文字列を文字列「s」と比較します。文字列が等しい場合は、カーソルを前方に動かし、文字列の末尾の1つ先の位置に移動します。構文 = B2nnnnSです。nnnnは文字列の長さ（最大9999）、Sは一致文字列の各文字のASCIIの16進値で構成されます。たとえば、B2000454657374は、現在のカーソル位置の文字列を、4文字の文字列「Test」と比較します。
10進コード、16進コード、および文字コードについては、212ページ以降の[ASCII変換表（コードページ1252）](#)を参照してください。

EC—数字かどうかを確認する


現在のカーソル位置にASCII数字があるかどうか確認します。文字が数字ではない場合は、フォーマットを中止します。


ECの例：バーコードが数字から始まる場合にのみデータを出力する

数字で始まるバーコードのデータのみが必要な場合は、ECを使用して数字かどうか確認できます。

コマンド文字列：ECF10D

- EC 「数字かどうかを確認する」コマンドです。
- F1 「すべての文字を送信する」コマンドです。
- 0D キャリッジ・リターンの16進値です。

このバーコードが読み取られた場合、 次のデータ・フォーマットがあれば、それがデータに使用されます。他のフォーマットがなければ、フォーマットは失敗し、生データ **AB1234** が出力されます。

このバーコードが読み取られた場合、 データは次のよう出力されます。

1234AB
<CR>

ED—数字以外の文字か確認する

現在のカーソル位置にASCII数字以外の文字があるか確認します。文字が数字の場合は、フォーマットを中止します。

ED の例：バーコードが英文字から始まる場合にのみデータを出力する

英文字で始まるバーコードのデータのみが必要な場合は、ED を使用して英文字かどうか確認できます。

コマンド文字列：EDF10D

ED 「数字以外の文字が確認する」コマンドです。

F1 「すべての文字を送信する」コマンドです。

0D キャリッジ・リターンの 16 進値です。



このバーコードが読み取られた場合、**1234AB** 次のデータ・フォーマットがあれば、それがデータに使用されます。他のフォーマットがなければ、フォーマットは失敗し、生データ **1234AB** が出力されます。



このバーコードが読み取られた場合、**AB1234** データは次のよう出力されます。

AB1234

<CR>

EF—遅延を挿入する

現在のカーソル位置から、最大 49,995 ミリ秒 (5 の倍数) の遅延を挿入します。構文 = EFnnnn です。nnnn は 5ms 単位の遅延で、最大 9999 です。このコマンドは、キーボード・エミュレーション時にのみ使用できます。

B8—データを破棄する

データのタイプを破棄します。たとえば、文字「A」で始まる Code 128 のバーコードを破棄したい場合は、手順 4 ([60 ページ](#)) で 6A (Code 128) を選択し、手順 5 で 9999 (すべての長さ) を選択します。「FE41B8」と入力すると、文字「A」で始まる Code 128 のバーコードが比較および破棄されます。構文 = B8 です。

注： 他のすべてのコマンドの後に B8 コマンドを入力する必要があります。

B8 コマンドを動作させるためには、データ・フォーマットを Required (必須) ([75 ページ](#)を参照) にする必要があります。

データ・フォーマットが On, but Not Required (オンだが必須ではない) ([75 ページ](#)) の場合、B8 フォーマットを満たすバーコード・データをスキャンし、通常通り出力します。

B8 コマンドでは、データ・フォーマットを On and Required (オン/必須) ([76 ページ](#)) にする必要があるため、破棄したいすべてのバーコードおよび出力したいすべてのバーコードのデータ・フォーマットを入力する必要があります。

他のデータ・フォーマット設定は B8 コマンドに影響します。データ・フォーマット不一致エラートーンが On (オン) ([76 ページ](#)) の場合、スキャン・エンジンがエラートーンを発します。データ・フォーマット不一致エラートーンが Off (オフ) の場合、コードの読み取りが無効になり、エラートーンは鳴りません。

データ・フォーマッター

データ・フォーマッターが Off (オフ) の場合、読み取られたバーコード・データはプレフィックスやサフィックスを含め、そのままホストに出力されます。



DFM_EN0.

Data Formatter Off (データ・フォーマッタ

ー・オフ)

作成して保存してあるデータ・フォーマットに従うように要求することもできます。以下の設定を、データ・フォーマットに適用することができます。

- **Data Formatter On, Not Required, Keep Prefix/Suffix (データ・フォーマッター・オン、必須ではない、プレフィックス/サフィックスを保持)**
スキャンされたデータはデータ・フォーマットに合わせて変更され、プレフィックスやサフィックスも送信されます。
- **Data Formatter On, Not Required, Drop Prefix/Suffix (データ・フォーマッター・オン、必須ではない、プレフィックス/サフィックスを破棄)**
スキャンされたデータはデータ・フォーマットに合わせて変更されます。特定のシンボルにデータ・フォーマットが見つかった場合、それらのプレフィックスとサフィックスは送信されません。そのシンボルにデータ・フォーマットが見つからない場合、プレフィックスとサフィックスが送信されます。
- **Data Format Required, Keep Prefix/Suffix (データ・フォーマット必須、プレフィックス/サフィックスを保持)**
スキャンされたデータはデータ・フォーマットに合わせて変更され、プレフィックスやサフィックスも送信されます。データがデータ・フォーマットの要件に一致しない場合、エラー音が鳴り、そのバーコードのデータは送信されません。エラー音を鳴らさずにこのタイプのバーコードを処理したい場合は、**データ・フォーマット不一致エラー音**を参照してください。
- **Data Format Required, Drop Prefix/Suffix (データ・フォーマット必須、プレフィックス/サフィックスを破棄)**
スキャンされたデータはデータ・フォーマットに合わせて変更されます。特定のシンボルにデータ・フォーマットが見つかった場合、それらのプレフィックスとサフィックスは送信されません。データがデータ・フォーマットの要件に一致しない場合、エラー音が鳴ります。エラー音を鳴らさずにこのタイプのバーコードを処理したい場合は、**データ・フォーマット不一致エラー音**を参照してください。

次のいずれかのオプションを選択します。デフォルト値 = *Data Formatter On, Not Required, Keep Prefix/Suffix* (データ・フォーマッター・オン、必須ではない、プレフィックス/サフィックスを保持)。



DFM_EN1.

* Data Formatter On, Not Required, Keep Prefix/Suffix (データ・フォーマッター・オン、必須ではない、プレフィックス/サフィックスを保持)



DFM_EN3.

Data Formatter On, Not Required, Drop Prefix/Suffix (データ・フォーマッター・オン、必須ではない、プレフィックス/サフィックスを破棄)



DFM_EN2.

Data Format Required, Keep Prefix/Suffix (データ・フォーマット必須、プレフィックス/サフィックスを保持)



DFM_EN4.

Data Format Required, Drop Prefix/Suffix (データ・フォーマット必須、プレフィックス/サフィックスを破棄)

データ・フォーマット不一致エラートーン

要求されたデータ・フォーマットと一致しないバーコードが検出されると、通常、スキャン・エンジンがエラートーンを鳴らします。ただし、エラートーンを鳴らさずにバーコードの読み取りを続けたい場合があります。Data Format Non-Match Error Tone Off (データ・フォーマット不一致エラートーン・オフ) バーコードをスキャンすると、データ・フォーマットに適合しないデータは送信されず、エラートーンは鳴りません。不一致バーコードの検出時にエラートーンを鳴らしたい場合は、Data Format Non-Match Error Tone On (データ・フォーマット不一致エラートーン・オン) バーコードをスキャンします。デフォルト値 = Data Format Non-Match Error Tone On (データ・フォーマット不一致エラートーン・オン)



DFMDEC0.

* Data Format Non-Match Error Tone On (データ・フォーマット不一致エラートーン・オン)



DFMDEC1.

Data Format Non-Match Error Tone Off (データ・フォーマット不一致エラートーン・オフ)

基準／代用データ・フォーマット

最大4つのデータ・フォーマットを保存でき、それらのフォーマットを切り替えることができます。基準データ・フォーマットは、0として保存されます。その他の3つのデータ・フォーマットは、1、2、および3に保存されます。これらのフォーマットのいずれかを使用するようデバイスを設定するには、以下のいずれかのバーコードをスキャンします。



ALTFNM0.

Primary Data Format (基準データ・フォーマット)



ALTFNM1.

Data Format 1 (データ・フォーマット1)



ALTFNM2.

Data Format 2 (データ・フォーマット 2)



ALTFNM3.

Data Format 3 (データ・フォーマット 3)

シングル・スキャン・データ・フォーマットの変更

1 回のスキャンでデータ・フォーマットを切り替えることもできます。次のバーコードは、代替データ・フォーマットを使用してスキャンされ、その後、上記で選択したフォーマット (Primary [基準]、1、2、3 のいずれか) に戻ります。

たとえば、「データ・フォーマット 3」として保存したデータ・フォーマットにデバイスを設定する場合があります。Single Scan-Data Format 1 (シングル・スキャン - データ・フォーマット 1) バーコードをスキャンすると、トリガーを 1 回引くだけで「データ・フォーマット 1」に切り替えることができます。次に読み取るバーコードは「データ・フォーマット 1」を使用し、その後、「データ・フォーマット 3」に戻ります。



VSAF_0.

Single Scan-Primary Data
Format (シングル・スキャン -
基準データ・フォーマット)



VSAF_1.

Single Scan-Data Format 1
(シングル・スキャン - デー
タ・フォーマット 1)



VSAF_2.

Single Scan-Data Format 2
(シングル・スキャン - デー
タ・フォーマット 2)



VSAF_3.

Single Scan-Data Format 3
(シングル・スキャン - デー
タ・フォーマット 3)

第 6 章—シンボル体系

このプログラミング・セクションには、以下のメニュー項目があります。設定およびデフォルト値については、[第 9 章](#)を参照してください。

- すべてのシンボル体系
- Aztec Code
- China Post (Hong Kong 2 of 5)
- Chinese Sensible (Han Xin) コード
- Codabar
- Codablock A
- Codablock F
- Code 11
- Code 128
- Code 32 Pharmaceutical (PARAF)
- Code 39
- Code 93
- Data Matrix
- Digimarc バーコード™
- ドットコード
- EAN/JAN-13
- EAN/JAN-8
- Grid Matrix
- GS1 コンポジット・コード
- GS1 DataBar Expanded
- GS1 DataBar Limited
- MSI Redundancy (MSI 照合設定)
- GS1 エミュレーション
- GS1-128
- Interleaved 2 of 5
- Korean Post のオン／オフ
- Matrix 2 of 5
- MaxiCode
- MicroPDF417
- MSI
- NEC 2 of 5
- 郵便コード - 2 次元
- 郵便コード - リニア
- PDF417
- QR Code
- Straight 2 of 5 IATA (2 バー・スタート／ストップ)
- Straight 2 of 5 Industrial (3 バー・スタート／ストップ)
- TCIF Linked Code 39 (TLC39)
- Telepen
- Trioptic Code
- UPC-A
- 拡張クーポン・コード付き UPC-A/EAN-13
- UPC-E0
- UPC-E1

All Symbologies（すべてのシンボル体系）

お使いのスキヤナで対応可能なすべてのシンボル体系をデコードする場合は、**All Symbologies On（すべてのシンボル体系をオン）** コードをスキヤンします。一方、特定のシンボル体系のみをデコードする場合は、**All Symbologies Off（すべてのシンボル体系をオフ）** をスキヤンした後、その特定のシンボル体系の **On（オン）** シンボルをスキヤンします。

注： **All Symbologies On（すべてのシンボル体系をオン）** をスキヤンすると、スキヤナのパフォーマンスが低下する場合があります。必要な場合にのみスキヤンしてください。



All Symbologies On（すべての
シンボル体系をオン）



All Symbologies Off（すべての
シンボル体系をオフ）

注： **All Symbologies On（すべてのシンボル体系をオン）** をスキヤンしても、2次元郵便コードは有効になりません。2次元郵便コードは個別に有効化する必要があります。

メッセージ長の説明

一部のバーコード・シンボル体系では、有効読み取り長を設定できます。最小長と最大長に同じ値を設定すれば、リーダーが固定長バーコード・データを強制的に読み取るように設定できます。これにより、誤読の可能性を減らすことができます。

例： 文字数 9～20 のバーコードのみをデコードします。

最小長 = 09、最大長 = 20

例： 文字数 15 のバーコードのみをデコードします。

最小長 = 15、最大長 = 15

最小および最大のメッセージ長をデフォルト値とは異なる値にするには、シンボル体系の説明に含まれているメッセージ長のバーコードをスキヤンしてから、本マニュアルの裏表紙裏に記載されている **プログラミング・チャート** でメッセージ長の桁数をスキヤンし、Save（保存）バーコードをスキヤンします。最小長と最大長、およびデフォルト値はそれぞれのシンボル体系に含まれています。

Codabar

<Default All Codabar Settings (Codabar の設定をすべてデフォルトに戻す) >



Codabar のオン/オフ



* On (オン)



Off (オフ)

Codabar のスタート/ストップ・キャラクタ

スタート/ストップ・キャラクタは、バーコードの先頭と末尾を識別します。スタート/ストップ・キャラクタは、送信するように設定することも、送信しないように設定することもできます。デフォルト値 = *Don't Transmit* (送信しない)。



Transmit (送信する)



* *Don't Transmit* (送信しない)

Codabar のチェック・キャラクタ

Codabar のチェック・キャラクタは、さまざまな「モジュラス」を使用して作成されています。スキャナをプログラムして、モジュラス 16 のチェック・キャラクタを使用する Codabar バーコードのみを読み取るように設定できます。デフォルト値 = *No Check Character* (チェック・キャラクタなし)。

No Check Character (チェック・キャラクタなし) は、スキャナがチェック・キャラクタの有無にかかわらずバーコード・データの読み取りや送信を行うことを示します。

チェック・キャラクタが **Validate and Transmit** (検証して送信) に設定されている場合、スキャナはチェック・キャラクタありで印刷された Codabar バーコードのみを読み取り、スキャン・データの末尾にチェック・キャラクタを付加して送信します。

チェック・キャラクタが **Validate, but Don't Transmit** (検証するが送信しない) に設定されている場合、スキャナはチェック・キャラクタありで印刷された Codabar バーコードのみを読み取りますが、スキャン・データの送信時に、チェック・キャラクタを付加しません。



CBRCK20.

* No Check Character (チェック・キャラクタなし)



CBRCK21.

Validate Modulo 16, but Don't Transmit (モジュラス 16 を検証するが送信しない)



CBRCK22.

Validate Modulo 16 and Transmit (モジュラス 16 を検証して送信)

Codabar の連結

Codabar ではシンボルの連結に対応しています。連結を有効にすると、スキャナは、スタート・キャラクタが「D」で、ストップ・キャラクタが「D」のシンボルに隣接している Codabar シンボルを探します。この場合、2つのメッセージは連結して1つになり、キャラクタ「D」は省略されます。



スキャナが連結されていない単独の「D」Codabar シンボルをデコードしないようにするには、Require (要求する) を選択します。この選択が、D以外のストップ／スタート・キャラクタを持つ Codabar シンボルに及ぼす影響はありません。



CBRCCT1.

On (オン)



CBRCCT0.

* Off (オフ)



CBRCCT2.

Require (要求する)

Codabar Message Length (Codabar のメッセージ長)

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(80 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 2~60。デフォルトの最小長 = 4、デフォルトの最大長 = 60。



Minimum Message Length (メッセージの最小長)



Minimum Message Length (メッセージの最小長)

Code 39

<Default All Code 39 Settings (Code 39 の設定をすべてデフォルトに戻す) >



Code 39 のオン/オフ



* On (オン)



Off (オフ)

Code 39 のバーコードの読み取り中は、Codablock A を無効のままにしておく必要があります。Codablock A ([126 ページ参照](#)) が有効になっている場合は、Code 39 を無効にする必要があります。

Code 39 のスタート/ストップ・キャラクタ

スタート/ストップ・キャラクタは、バーコードの先頭と末尾を識別します。スタート/ストップ・キャラクタは、送信するように設定することも、送信しないように設定することもできます。デフォルト値 = *Don't Transmit* (送信しない)。



Transmit (送信する)



C39SSX0.

* Don't Transmit (送信しない)

Code 39 のチェック・キャラクタ

No Check Character (チェック・キャラクタなし) は、スキャナがチェック・キャラクタの有無にかかわらずバーコード・データの読み取りや送信を行うことを示します。

チェック・キャラクタが **Validate, but Don't Transmit (検証するが送信しない)** に設定されている場合、スキャナはチェック・キャラクタありで印刷された Code 39 バーコードのみを読み取りますが、スキャン・データの送信時に、チェック・キャラクタを付加しません。

チェック・キャラクタが **Validate and Transmit (検証して送信)** に設定されている場合、スキャナはチェック・キャラクタありで印刷された Code 39 バーコードのみを読み取り、スキャン・データの末尾にチェック・キャラクタを付加して送信します。デフォルト値 = No Check Character (チェック・キャラクタなし)。



C39CK20.

* No Check Character (チェック・キャラクタなし)



C39CK21.

Validate, but Don't Transmit (検証するが送信しない)



C39CK22.

Validate and Transmit (検証して送信)

Code 39 のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(80 ページ) を参照してください。最小長および最大長 = 0~48。デフォルトの最小長 = 0、デフォルトの最大長 = 48。



C39MIN.

Minimum Message Length (メッセージの最小長)



C39MAX.

Maximum Message Length (メッセージの最大長)

Code 39 Redundancy (Code 39 照合設定)

Code 39 バーコードの読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合回数を調整したい場合があります。照合設定は、送信前にバーコードがデコードされる回数を調節し、これによりエラー数を軽減します。ただし、照合回数が多いほど、バーコードのデコードにかかる時間が長くなるので注意してください。照合設定を調節するには、以下の Code 39 Redundancy (Code 39 照合設定) バーコードを読み取り、[プログラミング・チャート](#)から 0~10 の照合回数をスキャンします。その後、バーコードの **Save (保存)** をスキャンします。デフォルト値 = 0。



C39VOT.

Code 39 Redundancy (Code 39 照
合設定)

Code 39 Append (Code 39 の連結)

この機能を使用すると、いくつかの Code 39 バーコードのデータを連結してから、ホスト・コンピュータに送信できます。スキャナは、連結のトリガー文字を含む Code 39 バーコードを検出すると、連結のトリガーを含まない Code 39 バーコードを読み取るまで、Code 39 バーコードをバッファします。その後、データはバーコードが読み取られた順番に送信されます (FIFO: 先入れ先出し)。デフォルト値 = Off (オフ)。



C39APP1.

On (オン)



C39APP0.

* Off (オフ)

Code 32 Pharmaceutical (PARAF)

Code 32 Pharmaceutical は、イタリアの医薬分野で使用されている Code 39 シンボル体系の一種です。このシンボル体系は、PARAF とも呼ばれています。

注： Code 32 Pharmaceutical コードをスキャンしている間は、Trioptic コード ([87 ページ](#)) をオフにする必要があります。



C39B321.

On (オン)



C39B320.

* Off (オフ)

Full ASCII

Full ASCII Code 39 のデコードを有効にすると、バーコード・シンボル内の特定の文字ペアは、単一の文字として解釈されます。たとえば、\$V は ASCII 文字 SYN としてデコードされ、/C は ASCII 文字 # としてデコードされます。デフォルト値 = Off (オフ)。

NUL	%U	DLE	\$P	SP	SPACE	0	0	@	%V	P	P	f	%W	p	+P
SOH	\$A	DC1	\$Q	!	/A	1	1	A	A	Q	Q	a	+A	q	+Q
STX	\$B	DC2	\$R	"	/B	2	2	B	B	R	R	b	+B	r	+R
ETX	\$C	DC3	\$S	#	/C	3	3	C	C	S	S	c	+C	s	+S
EOT	\$D	DC4	\$T	\$	/D	4	4	D	D	T	T	d	+D	t	+T
ENQ	\$E	NAK	\$U	%	/E	5	5	E	E	U	U	e	+E	u	+U
ACK	\$F	SYN	\$V	&	/F	6	6	F	F	V	V	f	+F	v	+V
BEL	\$G	ETB	\$W	*	/G	7	7	G	G	W	W	g	+G	w	+W
BS	\$H	CAN	\$X	(/H	8	8	H	H	X	X	h	+H	x	+X
HT	\$I	EM	\$Y)	/I	9	9	I	I	Y	Y	i	+I	y	+Y
LF	\$J	SUB	\$Z	*	/J	:	/Z	J	J	Z	Z	j	+J	z	+Z
VT	\$K	ESC	%A	+	/K	;	%F	K	K	[%K	k	+K	{	%P
FF	\$L	FS	%B	,	/L	<	%G	L	L	¥	%L	l	+L		%Q
CR	\$M	GS	%C	-	-	=	%H	M	M]	%M	m	+M	}	%R
SO	\$N	RS	%D	.	.	>	%I	N	N	^	%N	n	+N	~	%S
SI	\$O	US	%E	/	/O	?	%J	O	O	_	%O	o	+O	DEL	%T

文字ペア/M および/N は、それぞれマイナス記号とピリオドとしてデコードされま
す。文字ペア/P から/Y は、0~9 としてデコードされます。



C39ASC1.

Full ASCII On (Full ASCII オン)



C39ASC0.

* Full ASCII Off (Full ASCII オフ)

Code 39 のコードページ

コードページでは、文字コードから文字へのマッピングを定義します。受信したデータが正しい文字で表示されない場合は、スキャンしたバーコードがホスト・プログラムの想定とは異なるコードページを使用して作成されたものである可能性があります。そのような場合は、以下のバーコードをスキャンした後、バーコードが作成されたコードページを選択し (218 ページの「ISO 2022/ISO 646 置換文字」を参照)、本マニュアルの裏表紙裏に記載されている **プログラミング・チャート** で数値をスキャンし、**Save (保存)** バーコードをスキャンします。これにより、データの文字が正しく表示されるようになります。



C39DCP.

Code 39 Code Page (Code 39 のコードページ)

Code 39 非定型キャラクタ間ギャップ

この設定は、通常と異なるキャラクタ間ギャップを持つ Code 39 のバーコードを読み取るようにスキャナを設定するときに使用します。デフォルト値 = Off (オフ)。



C39UIC1.

On (オン)



C39UIC0.

* Off (オフ)

Trioptic Code

注： Code 32 の Pharmaceutical コード (85 ページ) をスキャンする場合は、Trioptic Code 設定をオフにしておく必要があります。

Trioptic Code は、磁気記憶媒体のラベル付けに使用されます。



TRIENA1.

On (オン)



TRIENA0.

* Off (オフ)

Trioptic Redundancy (Trioptic 照合設定)

Trioptic バーコードの読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合回数を調整したい場合があります。照合設定は、送信前にバーコードがデコードされる回数を調節し、これによりエラー数を軽減します。ただし、照合回数が多いほど、バーコードのデコードにかかる時間が長くなるので注意してください。照合設定を調節するには、以下の Trioptic Redundancy (Trioptic 照合設定) バーコードを読み取り、[プログラミング・チャート](#)から 0~10 の照合回数をスキャンします。その後、バーコードの **Save (保存)** をスキャンします。デフォルト値 = 0。



TRIVOT.

Trioptic Redundancy (Trioptic 照合設定)

Interleaved 2 of 5

<Default All Interleaved 2 of 5 Settings (Interleaved 2 of 5 の設定をすべてデフォルトに戻す) >



I25DFT.

Interleaved 2 of 5 のオン/オフ



I25ENA1.

* On (オン)



I25ENA0.

Off (オフ)

チェック・デジット

No Check Digit (チェック・デジットなし) は、スキャナがチェック・デジットの有無にかかわらずバーコード・データの読み取りや送信を行うことを示します。

チェック・デジットが **Validate, but Don't Transmit (検証するが送信しない)** に設定されている場合、ユニットはチェック・デジットありで印刷された Interleaved 2 of 5 バーコードのみを読み取りますが、スキャン・データの送信時に、チェック・デジットを付加しません。

チェック・デジットが **Validate and Transmit (検証して送信)** に設定されている場合、スキャナはチェック・デジットありで印刷された Interleaved 2 of 5 バーコードのみを読み取り、スキャン・データの最後にこのデジットを送信します。デフォルト値 = **No Check Digit (チェック・デジットなし)**。



I25CK20.

* No Check Digit (チェック・デジットなし)



I25CK21.

Validate, but Don't Transmit (検証するが送信しない)



I25CK22.

Validate and Transmit (検証して送信)

Interleaved 2 of 5 のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(80 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 2~80。デフォルトの最小長 = 4、デフォルトの最大長 = 80。



I25MIN.

Minimum Message Length (メッセージの最小長)



I25MAX.

Maximum Message Length (メッセージの最大長)

FEBRABAN のデコード

Febraban は 12 of 5 バーコードの一種であり、送信データストリームに特別なチェック・キャラクタを挿入する必要があります。これは、ブラジル銀行連盟で使用されます。FEBRABAN Boletto デコードをオンまたはオフに切り替えるには、以下のバーコードをスキャンします。デフォルト値 = Off (オフ)。



I25PAY1.

FEBRABAN Decode On
(FEBRABAN のデコード・オン)



I25PAY0.

FEBRABAN Decode Off
(FEBRABAN のデコード・オフ)

NEC 2 of 5

<Default All NEC 2 of 5 Settings (NEC 2 of 5 の設定をすべてデフォルトに戻す)>



N25DFT.

NEC 2 of 5 のオン／オフ



N25ENA1.

* On (オン)



N25ENA0.

Off (オフ)

チェック・デジット

No Check Digit (チェック・デジットなし) は、スキャナがチェック・デジットの有無にかかわらずバーコード・データの読み取りや送信を行うことを示します。

チェック・デジットが **Validate, but Don't Transmit (検証するが送信しない)** に設定されている場合、ユニットはチェック・デジットありで印刷された NEC 2 of 5 バーコードのみを読み取りますが、スキャン・データの送信時に、チェック・デジットを付加しません。

チェック・デジットが **Validate and Transmit (検証して送信)** に設定されている場合、スキャナはチェック・デジットありで印刷された NEC 2 of 5 バーコードのみを読み取り、スキャン・データの最後にこのデジットを送信します。デフォルト値 = No Check Digit (チェック・デジットなし)。



N25CK20.

* No Check Digit (チェック・デジットなし)



N25CK21.

Validate, but Don't Transmit (検証するが送信しない)



N25CK22.

Validate and Transmit (検証して送信)

NEC 2 of 5 のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(80 ページ) を参照してください。最小長および最大長 = 2~80。デフォルトの最小長 = 4、デフォルトの最大長 = 80。



N25MIN.

Minimum Message Length (メッセージの最小長)



N25MAX.

Maximum Message Length (メッセージの最大長)

NEC 2 of 5 Redundancy (NEC 2 of 5 照合設定)

NEC 2 of 5 バーコードの読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合回数を調整したい場合があります。照合設定は、送信前にバーコードがデコードされる回数を調節し、これによりエラー数を軽減します。ただし、照合回数が多いほど、バーコードのデコードにかかる時間が長くなるので注意してください。照合設定を調節するには、以下の NEC 2 of 5 Redundancy (NEC 2 of 5 照合設定) バーコードを読み取り、[プログラミング・チャート](#)から 0~10 の照合回数をスキャンします。その後、バーコードの **Save (保存)** をスキャンします。デフォルト値 = 0。



N25VOT.

NEC 2 of 5 Redundancy (NEC 2 of 5 照合設定)

Code 93

<Default All Code 93 Settings (Code 93 の設定をすべてデフォルトに戻す) >



C93DFT.

Code 93 のオン/オフ



C93ENA1.

* On (オン)



C93ENA0.

Off (オフ)

Code 93 Message Length (Code 93 のメッセージ長)

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(80 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 0~80。デフォルトの最小長 = 0、デフォルトの最大長 = 80。



Minimum Message Length (メッセージの最小長)



Minimum Message Length (メッセージの最大長)

Code 93 Redundancy (Code 93 照合設定)

Code 93 バーコードの読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合回数を調整したい場合があります。照合設定は、送信前にバーコードがデコードされる回数を調節し、これによりエラー数を軽減します。ただし、照合回数が多いほど、バーコードのデコードにかかる時間が長くなるので注意してください。照合設定を調節するには、以下の Code 93 Redundancy (Code 93 照合設定) バーコードを読み取り、[プログラミング・チャート](#)から 0~10 の照合回数をスキャンします。その後、バーコードの **Save (保存)** をスキャンします。デフォルト値 = 0。



Code 93 Redundancy (Code 93 照合設定)

Code 93 の連結

この機能を使用すると、いくつかの Code 93 バーコードのデータを連結してから、ホスト・コンピュータに送信できます。この機能を有効にすると、スキャナはスペースで始まる Code 93 バーコード (スタートおよびストップ・シンボルを除く) を保管し、すぐにはデータを送信しません。スキャナはバーコードを読み取り順に保管して、それぞれから最初のスペースを削除します。スキャナは、スペース以外のキャラクタで始まる Code 93 バーコードを読み取ると、連結されたデータを送信します。デフォルト値 = Off (オフ)。



On (オン)



* Off (オフ)

Code 93 のコードページ

コードページでは、文字コードから文字へのマッピングを定義します。受信したデータが正しい文字で表示されない場合は、スキャンしたバーコードがホスト・プログラムの想定とは異なるコードページを使用して作成されたものである可能性があります。そのような場合は、以下のバーコードをスキャンした後、バーコードが作成されたコードページを選択し（218 ページの「[ISO 2022/ISO 646 置換文字](#)」を参照）、本マニュアルの裏表紙裏に記載されている[プログラミング・チャート](#)で数値をスキャンし、**Save（保存）** バーコードをスキャンします。これにより、データの文字が正しく表示されるようになります。



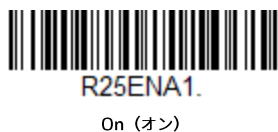
Code 93 Code Page (Code 93 のコードページ)

Straight 2 of 5 Industrial (3 バー・スタート/ストップ)

<Default All Straight 2 of 5 Industrial Settings (Straight 2 of 5 Industrial の設定をすべてデフォルトに戻す) >



Straight 2 of 5 Industrial のオン/オフ



On (オン)



R25ENA0.

* Off (オフ)

Straight 2 of 5 Industrial Message Length (Straight 2 of 5 Industrial のメッセージ長)

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(80 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 1~48。デフォルトの最小長 = 4、デフォルトの最大長 = 48。



Minimum Message Length (メッセージの最小長)



Maximum Message Length (メッセージの最大長)

Straight 2 of 5 Industrial Redundancy (Straight 2 of 5 Industrial 照合設定)

Straight 2 of 5 Industrial バーコードの読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合回数を調整したい場合があります。照合設定は、送信前にバーコードがデコードされる回数を調節し、これによりエラー数を軽減します。ただし、照合回数が多いほど、バーコードのデコードにかかる時間が長くなるので注意してください。照合設定を調節するには、以下の Straight 2 of 5 Industrial Redundancy (Straight 2 of 5 Industrial 照合設定) バーコードを読み取り、[プログラミング・チャート](#)から 0～10 の照合回数をスキャンします。その後、バーコードの **Save (保存)** をスキャンします。デフォルト値 = 0。



N25VOT.

Straight 2 of 5 Industrial
Redundancy (Straight 2 of 5
Industrial 照合設定)

Straight 2 of 5 IATA (2 バー・スタート/ストップ)

<Default All Straight 2 of 5 IATA Settings (Straight 2 of 5 IATA の設定をすべてデフォルトに戻す) >



A25DFT.

Straight 2 of 5 IATA のオン/オフ



A25ENA1.

On (オン)



A25ENA0.

* Off (オフ)

Straight 2 of 5 IATA のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(80 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 1～48。デフォルトの最小長 = 4、デフォルトの最大長 = 48。



A25MIN.

Minimum Message Length (メッセ
ージの最小長)



A25MAX.

Maximum Message Length (メッセージの最大長)

Straight 2 of 5 IATA Redundancy (Straight 2 of 5 IATA 照合設定)

Straight 2 of 5 IATA バーコードの読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合回数を調整したい場合があります。照合設定は、送信前にバーコードがデコードされる回数を調節し、これによりエラー数を軽減します。ただし、照合回数が多いほど、バーコードのデコードにかかる時間が長くなるので注意してください。照合設定を調節するには、以下の Straight 2 of 5 IATA Redundancy (Straight 2 of 5 IATA 照合設定) バーコードを読み取り、[プログラミング・チャート](#)から 0~10 の照合回数をスキャンします。その後、バーコードの **Save (保存)** をスキャンします。デフォルト値 = 0。



A25VOT.

Straight 2 of 5 IATA Redundancy
(Straight 2 of 5 IATA 照合設定)

Matrix 2 of 5

<Default All Matrix 2 of 5 Settings (Matrix 2 of 5 の設定をすべてデフォルトに戻す) >



X25DFT.

Matrix 2 of 5 のオン/オフ



X25ENA1.

On (オン)



X25ENA0.

* Off (オフ)

Matrix 2 of 5 のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(80 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 1~80。デフォルトの最小長 = 4、デフォルトの最大長 = 80。



Minimum Message Length (メッセージの最小長)



Maximum Message Length (メッセージの最大長)

Matrix 2 of 5 Redundancy (Matrix 2 of 5 照合設定)

Matrix 2 of 5 バーコードの読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合回数を調整したい場合があります。照合設定は、送信前にバーコードがデコードされる回数を調節し、これによりエラー数を軽減します。ただし、照合回数が多いほど、バーコードのデコードにかかる時間が長くなるので注意してください。照合設定を調節するには、以下の Matrix 2 of 5 Redundancy (Matrix 2 of 5 照合設定) バーコードを読み取り、[プログラミング・チャート](#)から 0~10 の照合回数をスキャンします。その後、バーコードの **Save (保存)** をスキャンします。デフォルト値 = 0。



Matrix 2 of 5 Redundancy (Matrix 2 of 5 照合設定)

Code 11

<Default All Code 11 Settings (Code 11 の設定をすべてデフォルトに戻す) >



Code 11 のオン/オフ



On (オン)



C11ENA0.

* Off (オフ)

必要チェック・デジット数

Code 11 バーコードで使用するチェック・デジットを、1 つにするか 2 つにするか設定します。デフォルト値 = *Two Check Digits* (チェック・デジット 2 つ)。



C11CK20.

One Check Digit (チェック・デジット 1 つ)



C11CK21.

* Two Check Digits (チェック・デジット 2 つ)

Code 11 のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(80 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 1~80。デフォルトの最小長 = 4、デフォルトの最大長 = 80。



C11MIN.

Minimum Message Length (メッセージの最小長)



C11MAX.

Maximum Message Length (メッセージの最大長)

Code 11 Redundancy (Code 11 照合設定)

Code 11 バーコードの読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合回数を調整したい場合があります。照合設定は、送信前にバーコードがデコードされる回数を調節し、これによりエラー数を軽減します。ただし、照合回数が多いほど、バーコードのデコードにかかる時間が長くなるので注意してください。照合設定を調節するには、以下の Code 11 Redundancy (Code 11 照合設定) バーコードを読み取り、[プログラミング・チャート](#)から 0~10 の照合回数をスキャンします。その後、バーコードの **Save** (保存) をスキャンします。デフォルト値 = 0。



C11VOT.

Code 11 Redundancy (Code 11 照合設定)

Code 128

<Default All Code 128 Settings (Code 128 の設定をすべてデフォルトに戻す) >



Code 128 のオン/オフ



* On (オン)



Off (オフ)

Code 128 のバーコードの読み取り中は、Codablock F を無効のままにしておく必要があります。Codablock F ([127 ページ参照](#)) が有効になっている場合は、Code 128 を無効にする必要があります。

ISBT 128 の連結

1994 年、ISBT (International Society of Blood Transfusion、国際輸血学会) は、重要な血液情報を統一された方法で伝達するための基準を承認しました。ISBT フォーマットを使用するには、有料ライセンスが必要です。ISBT 128 アプリケーション仕様では、1) 血液製剤にラベル付けするために重要なデータ要素について、2) 高度なセキュリティと省スペース設計により現在推奨される Code 128 について、3) 隣接するシンボルの連結をサポートする Code 128 の種類について、および、4) 血液製剤のラベル上のバーコードの標準レイアウトについて説明しています。連結をオンまたはオフにするには、以下のバーコードを使用します。デフォルト値 = Off (オフ)。



On (オン)



* Off (オフ)

ISBT 128 連結モード

ISBT 仕様の推奨に従って ISBT 連結モードを指定します。None (なし) = 連結読み取り禁止。Required (必須) = 連結読み取りを必須とする。Optional (オプション) = 連結読み取りは許可されるが必須ではない。デフォルト値 = Required (必須)。



ISBCCT0.

None (なし)



ISBCCT1.

* Required (必須)



ISBCCT2.

* Optional (オプション)

ISBT 128 の厳密連結

この設定は、ISBT 連結のルールを指定します。厳密連結がオンの場合は、仕様で指定された ISBT コードのみを連結できます。オフの場合は、どの ISBT コードも連結できます。デフォルト値 = On (オン)。



ISBSTR1.

* On (オン)



ISBSTR0.

Off (オフ)

ISBT 128 連結アライメント

この設定は、ISBT 連結に必要なアライメントを定義するのに使用します。Off (オフ) = 相対位置にかかわらず、他の画像からのコードを連結できます。On (オン) = 同一画像内で水平に並んだコードのみを連結できます。デフォルト値 = Off (オフ)。



ISBALI1.

On (オン)



ISBALI0.

* Off (オフ)

ISBT 128 代替 ID

オンの場合、ISBT コードは、通常の Code 128 と区別するための特定のコード ID を有し、Code 128 として読み取ることができません。デフォルト値 = Off (オフ)。



ISBALT1.

On (オン)



ISBALTO0.

* Off (オフ)

Code 128 Message Length (Code 128 のメッセージ長)

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(80 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 0~80。デフォルトの最小長 = 0、デフォルトの最大長 = 80。



128MIN.

Minimum Message Length (メッセージの最小長)



128MAX.

Maximum Message Length (メッセージの最大長)

Code 128 Append (Code 128 の連結)

この機能を使用すると、いくつかの Code 128 バーコードのデータを連結してから、ホスト・コンピュータに送信できます。スキャナは、連結のトリガー文字を含む Code 128 バーコードを検出すると、連結のトリガーを含まない Code 128 バーコードを読み取るまで、Code 128 バーコードをバッファします。その後、データはバーコードが読み取られた順番に送信されます (FIFO: 先入れ先出し)。デフォルト値 = On (オン)。



128APP1.

* On (オン)



128APP0.

Off (オフ)

Code 128 のコードページ

コードページでは、文字コードから文字へのマッピングを定義します。受信したデータが正しい文字で表示されない場合は、スキャンしたバーコードがホスト・プログラムの想定とは異なるコードページを使用して作成されたものである可能性があります。そのような場合は、以下のバーコードをスキャンした後、バーコードが作成されたコードページを選択し（218 ページの「[ISO 2022/ISO 646 置換文字](#)」を参照）、本マニュアルの裏表紙裏に記載されている[プログラミング・チャート](#)で数値をスキャンし、**Save (保存)** バーコードをスキャンします。これにより、データの文字が正しく表示されるようになります。



128DCP.

Code 128 のコードページ

Code 128 Redundancy (Code 128 照合設定)

Code 128 バーコードの読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合回数を調整したい場合があります。照合設定は、送信前にバーコードがデコードされる回数を調節し、これによりエラー数を軽減します。ただし、照合回数が多いほど、バーコードのデコードにかかる時間が長くなるので注意してください。照合設定を調節するには、以下の Code 128 Redundancy (Code 128 照合設定) バーコードを読み取り、[プログラミング・チャート](#)から 0~10 の照合回数をスキャンします。その後、バーコードの **Save (保存)** をスキャンします。デフォルト値 = 0。



128VOT.

Code 128 Redundancy (Code 128 照合設定)

GS1-128

<Default All GS1-128 Settings (GS1-128 の設定をすべてデフォルトに戻す) >



GS1DFT.

GS1-128 のオン／オフ



GS1ENA1.

* On (オン)



GS1ENA0.

Off (オフ)

GS1-128 のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(80 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 1~80。デフォルトの最小長 = 1、デフォルトの最大長 = 80。



GS1MIN.

Minimum Message Length (メッセージの最小長)



GS1MAX.

Maximum Message Length (メッセージの最大長)

GS1-128 Redundancy (GS1-128 照合設定)

GS1-128 バーコードの読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合回数を調整したい場合があります。照合設定は、送信前にバーコードがデコードされる回数を調節し、これによりエラー数を軽減します。ただし、照合回数が多いほど、バーコードのデコードにかかる時間が長くなるので注意してください。照合設定を調節するには、以下の GS1-128 Redundancy (GS1-128 照合設定) バーコードを読み取り、[プログラミング・チャート](#)から 0~10 の照合回数をスキャンします。その後、バーコードの **Save (保存)** をスキャンします。デフォルト値 = 0。



GS1VOT.

GS1-128 Redundancy (GS1-128 照合設定)

Telepen

<Default All GS1-128 Settings (GS1-128 の設定をすべてデフォルトに戻す) >



TELDFT.

Telepen のオン／オフ



TELENA1.

On (オン)



TELENA0.

* Off (オフ)

Telepen の出力

AIM Telepen Output (Telepen の AIM 出力) を使用すると、スキャナはスタート/ストップ・パターン 1 でシンボルを読み取り、標準のフル ASCII (スタート/ストップ・パターン 1) としてデコードします。Original Telepen Output (Telepen のオリジナル出力) を選択すると、スキャナはスタート/ストップ・パターン 1 でシンボルを読み取り、オプションのフル ASCII (スタート/ストップ・パターン 2) を含む圧縮された数値としてデコードします。デフォルト値 = AIM Telepen Output (Telepen の AIM 出力)。



TELOLD0.

* AIM Telepen Output (Telepen の AIM 出力)



TELOLD1.

Original Telepen Output (Telepen のオリジナル出力)

Telepen のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(80 ページ) を参照してください。最小長および最大長 = 1~60。デフォルトの最小長 = 1、デフォルトの最大長 = 60。



TELMIN.

Minimum Message Length (メッセージの最小長)



TELMAX.

Maximum Message Length (メッセージの最大長)

Telepen Redundancy (Telepen 照合設定)

Telepen バーコードの読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合回数を調整したい場合があります。照合設定は、送信前にバーコードがデコードされる回数を調節し、これによりエラー数を軽減します。ただし、照合回数が多いほど、バーコードのデコードにかかる時間が長くなるので注意してください。照合設定を調節するには、以下の Telepen Redundancy (Telepen 照合設定) バーコードを読み取り、[プログラミング・チャート](#)から 0~10 の照合回数をスキャンします。その後、バーコードの **Save (保存)** をスキャンします。デフォルト値 = 0。



TELVOT.

Telepen Redundancy (Telepen 照合設定)

UPC-A

<Default All UPC-A Settings (UPC-A の設定をすべてデフォルトに戻す) >



UPADFT.

UPC-A のオン/オフ



UPBENA1.

* On (オン)



UPBENA0.

Off (オフ)

注：UPC-A バーコードを EAN-13 に変換するには、111 ページの「[UPC-A を EAN-13 に変換する](#)」を参照してください。

UPC-A のチェック・デジット

これを選択すると、スキャン・データの最後にチェック・デジットを送信するかどうかを指定できます。デフォルト値 = On (オン)。



UPACKX1.

* On (オン)



UPACKX0.

Off (オフ)

UPC-A のナンバー・システム

通常は、スキャンされたデータの先頭に UPC シンボルのナンバー・システム・ディジットが送信されますが、それを送信しないようにユニットをプログラムできます。デフォルト値 = On (オン)。



UPANSX1.

* On (オン)



UPANSX0.

Off (オフ)

UPC-A Redundancy (UPC-A 照合設定)

UPC-A バーコードの読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合回数を調整したい場合があります。照合設定は、送信前にバーコードがデコードされる回数を調節し、これによりエラー数を軽減します。ただし、照合回数が多いほど、バーコードのデコードにかかる時間が長くなるので注意してください。照合設定を調節するには、以下の UPC-A Redundancy (UPC-A 照合設定) バーコードを読み取り、[プログラミング・チャート](#)から 0~10 の照合回数をスキャンします。その後、バーコードの **Save (保存)** をスキャンします。デフォルト値 = 0。



UPAVOT.

UPC-A Redundancy (UPC-A 照合設定)

UPC-A のアドオン

これを選択すると、スキャンされたすべての UPC-A データの末尾に 2 桁または 5 桁が追加されます。

デフォルト値 = 2 桁アドオンおよび 5 桁アドオンのいずれも Off (オフ)。



UPAAD21.

2 Digit Addenda On (2 桁のアドオン・オン)



UPAAD20.

* 2 Digit Addenda Off (2 桁のアドオン・オフ)



UPAAD51.

5 Digit Addenda On (5 桁のアドオン・オン)



UPAAD50.

* 5 Digit Addenda Off (5桁のアドオン・オフ)

UPC-A アドオン必須

Required (必須) をスキャンすると、スキャナはアドオンが含まれている UPC-A バーコードのみを読み取ります。その後、105 ページに記載された 2 桁または 5 桁のアドオンを、オンにする必要があります。デフォルト値 = Not Required (必須ではない)。



UPAARQ1.

Required (必須)



UPAARQ0.

* Not Required (必須ではない)

アドオンのタイムアウト

スキャナがアドオンを検索する時間を設定できます。この時間内にアドオンが見つからない場合は、「UPC-A Addenda Required (UPC-A アドオン必須)」(6-106 ページ) に使用されている設定に基づいて、データを送信または破棄できます。タイムアウトの時間 (ミリ秒単位) を設定するには、下記のバーコードをスキャンしてから、プログラミング・チャートの数字をスキャンしてタイムアウト (0~65,535 ミリ秒) を設定した後で、Save (保存) をスキャンします。デフォルト値 = 100。



DLYADD.

Addenda Timeout (アドオンのタイムアウト)

UPC-A のアドオン・セパレーター

この機能をオンにすると、バーコードのデータとアドオンのデータの間スペースが挿入されます。Off (オフ) にすると、スペースは挿入されません。デフォルト値 = On (オン)。



UPAADS1.

* On (オン)



UPAADS0.

Off (オフ)

拡張クーポン・コード付き UPC-A/EAN-13

拡張クーポン・コード付き UPC-A/EAN-13 を有効または無効にするには、以下のコードを使用します。デフォルト設定 (Off (オフ)) のままにすると、スキャナはクーポン・コードおよび拡張クーポン・コードを単一のバーコードとして扱います。

Allow Concatenation (連結許可) コードをスキャンすると、スキャナは 1 回のスキャンでクーポン・コードと拡張クーポン・コードを見つけたときに、両方を 1 つのシンボル体系として送信します。それ以外の場合は、最初に読み取ったクーポン・コードを送信します。

Require Concatenation (連結必須) コードをスキャンすると、データを送信するには、クーポン・コードと拡張クーポン・コードを 1 回のスキャンで読み取る必要があります。両方のコードを読み取らない限り、データは出力されません。デフォルト値 = Off (オフ)。



CPNENA0.

* Off (オフ)



CPNENA1.

Allow Concatenation (連結許可)



CPNENA2.

Require Concatenation (連結必須)

Coupon GS1 DataBar Output (クーポン GS1 DataBar 出力)

UPC と GS1 DataBar の両方のコードを持つクーポンをスキャンする場合に、GS1 DataBar コードからのデータのみをスキャンして出力することもできます。GS1 DataBar コードのデータのみをスキャンして出力するには、以下の **GS1 Output On (GS1 出力オン)** コードをスキャンします。デフォルト値 = GS1 Output Off (GS1 出力オフ)。



CPNGS10.

* GS1 Output Off (GS1 出力オフ)



CPNGS11.

GS1 Output On (GS1 出力オン)

UPC-E0

<Default All UPC-E Settings (UPC-E の設定をすべてデフォルトに戻す) >



UPC-E0 のオン/オフ

ほとんどの UPC バーコードは、0 ナンバー・システムで始まります。これらのコードを読み取るには、UPC-E0 On (UPC-E0 オン) オプションを使用します。1 ナンバー・システムで始まるコードを読み取る必要がある場合は、[UPC-E1](#) (111 ページ) を使用してください。デフォルト値 = On (オン)。



* UPC-E0 On (UPC-E0 オン)



UPC-E0 Off (UPC-E0 オフ)

UPC-E0 Expand (UPC-E0 拡張)

UPC-E 拡張では、UPC-E コードを 12 桁の UPC-A 形式に拡張します。デフォルト値 = Off (オフ)。



On (オン)



* Off (オフ)

UPC-E0 Redundancy (UPC-E0 照合設定)

UPC-E0 バーコードの読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合回数を調整したい場合があります。照合設定は、送信前にバーコードがデコードされる回数を調節し、これによりエラー数を軽減します。ただし、照合回数が多いほど、バーコードのデコードにかかる時間が長くなるので注意してください。照合設定を調節するには、以下の UPC-E0 Redundancy (UPC-E0 照合設定) バーコードを読み取り、[プログラミング・チャート](#)から 0~10 の照合回数をスキャンします。その後、バーコードの **Save (保存)** をスキャンします。デフォルト値 = 0。



UPEVOT.

UPC-E0 Redundancy (UPC-E0 照合設定)

UPC-E0 アドオン必須

Required (必須) をスキャンすると、スキャナはアドオンが含まれている UPC-E バーコードのみを読み取ります。デフォルト値 = *Not Required* (必須ではない)。



UPEARQ1.

Required (必須)



UPEARQ0.

* Not Required (必須ではない)

UPC-E0 Addenda Separator (UPC-E0 のアドオン・セパレータ)

この機能を On (オン) にすると、バーコードのデータとアドオンのデータの間スペースが挿入されます。Off (オフ) にすると、スペースは挿入されません。デフォルト値 = *On* (オン)。



UPEADS1.

* On (オン)



UPEADS0.

Off (オフ)

UPC-E0 Check Digit (UPC-E0 のチェック・デジット)

チェック・デジットは、スキャン・データの最後にチェック・デジットを送信するかどうかを指定します。デフォルト値 = *On* (オン)。



UPECKX1.

* On (オン)



UPECKX0.

Off (オフ)

UPC-E0 の先頭のゼロ

この機能により、スキャン・データの最初に先行ゼロ (0) を送信できます。送信しない場合は、Off (オフ) をスキャンします。デフォルト値 = On (オン)。



UPENSX1.

* On (オン)



UPENSX0.

Off (オフ)

UPC-E0 のアドオン

これを選択すると、スキャンされたすべての UPC-E データの末尾に 2 桁または 5 桁が追加されます。デフォルト値 = 2 桁アドオンおよび 5 桁アドオンのいずれも Off (オフ)。



UPEAD21.

2 Digit Addenda On (2 桁のアドオン・オン)



UPEAD20.

* 2 Digit Addenda Off (2 桁のアドオン・オフ)



UPEAD51.

5 Digit Addenda On (5 桁のアドオン・オン)



UPEAD50.

* 5 Digit Addenda Off (5 桁のアドオン・オフ)

UPC-E1

ほとんどの UPC バーコードは、0 ナンバー・システムで始まります。これらのコードには、[UPC-E0](#) (108 ページ) を使用します。1 ナンバー・システムで始まるコードを読み取る必要がある場合は、**UPC-E1 On** (**UPC-E1 オン**) オプションを使用してください。デフォルト値 = Off (オフ)。



UPEEN11.

UPC-E1 On (UPC-E1 オン)



UPEEN10.

* UPC-E1 Off (UPC-E1 オフ)

EAN/JAN-13

<Default All EAN/JAN Settings (EAN/JAN の設定をすべてデフォルトに戻す) >



E13DFT.

EAN/JAN-13 のオン/オフ



E13ENA1.

* On (オン)



E13ENA0.

Off (オフ)

UPC-A を EAN-13 に変換する

UPC-A Converted to EAN-13 (**UPC-A を EAN-13 に変換する**) を選択すると、UPC-A バーコードは 13 桁の EAN-13 コードに変換され、先頭にゼロが付加されます。**Do not Convert UPC-A** (**UPC-A を変換しない**) を選択すると、UPC-A コードは UPC-A として読み取られます。



UPAENA0.

UPC-A Converted to EAN-13 (UPC-A を EAN-13 に変換する)



UPAENA1.

* Do not Convert UPC-A (UPC-A を変換しない)

EAN/JAN-13 のチェック・デジット

これを選択すると、スキャン・データの最後にチェック・デジットを送信するかどうかを指定できます。デフォルト値 = On (オン)。



E13CKX1.

* On (オン)



E13CKX0.

Off (オフ)

EAN/JAN-13 Redundancy (EAN/JAN-13 照合設定)

EAN/JAN-13 バーコードの読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合回数を調整したい場合があります。照合設定は、送信前にバーコードがデコードされる回数を調節し、これによりエラー数を軽減します。ただし、照合回数が多いほど、バーコードのデコードにかかる時間が長くなるので注意してください。照合設定を調節するには、以下の EAN/JAN-13 Redundancy (EAN/JAN-13 照合設定) バーコードを読み取り、[プログラミング・チャート](#)から 0~10 の照合回数をスキャンします。その後、バーコードの **Save (保存)** をスキャンします。デフォルト値 = 0。



E13VOT.

EAN/JAN-13 Redundancy (EAN/JAN-13 照合設定)

EAN/JAN-13 のアドオン

これを選択すると、スキャンされたすべての EAN/JAN-13 データの末尾に 2 桁または 5 桁が追加されます。

デフォルト値 = 2 桁アドオンおよび 5 桁アドオンのいずれも Off (オフ)。



E13AD21.

2 Digit Addenda On (2 桁のアドオン・オン)



E13AD20.

* 2 Digit Addenda Off (2 桁のアドオン・オフ)



E13AD51.

5 Digit Addenda On (5 桁のアドオン・オン)



E13AD50.

* 5 Digit Addenda Off (5桁のアドオン・オフ)

EAN/JAN-13 アドオン必須

Required (必須) をスキャンすると、スキャナはアドオンが含まれている EAN/JAN-13 バーコードのみを読み取ります。デフォルト値 = Not Required (必須ではない)。



E13ARQ1.

Required (必須)



E13ARQ0.

* Not Required (必須ではない)

290 から始まる EAN-13 へのアドオン要求

この設定は、「290」で始まる EAN-13 バーコードにのみ 5 桁のアドオンを要求するようにスキャナをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require 5 Digit Addenda (5 桁のアドオンを要求する)：「290」で始まるすべての EAN-13 バーコードは、5 桁のアドオンが必要です。その後、5 桁のアドオンを有する EAN-13 バーコードが、単一の連結バーコードとして送信されます。[アドオンのタイムアウト](#) 時間内に 5 桁のアドオンが見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

注： EAN-13 Beginning with 290 Addenda Required (290 から始まる EAN-13 へのアドオン要求) を使用している場合は、この設定が優先されます。

Don't Require 5 Digit Addenda (5 桁のアドオンを要求しない)： Require 5 Digit Addenda (5 桁のアドオンを要求する) を選択している状態で、この機能を無効にしたい場合は、**Don't Require 5 Digit Addenda (5 桁のアドオンを要求しない)** をスキャンします。[EAN/JAN-13 Addenda Required](#) (EAN/JAN-13 アドオン必須) の設定に基づき、EAN-13 バーコードが送信されます。

デフォルト値 = Don't Require 5 Digit Addenda (5 桁のアドオンを要求しない)。



ARQ2900.

* Don't Require 5 Digit Addenda (5 桁のアドオンを要求しない)



ARQ2901.

Require 5 Digit Addenda (5 桁のアドオンを要求)

378/379 から始まる EAN-13 へのアドオン要求

この設定は、「378」または「379」で始まる EAN-13 バーコードに、2桁のアドオンまたは5桁のアドオンの任意の組み合わせを要求するようにスキャナをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Addenda (アドオンを要求する)： 「378」または「379」で始まるすべての EAN-13 バーコードは、2桁のアドオン、5桁のアドオン、またはこれらのアドオンの組み合わせを有している必要があります。その後、アドオンを有する EAN-13 バーコードが、単一の連結バーコードとして送信されます。**アドオンのタイムアウト** 時間内に要求されたアドオンが見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

Don't Require Addenda (アドオンを要求しない)： Require Addenda (アドオンを要求する) を選択している状態で、この機能を無効にしたい場合は、**Don't Require Addenda (アドオンを要求しない)** をスキャンします。**EAN/JAN-13 Addenda Required (EAN/JAN-13 アドオン必須)** の設定に基づき、EAN-13 バーコードが送信されます。

デフォルト値 = *Don't Require Addenda (アドオンを要求しない)*。



* Don't Require Addenda (アドオンを要求しない)



Require 2 Digit Addenda (2桁のアドオンを要求する)



Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを要求する)



Require 2 or 5 Digit Addenda (2桁または5桁のアドオンを要求する)

414/419 から始まる EAN-13 へのアドオン要求

この設定は、「414」または「419」で始まる EAN-13 バーコードに、2桁のアドオンまたは5桁のアドオンの任意の組み合わせを要求するようにスキャナをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Addenda (アドオンを要求する)： 「414」または「419」で始まるすべての EAN-13 バーコードは、2桁のアドオン、5桁のアドオン、またはこれらのアドオンの組み合わせを有している必要があります。その後、アドオンを有する EAN-13 バーコードが、単一の連結バーコードとして送信されます。**アドオンのタイムアウト** 時間内に要求されたアドオンが見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

Don't Require Addenda (アドオンを要求しない)： Require Addenda (アドオンを要求する) を選択している状態で、この機能を無効にしたい場合は、**Don't Require Addenda (アドオンを要求しない)** をスキャンします。**EAN/JAN-13 Addenda Required (EAN/JAN-13 アドオン必須)** の設定に基づき、EAN-13 バーコードが送信されます。

デフォルト値 = Don't Require Addenda (アドオンを要求しない)。



* Don't Require Addenda (アドオンを要求しない)



Require 2 Digit Addenda (2桁のアドオンを要求する)



Require 5 Digit Addend (5桁のアドオンを要求する)



Require 2 or 5 Digit Addenda (2桁または5桁のアドオンを要求する)

434/439 から始まる EAN-13 へのアドオン要求

この設定は、「434」または「439」で始まる EAN-13 バーコードに、2桁のアドオンまたは5桁のアドオンの任意の組み合わせを要求するようにスキャナをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Addenda (アドオンを要求する)：「434」または「439」で始まるすべての EAN-13 バーコードは、2桁のアドオン、5桁のアドオン、またはこれらのアドオンの組み合わせを有している必要があります。その後、アドオンを有する EAN-13 バーコードが、単一の連結バーコードとして送信されます。**アドオンのタイムアウト**時間内に要求されたアドオンが見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

Don't Require Addenda (アドオンを要求しない)： Require Addenda (アドオンを要求する) を選択している状態で、この機能を無効にしたい場合は、**Don't Require Addenda (アドオンを要求しない)** をスキャンします。**EAN/JAN-13 Addenda Required (EAN/JAN-13 アドオン必須)** の設定に基づき、EAN-13 バーコードが送信されます。

デフォルト値 = Don't Require Addenda (アドオンを要求しない)。



* Don't Require Addenda (アドオンを要求しない)



Require 2 Digit Addend (2桁のアドオンを要求する)



Require 5 Digit Addend (5桁のアドオンを要求する)



ARQ4343.

Require 2 or 5 Digit Addenda (2桁
または5桁のアドオンを要求する)

491 から始まる EAN-13 へのアドオン要求

この設定は、「491」で始まる EAN-13 バーコードに、2桁のアドオンまたは5桁のアドオンの任意の組み合わせを要求するようにスキャナをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Addenda (アドオンを要求する)：「491」で始まるすべての EAN-13 バーコードは、2桁のアドオン、5桁のアドオン、またはこれらのアドオンの組み合わせを有している必要があります。その後、アドオンを有する EAN-13 バーコードが、単一の連結バーコードとして送信されます。[アドオンのタイムアウト](#)時間内に要求されたアドオンが見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

Don't Require Addenda (アドオンを要求しない)：Require Addenda (アドオンを要求する) を選択している状態で、この機能を無効にしたい場合は、**Don't Require Addenda (アドオンを要求しない)** をスキャンします。[EAN/JAN-13 Addenda Required](#) (EAN/JAN-13 アドオン必須) の設定に基づき、EAN-13 バーコードが送信されます。

デフォルト値 = *Don't Require Addenda* (アドオンを要求しない)。



ARQ4910.

* Don't Require Addenda (アドオン
を要求しない)



ARQ4911.

Require 2 Digit Addenda (2桁のア
ドオンを要求する)



ARQ4912.

Require 5 Digit Addend (5桁のア
ドオンを要求する)



ARQ4913.

Require 2 or 5 Digit Addenda (2桁
または5桁のアドオンを要求する)

977 から始まる EAN-13 へのアドオン要求

この設定は、「977」で始まる EAN-13 バーコードにのみ2桁のアドオンを要求するようにスキャナをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require 2 Digit Addenda (2桁のアドオンを要求する)：「977」で始まるすべての EAN-13 バーコードは、2桁のアドオンが必要です。その後、2桁のアドオンを有する EAN-13 バーコードが、単一の連結バーコードとして送信されます。**アドオンのタイムアウト**時間内に2桁のアドオンが見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

Don't Require 2 Digit Addenda (2桁のアドオンを要求しない)： Require 2 Digit Addenda (2桁のアドオンを要求する) を選択している状態で、この機能を無効にしたい場合は、**Don't Require 2 Digit Addenda (2桁のアドオンを要求しない)** をスキャンします。**EAN/JAN-13 Addenda Required** (EAN/JAN-13 アドオン必須) の設定に基づき、EAN-13 バーコードが送信されます。

デフォルト値 = *Don't Require Addenda* (アドオンを要求しない)。



ARQ9770.

* Don't Require 2 Digit Addenda (2桁のアドオンを
要求しない)



ARQ9771.

Require 2 Digit Addenda (2桁のアドオンを要求する)

978 から始まる EAN-13 へのアドオン要求

この設定は、「978」で始まる EAN-13 バーコードにのみ5桁のアドオンを要求するようにスキャナをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを要求する)：「978」で始まるすべての EAN-13 バーコードは、5桁のアドオンが必要です。その後、5桁のアドオンを有する EAN-13 バーコードが、単一の連結バーコードとして送信されます。**アドオンのタイムアウト**時間内に5桁のアドオンが見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

Don't Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを要求しない)： Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを要求する) を選択している状態で、この機能を無効にしたい場合は、**Don't Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを要求しない)** をスキャンします。**EAN/JAN-13 Addenda Required** (EAN/JAN-13 アドオン必須) の設定に基づき、EAN-13 バーコードが送信されます。

デフォルト値 = *Don't Require Addenda* (アドオンを要求しない)。



ARQ9780.

* Don't Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを
要求しない)



ARQ9781.

Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを要求する)

979 から始まる EAN-13 へのアドオン要求

この設定は、「979」で始まる EAN-13 バーコードにのみ5桁のアドオンを要求するようにスキャナをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを要求する)：「979」で始まるすべての EAN-13 バーコードは、5桁のアドオンが必要です。その後、5桁のアドオンを有する EAN-13 バーコードが、単一の連結バーコードとして送信されます。**アドオンのタイムアウト**時間内に5桁のアドオンが見つからない場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

Don't Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを要求しない)：Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを要求する) を選択している状態で、この機能を無効にしたい場合は、**Don't Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを要求しない)** をスキャンします。**EAN/JAN-13 Addenda Required (EAN/JAN-13 アドオン必須)** の設定に基づき、EAN-13 バーコードが送信されます。

デフォルト値 = *Don't Require Addenda* (アドオンを要求しない)。



ARQ9790.

* Don't Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを
要求しない)



ARQ9791.

Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを要求する)

EAN/JAN-13 Addenda Separator (EAN/JAN-13 のアドオン・セパレーター)

この機能を **On (オン)** にすると、バーコードのデータとアドオンのデータの間スペースが挿入されます。Off (オフ) にすると、スペースは挿入されません。デフォルト値 = *On* (オン)。



E13ADS1.

* On (オン)



E13ADS0.

Off (オフ)

注：拡張クーポン・コード付き EAN-13 を有効または無効にしたい場合は、「**拡張クーポン・コード付き UPC-A/EAN-13**」(107 ページ) を参照してください。

ISBN Translate (ISBN 変換)

On (オン) をスキャンすると、EAN-13 Bookland シンボルが同等の ISBN 番号フォーマットに変換されます。デフォルト値 = *Off* (オフ)。



E13ISB1.

On (オン)



E13ISB0.

* Off (オフ)

EAN/JAN-8

<Default All EAN/JAN 8 Settings (EAN/JAN-8 の設定をすべてデフォルトに戻す) >



EAN/JAN-8 のオン/オフ



* On (オン)



Off (オフ)

EAN/JAN-8 のチェック・デジット

これを選択すると、スキャン・データの最後にチェック・デジットを送信するかどうかを指定できます。デフォルト値 = On (オン)。



* On (オン)



Off (オフ)

EAN/JAN-8 Redundancy (EAN/JAN-8 照合設定)

EAN/JAN-8 バーコードの読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合回数を調整したい場合があります。照合設定は、送信前にバーコードがデコードされる回数を調節し、これによりエラー数を軽減します。ただし、照合回数が多いほど、バーコードのデコードにかかる時間が長くなるので注意してください。照合設定を調節するには、以下の EAN/JAN-8 Redundancy (EAN/JAN-8 照合設定) バーコードを読み取り、[プログラミング・チャート](#)から 0~10 の照合回数をスキャンします。その後、バーコードの **Save (保存)** をスキャンします。デフォルト値 = 0。



EAN/JAN-8 Redundancy (EAN/JAN-8 照合設定)

EAN/JAN-8 のアドオン

これを選択すると、スキャンされたすべての EAN/JAN-8 データの末尾に 2 桁または 5 桁が追加されます。デフォルト値 = 2 桁アドオンおよび 5 桁アドオンのいずれも Off (オフ)。



2 Digit Addenda On (2 桁のアドオン・オン)



* 2 Digit Addenda Off (2 桁のアドオン・オフ)



5 Digit Addenda On (5 桁のアドオン・オン)



* 5 Digit Addenda Off (5 桁のアドオン・オフ)

EAN/JAN-8 アドオン必須

Required (必須) をスキャンすると、スキャナはアドオンが含まれている EAN/JAN-8 バーコードのみを読み取ります。デフォルト値 = Not Required (必須ではない)。



Required (必須)



* Not Required (必須ではない)

EAN/JAN-8 Addenda Separator (EAN/JAN-8 のアドオン・セパレーター)

この機能を On (オン) にすると、バーコードのデータとアドオンのデータの間スペースが挿入されます。Off (オフ) にすると、スペースは挿入されません。デフォルト値 = On (オン)。



* On (オン)



Off (オフ)

MSI

<Default All MSI Settings (MSI の設定をすべてデフォルトに戻す) >



MSI のオン/オフ



On (オン)



MSIENA0.

* Off (オフ)

MSI のチェック・キャラクタ

MSI バーコードには、異なるタイプのチェック・キャラクタが使用されます。スキャナをプログラムして、タイプ 10 のチェック・キャラクタを使用する MSI バーコードを読み取るようにすることができます。デフォルト値 = *Validate Type 10, but Don't Transmit* (タイプ 10 を検証するが送信しない)。

チェック・キャラクタが **Validate Type 10/11 and Transmit** (タイプ 10/11 を検証して送信) に設定されている場合、スキャナは指定したタイプのチェック・キャラクタありで印刷された MSI バーコードのみを読み取り、スキャン・データの末尾にチェック・キャラクタを付加して送信します。

チェック・キャラクタが **Validate Type 10/11, but Don't Transmit** (タイプ 10/11 を検証するが送信しない) に設定されている場合、ユニットは指定したタイプのチェック・キャラクタありで印刷された MSI バーコードのみを読み取りますが、スキャン・データの送信時に、チェック・キャラクタを付加しません。



MSICK0.

* *Validate Type 10, but Don't Transmit* (タイプ 10 を検証するが送信しない)



MSICK1.

Validate Type 10 and Transmit (タイプ 10 を検証して送信)



MSICK2.

Validate 2 Type 10 Characters, but Don't Transmit (2つのタイプ 10 文字を検証するが送信しない)



MSICK3.

Validate 2 Type 10 Characters and Transmit (2つのタイプ 10 文字を検証して送信)



MSICLK4.

Validate Type 11 then Type 10
Character, but Don't Transmit (タイ
プ 11 文字の後でタイプ 10 文字を検
証するが送信しない)



MSICLK5.

Validate Type 11 then
Type 10 Character and Transmit
(タイプ 11 文字の後でタイプ 10 文
字を検証して送信する)



MSICLK6.

Disable MSI Check Characters
(MSI のチェック・キャラクタ無
効)

MSI のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(80 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 4~48。デフォルトの最小長 = 4、デフォルトの最大長 = 48。



MSIMIN.

Minimum Message Length (メッセ
ージの最小長)



MSIMAX.

Maximum Message Length (メッ
セージの最大長)

MSI Redundancy (MSI 照合設定)

MSI バーコードの読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合回数を調整したい場合があります。照合設定は、送信前にバーコードがデコードされる回数を調節し、これによりエラー数を軽減します。ただし、照合回数が多いほど、バーコードのデコードにかかる時間が長くなるので注意してください。照合設定を調節するには、以下の MSI Redundancy (MSI 照合設定) バーコードを読み取り、[プログラミング・チャート](#)から 0~10 の照合回数をスキャンします。その後、バーコードの **Save (保存)** をスキャンします。デフォルト値 = 0。



MSIVOT.

MSI Redundancy (MSI 照合設定)

GS1 DataBar Omnidirectional

<Default All GS1 DataBar Omnidirectional Settings (GS1 DataBar Omnidirectional の設定をすべてデフォルトに戻す) >



GS1 DataBar Omnidirectional のオン/オフ



* On (オン)



Off (オフ)

GS1 DataBar Omnidirectional Redundancy (GS1 DataBar Omnidirectional 照合設定)

GS1 DataBar Omnidirectional バーコードの読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合回数を調整したい場合があります。照合設定は、送信前にバーコードがデコードされる回数を調節し、これによりエラー数を軽減します。ただし、照合回数が多いほど、バーコードのデコードにかかる時間が長くなるので注意してください。照合設定を調節するには、以下の GS1 DataBar Omnidirectional Redundancy (GS1 DataBar Omnidirectional 照合設定) バーコードを読み取り、[プログラミン](#)
[グ・チャート](#)から 0~10 の照合回数をスキャンします。その後、バーコードの **Save (保存)** をスキャンします。デフォルト値 = 0。



GS1 DataBar Omnidirectional
Redundancy (GS1 DataBar
Omnidirectional 照合設定)

GS1 DataBar Limited

<Default All GS1 DataBar Limited Settings (GS1 DataBar Limited の設定をすべてデフォルトに戻す) >



GS1 DataBar Limited のオン／オフ



RSEENA1.

* On (オン)



RSEENA0.

Off (オフ)

GS1 DataBar Limited Redundancy (GS1 DataBar Limited 照合設定)

GS1 DataBar Limited バーコードの読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合回数を調整したい場合があります。照合設定は、送信前にバーコードがデコードされる回数を調節し、これによりエラー数を軽減します。ただし、照合回数が多いほど、バーコードのデコードにかかる時間が長くなるので注意してください。照合設定を調節するには、以下の GS1 DataBar Limited Redundancy (GS1 DataBar Limited 照合設定) バーコードを読み取り、[プログラミング・チャート](#)から 0~10 の照合回数をスキャンします。その後、バーコードの **Save (保存)** をスキャンします。デフォルト値 = 0。



RSLVOT.

GS1 DataBar Limited Redundancy
(GS1 DataBar Limited 照合設定)

GS1 DataBar Expanded

<Default All GS1 DataBar Expanded Settings (GS1 DataBar Expanded の設定をすべてデフォルトに戻す) >



RSEDFT.

GS1 DataBar Expanded のオン／オフ



RSEENA1.

* On (オン)



RSEENA0.

Off (オフ)

GS1 DataBar Expanded のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(80 ページ) を参照してください。最小長および最大長 = 4~74。デフォルトの最小長 = 4、デフォルトの最大長 = 74。



Minimum Message Length (メッセージの最小長)



Maximum Message Length (メッセージの最大長)

GS1 DataBar Expanded Redundancy (GS1 DataBar Expanded 照合設定)

GS1 DataBar Expanded バーコードの読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合回数を調整したい場合があります。照合設定は、送信前にバーコードがデコードされる回数を調節し、これによりエラー数を軽減します。ただし、照合回数が多いほど、バーコードのデコードにかかる時間が長くなるので注意してください。照合設定を調節するには、以下の GS1 DataBar Expanded Redundancy (GS1 DataBar Expanded 照合設定) バーコードを読み取り、[プログラミング・チャート](#)から 0~10 の照合回数をスキャンします。その後、バーコードの **Save (保存)** をスキャンします。デフォルト値 = 0。



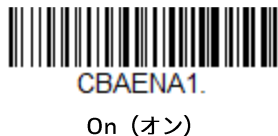
GS1 DataBar Expanded
Redundancy (GS1 DataBar
Expanded 照合設定)

Codablock A

<Default All Codablock A Settings (Codablock A の設定をすべてデフォルトに戻す) >



Codablock A のオン/オフ



Code 39 のバーコードの読み取り中は、Codablock A を無効のままにしておく必要があります。Codablock A が有効になっている場合は、Code 39 を無効にする必要があります (83 ページ参照)。

Codablock A のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(80 ページ) を参照してください。最小長および最大長 = 1~600。デフォルトの最小長 = 1、デフォルトの最大長 = 600。



Minimum Message Length (メッセージの最小長)



Maximum Message Length (メッセージの最大長)

Codablock F

<Default All Codablock F Settings (Codablock F の設定をすべてデフォルトに戻す) >



Codablock F のオン／オフ



CBFENA1.

On (オン)



CBFENA0.

* Off (オフ)

Code 128 のバーコードの読み取り中は、Codablock F を無効のままにしておく必要があります。Codablock F が有効になっている場合は、Code 128 を無効にする必要があります (98 ページ参照)。

Codablock F のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(80 ページ) を参照してください。最小長および最大長 = 1~2048。デフォルトの最小長 = 1、デフォルトの最大長 = 2048。



CBFMIN.

Minimum Message Length (メッセージの最小長)



CBFMAX.

Maximum Message Length (メッセージの最大長)

ラベル・コード

標準ラベル・コードは、ライブラリで使用されます。デフォルト値 = Off (オフ)。



LBLENA1.

On (オン)



LBLENA0.

* Off (オフ)

PDF417

<Default All PDF417 Settings (PDF417 の設定をすべてデフォルトに戻す) >



PDFDFT.

PDF417 のオン/オフ



PDFENA1.

* On (オン)



PDFENA0.

Off (オフ)

PDF417 のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(80 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 1~2750。デフォルトの最小長 = 1、デフォルトの最大長 = 2750。



PDFMIN.

Minimum Message Length (メッセージの最小長)



PDFMAX.

Maximum Message Length (メッセージの最大長)

PDF417 のコードページ

PDF417 のコードページでは、文字コードから文字へのマッピングを定義します。受信したデータが正しい文字で表示されない場合は、スキャンしたバーコードがホスト・プログラムの想定とは異なるコードページを使用して作成されたものである可能性があります。そのような場合は、以下のバーコードをスキャンした後、バーコードが作成されたコードページを選択し (218 ページの「[ISO 2022/ISO 646 置換文字](#)」を参照)、本マニュアルの裏表紙裏に記載されている[プログラミング・チャート](#)で数値をスキャンし、**Save (保存)** バーコードをスキャンします。これにより、データの文字が正しく表示されるようになります。



PDFDCP.

PDF417 Code Page (PDF41 のコードページ)

MacroPDF417

Macro PDF417 は PDF417 の 1 つの実装であり、大量のデータをエンコードして複数の PDF417 バーコードに分割できます。この選択を有効にすると、このような複数のバーコードが単一のデータ文字列に組み立てられます。デフォルト値 = On (オン)。



PDFMAC1.

* On (オン)



PDFMAC0.

Off (オフ)

MicroPDF417

<Default All MicroPDF417 Settings (MicroPDF417 の設定をすべてデフォルトに戻す) >



MPDFFT.

MicroPDF417 のオン/オフ



MPDENA1.

On (オン)



MPDENA0.

* Off (オフ)

MicroPDF417 のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(80 ページ) を参照してください。最小長および最大長 = 1~366。デフォルトの最小長 = 1、デフォルトの最大長 = 366。



MPDMIN.

Maximum Message Length (メッセージの最大長)



MPDMAX.

Maximum Message Length (メッセージの最大長)

MicroPDF417 のコードページ

MicroPDF417 のコードページでは、文字コードから文字へのマッピングを定義します。受信したデータが正しい文字で表示されない場合は、スキャンしたバーコードがホスト・プログラムの想定とは異なるコードページを使用して作成されたものである可能性があります。そのような場合は、以下のバーコードをスキャンした後、バーコードが作成されたコードページを選択し（218 ページの「[ISO 2022/ISO 646 置換文字](#)」を参照）、本マニュアルの裏表紙裏に記載されている[プログラミング・チャート](#)で数値をスキャンし、**Save (保存)** バーコードをスキャンします。これにより、データの文字が正しく表示されるようになります。



MPDDCP.

MicroPDF417 Code Page
(MicroPDF417 のコードページ)

GS1 コンポジット・コード

リニア・コードは、一意の 2 次元コンポジット・コンポーネントと組み合わせることで、GS1 コンポジット・シンボル体系と呼ばれる新しいクラスを形成します。GS1 コンポジット・シンボル体系は、すでに使用しているシンボル体系と共存させることができます。デフォルト値 = Off (オフ)。



COMENA1.

On (オン)



COMENA0.

* Off (オフ)

UPC/EAN Version (UPC/EAN のバージョン)

UPC または EAN リニア・コンポーネントのある GS1 コンポジット・シンボルをデコードするには、**UPC/EAN Version On (UPC/EAN バージョン・オン)** バーコードをスキャンします。(これは GS1-128 または GS1 リニア・コンポーネントを持つ GS1 コンポジット・シンボルには影響しません)。デフォルト値 = **UPC/EAN Version Off (UPC/EAN バージョン・オフ)**。



UPC/EAN Version On (UPC/EAN バージョン・オン)



*UPC/EAN Version Off (UPC/EAN バージョン・オフ)

注：UPC と GS1 DataBar の両方のコードを持つクーポンをスキャンする場合に、GS1 DataBar コードからのデータのみをスキャンして出力することもできます。詳細については、「[クーポンGS1 DataBar 出力](#)」(107 ページ) を参照してください。

GS1 コンポジット・コードのメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(80 ページ) を参照してください。最小長および最大長 = 1~2435。デフォルトの最小長 = 1、デフォルトの最大長 = 2435。



Minimum Message Length (メッセージの最小長)



Maximum Message Length (メッセージの最大長)

GS1 コンポジット・コードのコードページ

GS1 コンポジット・コードのコードページでは、文字コードから文字へのマッピングを定義します。受信したデータが正しい文字で表示されない場合は、スキャンしたバーコードがホスト・プログラムの想定とは異なるコードページを使用して作成されたものである可能性があります。そのような場合は、以下のバーコードをスキャンした後、バーコードが作成されたコードページを選択し(218 ページの「[ISO 2022/ISO 646 置換文字](#)」を参照)、本マニュアルの裏表紙裏に記載されている[プログラミング・チャート](#)で数値をスキャンし、**Save (保存)** バーコードをスキャンします。これにより、データの文字が正しく表示されるようになります。



GS1 Composite Code Code Page (GS1 コンポジット・コードのコードページ)

GS1 Emulation (GS1 エミュレーション)

スキャナは、任意の GS1 データ・キャリアーからの出力を自動的にフォーマットして、同等の GS1-128 または GS1 DataBar シンボルにエンコードされる内容をエミュレーションできます。GS1 データ・キャリアーには、UPC-A と UPC-E、EAN-13 と EAN-8、ITF-14、GS1-128、および GS1-128 DataBar と GS1 コンポジットが含まれます。(GS1 データを受信するアプリケーションは、1 種類のデータ・キャリアーを認識するだけで済むため、すべて単純化することができます)。

GS1-128 Emulation (GS1-128 エミュレーション) をスキャンすると、小売コード (UPC、UPC-E、EAN8、EAN13) はすべて 16 桁まで拡張されます。AIM ID を有効にすると、その値は GS1-128 AIM ID,]C1 になります (209 ページの「[シンボル体系チャート](#)」を参照)。

GS1 DataBar Emulation (GS1 DataBar エミュレーション) をスキャンすると、小売コード (UPC、UPC-E、EAN8、EAN13) はすべて 16 桁まで拡張されます。AIM ID を有効にすると、その値は GS1-DataBar AIM ID,]em になります (209 ページの「[シンボル体系チャート](#)」を参照)。

GS1 Code Expansion Off (GS1 コード拡張オフ) をスキャンすると、小売コードの拡張は無効になり、UPC-E 拡張は [UPC-EO 拡張](#) (108 ページ) の設定によって制御されます。AIM ID を有効にすると、その値は GS1-128 AIM ID,]C1 になります (209 ページの「[シンボル体系チャート](#)」を参照)。

EAN8 to EAN13 Conversion (EAN8 を EAN13 に変換) をスキャンすると、EAN8 バーコードはすべて EAN13 フォーマットに変換されます。

デフォルト値 = GS1 Emulation Off (GS1 エミュレーション・オフ)。



GS1-128 Emulation (GS1-128 エミュレーション)



GS1 DataBar Emulation (GS1 DataBar エミュレーション)



GS1 Code Expansion Off (GS1 コード拡張オフ)



EAN8 to EAN13 Conversion (EAN8 を EAN13 に変換)



* GS1 Emulation Off (GS1 エミュレーション・オフ)

TCIF Linked Code 39 (TLC39)

このコードは、Code 39 リニア・コンポーネントと MicroPDF417 スタック・コード・コンポーネントを持っているため、コンポジット・コードです。Code 39 リニア・コンポーネントは、すべてのバーコード・リーダーで読み取ることができます。MicroPDF417 コンポーネントは、**TLC39 On (TLC39 オン)** が選択されている場合にのみデコードすることができます。リニア・コンポーネントは、TLC39 がオフの場合でも、Code 39 としてデコードできます。デフォルト値 = *Off* (オフ)。



T39ENA1.

On (オン)



T39ENA0.

* Off (オフ)

QR Code

<Default All QR Code Settings (QR コードの設定をすべてデフォルトに戻す)>



QRCDFT.

QR コードのオン/オフ

このオプションは、QR コードと Micro QR コードの両方に適用されます。



QRCENA1.

* On (オン)



QRCENA0.

Off (オフ)

QR コードのメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(80 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 1~7089。デフォルトの最小長 = 1、デフォルトの最大長 = 7089。



QRCMIN.

Minimum Message Length (メッセージの最小長)



QRCMAX.

Maximum Message Length (メッセージの最大長)

QR コードの連結

この機能を使用すると、いくつかの QR コード・バーコードのデータを連結してから、ホスト・コンピュータに送信できます。スキャナは、連結のトリガー文字が含まれている QR コード・バーコードを検出すると、それらのバーコードにエンコードされている情報によって指定された数だけ、QR コード・バーコードをバッファします。適切なコード数に達すると、バーコードに指定された順番でデータが出力されます。デフォルト値 = On (オン)。



QRCAPP1.

* On (オン)



QRCAPP0.

Off (オフ)

QR コードのコードページ

QR コードのコードページでは、文字コードから文字へのマッピングを定義します。受信したデータが正しい文字で表示されない場合は、スキャンしたバーコードがホスト・プログラムの想定とは異なるコードページを使用して作成されたものである可能性があります。そのような場合は、以下のバーコードをスキャンした後、バーコードが作成されたコードページを選択し (218 ページの「[ISO 2022/ISO 646 置換文字](#)」を参照)、本マニュアルの裏表紙裏に記載されている[プログラミング・チャート](#)で数値をスキャンし、**Save (保存)** バーコードをスキャンします。これにより、データの文字が正しく表示されるようになります。



QRCDP.

QR Code Page (QR コードのコードページ)

QR コードのクワイエットゾーン無し

QR Code No Quiet Zone (QR コードのクワイエットゾーン無し) を有効にすると、パターンの周囲にクワイエットゾーンのないバーコードをデコードできます。



QR CNQZ1.

On (オン)



QRCNQZ0.

Off (オフ)

ドットコード

<Default All DotCode Settings (ドットコードの設定をすべてデフォルトに戻す)>



DOTDFT.

ドットコードのオン/オフ



DOTENA1.

On (オン)



DOTENA0.

* Off (オフ)

低品質ドットコード

この設定を使用すると、損傷したドットコードや印刷状態の悪いドットコードを読み取る機能が向上します。デフォルト値 = Poor Quality DotCodes Off (低品質ドットコード・オフ)。

注： デコードを有効にすると、デコード時間が長くなる場合があります。



DOTXS1.

Poor Quality DotCodes On (低品質
ドットコード・オン)

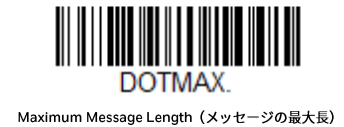


DOTXS0.

* Poor Quality DotCodes Off (低品質
ドットコード・オフ)

ドットコードのメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(80 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 1~2400。デフォルトの最小長 = 1、デフォルトの最大長 = 2400。



Digimarc バーコード™

Digimarc デコーダの試行

試行回数を設定するには、以下のバーコードをスキャンしてから、本書 223 ページ以降の[プログラミング・チャート](#)から数字をスキャンして試行回数 (0~10 回) を設定した後、**Save (保存)** をスキャンします。最小~最大試行回数 = 0~10 回。デフォルト値 = 3。



Digimarc バーコード

この設定は、Digimarc デコーダと ID デコーダを使用して Digimarc バーコードをデコードするようにスキャナをプログラムします。Digimarc Barcode (Digimarc バーコード) を **On (オン)** に設定すると、ほとんどのフレームで Digimarc デコーダが使用され、Honeywell デコーダが 5 フレームごとに読み取ります。

Digimarc Barcode (Digimarc バーコード) を **Use Honeywell Decoder then Both Decoders (Honeywell デコーダの使用後、両方のデコーダを使用する)** に設定すると、Digimarc Decoder Attempts (Digimarc デコーダの試行) によって設定された試行回数分、Honeywell デコーダが読み取りを行い、次に、Honeywell デコーダおよび Digimarc デコーダの両方が使用されます。Digimarc Barcode (Digimarc バーコード) を **Use Digimarc Decoder then Both Decoders (Digimarc デコーダの使用後、両方のデコーダを使用する)** に設定すると、Digimarc Decoder Attempts (Digimarc デコーダの試行) によって設定された試行回数分、Digimarc デコーダが読み取りを行い、次に、Honeywell デコーダおよび Digimarc デコーダの両方が使用されます。

Digimarc Barcode (Digimarc バーコード) を **Use Honeywell Decoder then Alternates Decoders (Honeywell デコーダの使用後、交互にデコーダを使用する)** に設定すると、Digimarc Decoder Attempts (Digimarc デコーダの試行) によって設定された試行回数分、Honeywell デコーダが読み取りを行い、次に、Honeywell デコーダおよび Digimarc デコーダが交互に読み取りを行います。Digimarc Barcode (Digimarc バーコード) を **Uses Digimarc Decoder then Alternates Decoders (Digimarc デコーダの使用後、交互にデコーダを使用する)** に設定すると、Digimarc Decoder Attempts (Digimarc デコーダの試行) によって設定された試行回数分、Digimarc デコーダが読み取りを行い、次に、Honeywell デコーダおよび Digimarc デコーダが交互に読み取りを行います。

デフォルト値 = Uses Digimarc Decoder then Both Decoders (Digimarc デコーダの使用後、両方のデコーダを使用する)



DIGENA0.

Off (オフ)



DIGENA2.

Use Honeywell Decoder then Both Decoders
(Honeywell デコーダの使用後、両方のデコーダを使用する)



DIGENA4.

Use Honeywell Decoder then Alternates
Decoders (Honeywell デコーダの使用後、交互にデコーダを使用する)



DIGENA1.

On (オン)



DIGENA3.

* Use Digimarc Decoder then Both Decoders
(Digimarc デコーダの使用後、両方のデコーダを使用する)



DIGENA5.

Use Digimarc Decoder then Alternates
Decoders (Digimarc デコーダの使用後、交互にデコーダを使用する)

Data Matrix

<Default All Data Matrix Settings (Data Matrix の設定をすべてデフォルトに戻す) >



IDMDFT.

Data Matrix のオン/オフ



IDMENA1.

* On (オン)



IDMENA0.

Off (オフ)

低コントラスト Data Matrix の拡張

この設定は、コントラストの低い Data Matrix とドットピーニングされたダイレクトパーツマークのバーコードを読み込む場合に使用します。ドットピーニングされていない Data Matrix バーコードの読み取りに問題がある場合は、**Low Contrast Data Matrix Enhancements Off**（低コントラスト Data Matrix の拡張をオフ）をスキャンしてこの設定をオフにすることが有効な場合があります。デフォルト値 = Low Contrast Data Matrix Enhancements On（低コントラスト Data Matrix の拡張をオン）



* Low Contrast Data Matrix Enhancements On（低コントラスト Data Matrix の拡張をオン）



Low Contrast Data Matrix Enhancements Off（低コントラスト Data Matrix の拡張をオフ）



Reflective Low Contrast Data Matrix Enhancements On（反射型・低コントラスト Data Matrix の拡張をオン）

Data Matrix 小型反射型バーコード

Reflective Low Contrast Data Matrix Enhancements（反射型・低コントラスト Data Matrix の拡張）がオン（DPMENA2）の場合は、この設定を使用します。この設定は、小型・反射型 DPM シンボルのデコードを改善します。デフォルト値 = Off（オフ）。



* Data Matrix Small Reflective Codes Off (Data Matrix 小型・反射型コードをオフ)



Data Matrix Small Reflective Codes On (Data Matrix 小型・反射型コードをオン)

Data Matrix のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」（80 ページ）を参照してください。最小長および最大長 = 1～3116。デフォルトの最小長 = 1、デフォルトの最大長 = 3116。



Minimum Message Length（メッセージの最小長）



IDMMAX.

Maximum Message Length (メッセージの最大長)

Data Matrix の連結

この機能を使用すると、いくつかの Data Matrix バーコードのデータを連結してから、ホスト・コンピュータに送信できます。スキャナは、連結のトリガー文字が含まれている Data Matrix バーコードを検出すると、それらのバーコードにエンコードされている情報によって指定された数だけ、Data Matrix バーコードをバッファします。適切なコード数に達すると、バーコードに指定された順番でデータが出力されます。デフォルト値 = On (オン)。



IDMAPP1.

* On (オン)



IDMAPP0.

Off (オフ)

Data Matrix コードのコードページ

Data Matrix コードのコードページでは、文字コードから文字へのマッピングを定義します。受信したデータが正しい文字で表示されない場合は、スキャンしたバーコードがホスト・プログラムの想定とは異なるコードページを使用して作成されたものである可能性があります。そのような場合は、以下のバーコードをスキャンした後、バーコードが作成されたコードページを選択し (218 ページの「[ISO 2022/ISO 646 置換文字](#)」を参照)、本マニュアルの裏表紙裏に記載されている [プログラミング・チャート](#) で数値をスキャンし、**Save (保存)** バーコードをスキャンします。これにより、データの文字が正しく表示されるようになります。



IDMDCP.

Data Matrix Code Page (Data Matrix コードのコードページ)

Grid Matrix

<Default All Grid Matrix Settings (Grid Matrix の設定をすべてデフォルトに戻す)>



GMXDFT.

Grid Matrix のオン/オフ



GMXENA1.

On (オン)



GMXENA0.

* Off (オフ)

Grid Matrix のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(80 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 1~2751。デフォルトの最小長 = 1、デフォルトの最大長 = 2751。



GMXMIN.

Minimum Message Length (メッセージの最小長)



GMXMAX.

Maximum Message Length (メッセージの最大長)

MaxiCode

<Default All MaxiCode Settings (MaxiCode の設定をすべてデフォルトに戻す) >



MAXDFT.

MaxiCode のオン/オフ



MAXENA1.

On (オン)



MAXENA0.

* Off (オフ)

MaxiCode のメッセージ長

MaxiCode バーコードのセカンダリ・メッセージをデコードするかどうかを設定するには、この設定を使用します。デフォルト値 = Primary Required, Secondary if Available (プライマリ必須、セカンダリは可能な場合)。



Primary Message Only (プライマリ・メッセージのみ)



* Primary Required, Secondary if Available (プライマリ必須、セカンダリは可能な場合)



Both Primary and Secondary Required (プライマリとセカンダリのいずれも必須)

MaxiCode Message Length (MaxiCode のメッセージ長)

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(80 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 1~150。デフォルトの最小長 = 1、デフォルトの最大長 = 150。



Minimum Message Length (メッセージの最小長)



Maximum Message Length (メッセージの最大長)

Aztec Code

<Default All Aztec Code Settings (Aztec Code の設定をすべてデフォルトに戻す)>



Aztec Code のオン/オフ



* On (オン)



AZTENA0.

Off (オフ)

Aztec Code のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(80 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 1~3832。デフォルトの最小長 = 1、デフォルトの最大長 = 3832。



AZTMIN.

Minimum Message Length (メッセージの最小長)



AZTMAX.

Maximum Message Length (メッセージの最大長)

Aztec の連結

この機能を使用すると、いくつかの Aztec バーコードのデータを連結してから、ホスト・コンピュータに送信できます。スキャナは、連結のトリガー文字が含まれている Aztec バーコードを検出すると、それらのバーコードにエンコードされている情報によって指定された数だけ、Aztec バーコードをバッファします。適切なコード数に達すると、バーコードに指定された順番でデータが出力されます。デフォルト値 = On (オン)。



AZTAPP1.

* On (オン)



AZTAPP0.

Off (オフ)

Aztec のコードページ

Aztec コードのコードページでは、文字コードから文字へのマッピングを定義します。受信したデータが正しい文字で表示されない場合は、スキャンしたバーコードがホスト・プログラムの想定とは異なるコードページを使用して作成されたものである可能性があります。そのような場合は、以下のバーコードをスキャンした後、バーコードが作成されたコードページを選択し (218 ページの「[ISO 2022/ISO 646 置換文字](#)」を参照)、本マニュアルの裏表紙裏に記載されている[プログラミング・チャート](#)で数値をスキャンし、**Save (保存)** バーコードをスキャンします。これにより、データの文字が正しく表示されるようになります。



AZTDCP.

Aztec Code Page (Aztec のコードページ)

Chinese Sensible (Han Xin) コード

<Default All Han Xin Settings (Han Xin の設定をすべてデフォルトに戻す) >



HX_DFT.

Han Xin コードのオン/オフ



HX_ENA1.

On (オン)



HX_ENA0.

* Off (オフ)

Han Xin コードのメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(80 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 1~7833。デフォルトの最小長 = 1、デフォルトの最大長 = 7833。



HX_MIN.

Minimum Message Length (メッセージの最小長)



HX_MAX.

Maximum Message Length (メッセージの最大長)

郵便コード - 2次元

以下に、使用可能な2次元郵便コードおよび2次元郵便コードの組み合わせを示します。2次元郵便コード・オプションは、一度に1つだけ有効にすることができます。2つ目の2次元郵便コード・オプションをスキャンすると、最初のオプションは無効になります。Default = 2D Postal Codes Off (2次元郵便コード・オフ)。



POSTAL0.

* 2D Postal Codes Off (2次元郵便コード・オフ)

2次元郵便コード (単独) :



POSTAL1.

Australian Post On (Australian Post オン)



POSTAL30.

Canadian Post On (Canadian Post オン)



POSTAL3.

Japanese Post On (日本郵便オン)



POSTAL5.

Planet Code On (Planet Code オン)

「Planet」も参照してください。



POSTAL7.

British Post On (British Post オン)



POSTAL10.

Intelligent Mail bar code On (Intelligent Mail
バーコード・オン)



POSTAL4.

KIX Post On (KIX Post オン)



POSTAL9.

Postal-4i On (Postal-4i オン)



POSTAL6.

Postnet On (Postnet オン)
「Postnet」も参照してください。



POSTAL2.

InfoMail On (InfoMail オン)



POSTAL11.

Postnet with B and B' Fields On (Postnet B および B'フィールド・オン)

2次元郵便コード（組み合わせ）：



POSTAL8.

InfoMail and British Post On (InfoMail と British Post オン)



POSTAL14.

Postnet and Postal-4i On (Postnet と Postal-4i オン)



POSTAL17.

Postal-4i and Intelligent Mail Bar Code On (Postal-4i と Intelligent Mail バーコード・オン)



POSTAL20.

Intelligent Mail Bar Code and Postnet with B and B' Fields On (Intelligent Mail バーコードならびに Postnet B および B'フィールド・オン)



POSTAL16.

Postnet and Intelligent Mail Bar Code On (Postnet と Intelligent Mail バーコード・オン)



POSTAL19.

Postal-4i and Postnet with B and B' Fields On (Postal-4i ならびに Postnet B および B'フィールド・オン)



POSTAL12.

Planet Code and Postnet On (Planet Code と Postnet オン)



POSTAL13.

Planet Code and Postal-4i On (Planet Code と Postal-4i オン)



POSTAL21.

Planet Code, Postnet, and Postal-4i On (Planet Code、Postnet、および Postal-4i オン)



POSTAL23.

Planet Code, Postal-4i, and Intelligent Mail Bar Code On (Planet Code、Postal-4i、および Intelligent Mail バーコード・オン)



POSTAL25.

Planet Code, Postal-4i, and Postnet with B and B' Fields On (Planet Code、Postal-4i ならびに Postnet B および B'フィールド・オン)



POSTAL18.

Planet Code and Postnet with B and B' Fields On (Planet Code ならびに Postnet B および B'フィールド・オン)



POSTAL15.

Planet Code and Intelligent Mail Bar Code (Planet Code と Intelligent Mail バーコード・オン)



POSTAL22.

Planet Code, Postnet, and Intelligent Mail Bar Code On (Planet Code、Postnet、および Intelligent Mail バーコード・オン)



POSTAL24.

Postnet, Postal-4i, and Intelligent Mail Bar Code On (Postnet、Postal-4i、および Intelligent Mail バーコード・オン)



POSTAL26.

Planet Code, Intelligent Mail Bar Code, and Postnet with B and B' Fields On (Planet Code、Intelligent Mail バーコード、ならびに Postnet B および B'フィールド・オン)



POSTAL27.

Postal-4i, Intelligent Mail Bar Code, and Postnet with B and B' Fields On (Postal-4i, Intelligent Mail バーコード、ならびに Postnet B および B'フィールド・オン)



POSTAL28.

Planet Code, Postal-4i, Intelligent Mail Bar Code, and Postnet On (Planet Code, Postal-4i, Intelligent Mail バーコード、および Postnet オン)



POSTAL29.

Planet Code, Postal-4i, Intelligent Mail Bar Code, and Postnet with B and B' Fields On (Planet Code, Postal-4i, Intelligent Mail バーコード、ならびに Postnet B および B'フィールド・オン)

Planet Code Check Digit (Planet Code のチェック・デジット)

これを選択すると、Planet Code データの最後にチェック・デジットを送信するかどうかを指定できます。デフォルト値 = Don't Transmit (送信しない)。



PLNCKX1.

Transmit Check Digit (チェック・デジットを送信する)



PLNCKX0.

* Don't Transmit Check Digit (チェック・デジットを送信しない)

Postnet のチェック・デジット

これを選択すると、Postnet データの最後にチェック・デジットを送信するかどうかを指定できます。デフォルト値 = Don't Transmit (送信しない)。



NETCKX1.

Transmit Check Digit (チェック・デジットを送信する)



NETCKX0.

* Don't Transmit Check Digit (チェック・デジットを送信しない)

Australian Post の解釈

このオプションは、Australian 4-State シンボルの顧客フィールドに、どの解釈を適用するかを制御します。

Bar Output (バー出力) は、バー・パターンを「0123」フォーマットで一覧表示します。

Numeric N Table (数字 N テーブル) は、N テーブルを使用し、フィールドを数字データとして解釈します。

Alphanumeric C Table (英数字 C テーブル) は、C テーブルを使用し、フィールドを英数字データとして解釈します。「Australian Post 仕様表」を参照してください。

Combination C and N Tables (C と N テーブルの組み合わせ) は、C または N テーブルを使用してフィールドを解釈します。



* Bar Output (バー出力)



Numeric N Table (数字 N テーブル)



Alphanumeric C Table (英数字 C テーブル)



Combination C and N Tables (C と N テーブルの組み合わせ)

郵便コード - リニア

以下にリニア郵便コードを記載します。リニア郵便コード・オプションの組み合わせは、一度に1つだけ有効にすることができます。

China Post (Hong Kong 2 of 5)

<Default All China Post (Hong Kong 2 of 5) Settings (China Post (Hong Kong 2 of 5) の設定をすべてデフォルトに戻す) >



China Post (Hong Kong 2 of 5) のオン/オフ



CPCENA1.

On (オン)



CPCENA0.

*Off (オフ)

China Post (Hong Kong 2 of 5) のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(80 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 2~80。デフォルトの最小長 = 4、デフォルトの最大長 = 80。



CPCMIN.

Minimum Message Length (メッセージの最小長)



CPCMAX.

Maximum Message Length (メッセージの最大長)

China Post Redundancy (China Post 照合設定)

China Post バーコードの読み取りにおいてエラーに遭遇した際、照合回数を調整したい場合があります。照合設定は、送信前にバーコードがデコードされる回数を調節し、これによりエラー数を軽減します。ただし、照合回数が多いほど、バーコードのデコードにかかる時間が長くなるので注意してください。照合設定を調節するには、以下の China Post Redundancy (China Post 照合設定) バーコードを読み取り、[プログラミング・チャート](#)から 0~10 の照合回数をスキャンします。その後、バーコードの **Save (保存)** をスキャンします。デフォルト値 = 0。



CPCVOT.

China Post Redundancy (China Post 照合設定)

Korean Post

<Default All Korea Post Settings (Korean Post の設定をすべてデフォルトに戻す)>

>



KPCDFT.

Korean Post のオン/オフ



KPCENA1.

On (オン)



KPCENA0.

* Off (オフ)

Korean Post のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(80 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 2~80。デフォルトの最小長 = 4、デフォルトの最大長 = 48。



KPCMIN.

Minimum Message Length (メッセージの最小長)



KPCMAX.

Maximum Message Length (メッセージの最大長)

Korea Post Check Digit (Korean Post のチェック・デジット)

これを選択すると、チェック・デジットを送信するかどうかを指定できます。デフォルト値 = *Don't Transmit* (送信しない)。



KPCCHK1.

Transmit Check Digit (チェック・デジットを送信する)



KPCCHK0.

* Don't Transmit Check Digit (チェック・デジットを送信しない)

第7章—撮影コマンド

スキャン・エンジンは、デジタルカメラのように画像の取り込み、操作、転送を行います。以下のコマンドを使用すると、スキャン・エンジンがこれらの機能を実行する方法を変更できます。

シングル・ユース・ベース

モディファイア付きの撮影コマンドは、シングル・ユース・ベースでスキャン・エンジンに命令を送信し、これにより1回の画像取り込みが有効になります。取り込みが完了すると、スキャン・エンジンは撮影のデフォルト設定に戻ります。設定を永続的に変更する場合は、シリアル・デフォルト・コマンドを使用する必要があります（第9章を参照）。シリアル・デフォルト・コマンドを使用すると、選択された内容が、スキャン・エンジンの新しい永続的設定になります。

コマンド構文

1つのシーケンス内で複数のモディファイアとコマンドを発行できます。同じコマンドに追加のモディファイアを適用する場合は、そのモディファイアをコマンドに追加するだけです。たとえば、Imaging Style（撮影スタイル）を1Pに設定し、Wait for Trigger（トリガー待機）を1Tに設定するなど、Image Snap（イメージ・スナップ）コマンドに2つのモディファイアを追加するには、「IMGSNP1P1T」と入力します。

注： イメージ・キャプチャ・コマンド（IMGSNPまたはIMGBOX）を処理した後、端末にその画像を表示させる場合は、IMGSHPコマンドを後ろに付ける必要があります。

シーケンスにコマンドを追加するには、それぞれの新しいコマンドをセミコロンで区切ります。たとえば、Image Ship（画像送信）コマンドを上記のシーケンスに追加するには、「IMGSNP1P1T;IMGSHP」と入力します。

撮影コマンドは次のとおりです。

Image Snap（イメージ・スナップ） - IMGSNP（152 ページ）

Image Ship（画像送信） - IMGSHP（155 ページ）

Intelligent Signature Capture（インテリジェント・シグネチャ・キャプチャ） - IMGBOX（164 ページ）

これらのコマンドの各モディファイアは、コマンド説明に従います。

注： 各コマンド説明に含まれる画像は、単なる例です。使用の結果得られる効果は、本マニュアルのものとは異なる場合があります。得られる出力の品質は、照明、取り込む初期画像やオブジェクトの品質、および画像やオブジェクトとスキャン・エンジンとの距離によって異なります。高品質の画像を獲得するには、取り込む画像やオブジェクトからスキャン・エンジンを4~6 インチ (10.2~15.2cm) 離して配置することをお勧めします。

手順 1 - IMGSNP を使用して写真を撮る

イメージ・スナップ - IMGSNP

ハードウェアボタンを押すか、Image Snap (イメージ・スナップ) (IMGSNP) コマンドを処理する度に画像が取り込まれます。

イメージ・スナップ・コマンドには、メモリ内の画像の外観を変更できる、さまざまなモディファイアがあります。IMGSNP コマンドには、任意の数のモディファイアを追加できます。たとえば、次のコマンドを使用すると、画像の撮影やゲインの増加を実行でき、撮影が完了したらブザー音を鳴らすことができます。

IMGSNP2G1B

IMGSNP モディファイア

P - Imaging Style (撮影スタイル)

Image Snap (イメージ・スナップ) のスタイルを設定します。

- 0P **Decoding Style (デコード・スタイル)**
この処理により、露光パラメーターが満たされるまで数フレームを撮影できます。その後、最後のフレームを使用できます。
- 1P **Photo Style (写真スタイル) (デフォルト)**
単純なデジタルカメラのように、視覚的に最適化された画像を得られます。
- 2P **Manual Style (手動スタイル)**
このスタイルは高度なスタイルであり、経験豊富なユーザーのみが使用してください。スキャン・エンジンを最も自由に設定できますが、自動露出機能はありません。

B - Beeper (ビープ音)

画像のスナップ後に、ブザー音が鳴ります。

- 0B ビープ音なし (デフォルト)
- 1B 画像が取り込まれるとビープ音が鳴ります。

T - Wait for Trigger (トリガー待機)

ハードウェアボタンが押されるまで待機してから画像を撮影します。Photo Style (写真スタイル) (1P) を使用している場合にのみ利用できます。

- 0T 即座に画像を撮影 (デフォルト)
- 1T ボタンが押されるまで待機してから画像を撮影

L - LED State (LED 状態)

LED を点灯するか、消灯するか、またいつ点灯／消灯するかを設定します。ID カードなどカラー文書の写真を撮る場合、特にスキャン・エンジンがスタンドに置かれている場合には、周囲照明 (0L) が適しています。スキャナがハンドヘルドの場合は、LED 照明 (1L) が適しています。Decoding Style (デコード・スタイル) (0P) 使用時は、LED State (LED 状態) は利用できません。

- 0L LED オフ (デフォルト)
- 1L LED オン

E - Exposure (露出)

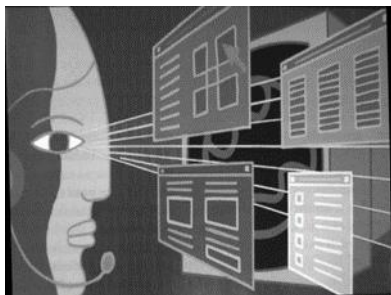
Manual Style (手動スタイル) (1P|2P) でのみ使用するもので、露出時間を設定できます。これは、カメラでシャッター速度を設定するのと似ています。露出時間によって、スキャナが画像を記録するのに要する時間が決まります。明るい日には、画像を記録するのに十分な大量の採光があるため、露出時間を非常に短くできます。夜間は、採光がほとんどないため露出時間が大幅に長くなる場合があります。単位は 127 マイクロ秒です。デフォルト値 = 500。

- nE 範囲：1~26,000

例：

蛍光灯下で露出 7874E の場

合：



蛍光灯下で露出 100E の場合：



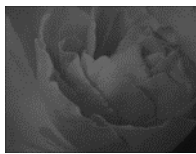
G - Gain (ゲイン)

ゲインは Manual Style (手動スタイル) (2P) でのみ使用します。音量制御と同様に、ゲイン修飾子は信号を増幅し、ピクセル値を増加させます。ゲインを上げると、画像内のノイズも増幅されます。デフォルト値 = 6。

40G	ゲイン中
64G	ゲイン大 (デフォルト)
96G	ゲイン最大

例：

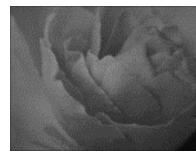
ゲイン 1G の場合：



ゲイン 4G の場合：



ゲイン 8G の場合：



W - Target White Value (ターゲットホワイト値)

取り込んだ画像のグレースケール中央値のターゲット値を設定します。コントラストの高い文書の接写画像を取り込む場合は、75 など低めの設定を推奨します。設定値を高くすると、露出時間が長くなり、画像が明るくなりますが、設定値が高すぎると露出過大になる場合があります。Target White Value (ターゲットホワイト値) は、Photo Style (写真スタイル) (1P) を使用する場合にのみ利用できます。(デフォルト値 = 125)

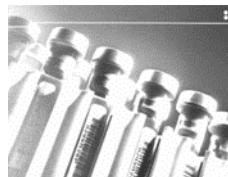
nW	範囲：0 - 255
----	------------

例：

ホワイト値 75W：



ホワイト値 125W：



ホワイト値 200W：



D - Delta for Acceptance (許容デルタ)

ホワイト値設定の許容範囲を設定します (「W - Target White Value (ターゲットホワイト値)」参照)。デルタは、Photo Style (写真スタイル) (1P) 使用時にのみ利用できます。(デフォルト値 = 25)

nD	範囲：0~255
----	----------

U - Update Tries (更新試行回数)

スキャン・エンジンが **D - Delta for Acceptance** (許容デルタ) に到達するまでに要するフレームの最大数を設定します。Update Tries (更新試行回数) は、Photo Style (写真スタイル) (1P) 使用時にのみ利用できます。(デフォルト値 = 6)

nU 範囲：0~10

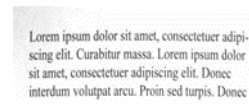
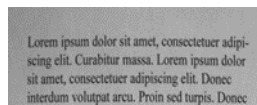
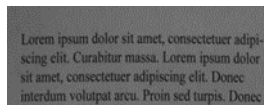
% - Target Set Point Percentage (ターゲット・セットポイント割合)

取り込む画像の明暗値のターゲットポイントを設定します。75%に設定すると、ピクセルの75%がターゲットホワイト値以下になり、ピクセルの25%がターゲットホワイト値を上回ります。通常の場合では、この設定をデフォルトから変更することはお勧めしません。グレースケール値を変更するには、**W - Target White Value** (ターゲットホワイト値) を使用します。(デフォルト値 = 50)

n% 範囲：0~99

例：

ターゲット・セットポイント割合が 97%： ターゲット・セットポイント割合が 50%： ターゲット・セットポイント割合が 40%：



手順 2 - IMGSHIP を使用して写真を送信する

Image Ship (画像送信) - IMGSHIP

ボタンを押すか、Image Snap (イメージ・スナップ) (IMGSNP) コマンドを処理する度に画像が取り込まれます。最後の画像は常にメモリに保存されます。

IMGSHIP コマンドを使用すると、画像を「送信」(ship) できます。

画像送信コマンドには、画像出力の外観を変更できる、さまざまなモディファイアがあります。モディファイアは、送信画像には効力がありますが、メモリ内の画像には影響しません。**IMGSHIP** コマンドには、任意の数のモディファイアを追加できます。

例：例：次のコマンドを使用すると、ガンマ補正と文書画像フィルタリングを行ったビットマップ画像を撮影して送信できます。**IMGSNP;IMGSHIP8F75K26U**

IMGSHIP モディファイア

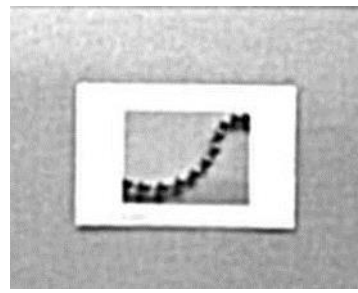
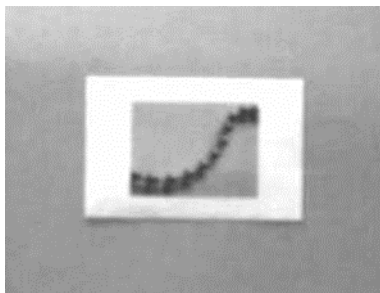
A - Infinity Filter (無限遠フィルター)

非常に長い距離 (10 フィート [3m] 超) から撮影された画像を向上させます。無限遠フィルターは [IMGSNP モディファイア](#) (152 ページ) とは一緒に使用しないでください。

- 0A 無限遠フィルター・オフ (デフォルト)
- 1A 無限遠フィルター・オン

例:

約 12 フィート (3.66m) の距離で 無限遠フィルターをオフ (0A):



C - Compensation (補正)

画像全体の照度の変化を考慮して画像を平坦化します。

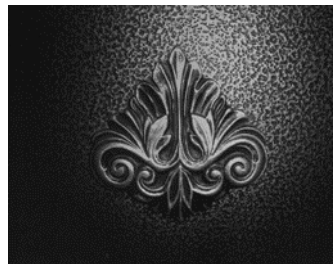
- 0C 補正無効 (デフォルト)
- 1C 補正有効

例:

補正が 0C の場合:



補正が 1C の場合:



D - Pixel Depth (ピクセル深度)

送信画像 (KIM または BMP フォーマットのみ) のピクセル当たりのビット数を示します。

- 8D ピクセル当たり 8 ビット、グレースケール画像 (デフォルト)
- 1D ピクセル当たり 1 ビット、白黒画像

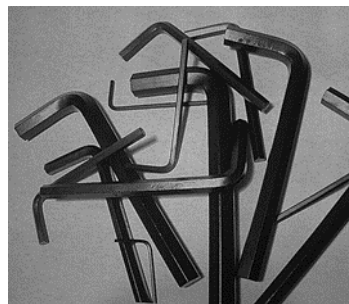
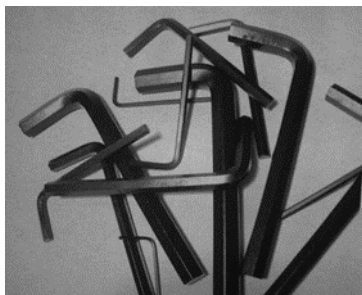
E - Edge Sharpen (エッジ・シャープニング)

エッジ・シャープニング・フィルターは、画像のエッジをきれいにし、画像をきれいでシャープに見せます。エッジをシャープにすると画像がきれいに見えますが、元の画像から微細な細部が削除されます。エッジ・シャープニング・フィルターの強度は、1～24の範囲で入力できます。「23E」を入力すると、エッジが最もシャープになりますが、画像のノイズも増加します。

- 0E 画像をシャープにしない (デフォルト)
- 14E 標準画像用にエッジ・シャープニングを適用する
- ne 強度 n を使用してエッジ・シャープニングを適用する ($n=1\sim 24$)

例：

エッジ・シャープニングが 0E の場合： エッジ・シャープニングが 24E の場合：



F - File Format (ファイルフォーマット)

対象の画像のフォーマットを示します。

- 0F KIM フォーマット
- 1F TIFF バイナリ
- 2F TIFF バイナリ・グループ 4、圧縮
- 3F TIFF グレースケール
- 4F 非圧縮バイナリ (左上から右下、1 ピクセル/ビット、行末を 0 で埋める)
- 5F 非圧縮グレースケール (左上から右下、ビットマップ形式)
- 6F JPEG 画像 (デフォルト)
- 8F BMP フォーマット (右下から左上、非圧縮)
- 15F BMP 非圧縮未加工画像

H - Histogram Stretch (ヒストグラム・ストレッチ)

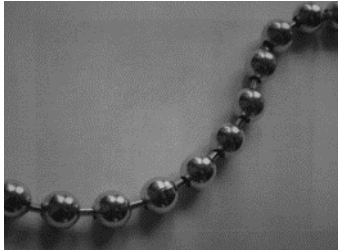
送信画像のコントラストを上げます。画像フォーマットによっては使用できない場合があります。

0H ストレッチなし (デフォルト)

1H ヒストグラム・ストレッチ

例：

ヒストグラム・ストレッチが0Hの場合： ヒストグラム・ストレッチが1Hの場合：



I - Invert Image (画像反転)

画像反転を使用すると、X軸またはY軸を中心に画像を回転できます。

1ix X軸を中心に反転 (上下反転)

1iy Y軸を中心に反転 (左右反転)

例：

反転していない画像： Invert Image (画像反転) が 1ix に設定されている画像： Invert Image (画像反転) が 1iy に設定されている画像：



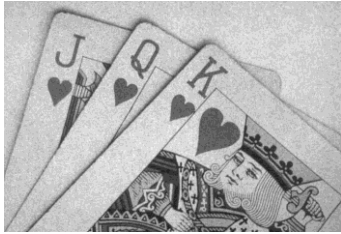
IF- Noise Reduction (ノイズ低減)

画像中のごま塩ノイズを減らすために使用します。

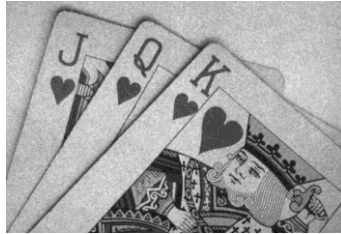
- 0if ごま塩ノイズ低減なし (デフォルト)
- 1if ごま塩ノイズ低減

例：

ノイズ低減がオフ (0if)：



ノイズ低減がオン (1if)：



IR - Image Rotate (画像回転)

- 0ir 撮影したとおり (直立) の画像 (デフォルト)
- 1ir 画像を右に90度回転
- 2ir 画像を180度回転 (上下逆さま)
- 3ir 画像を左に90度回転

例：

Image Rotate (画像回転) を 0ir に Image Rotate (画像回転) を 2ir に
設定時：



設定時：

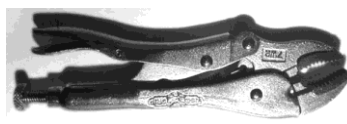


Image Rotate (画像回転) を 1ir に Image Rotate (画像回転) を 3ir に
設定時：



J - JPEG Image Quality (JPEG の画質)

JPEG 画像フォーマットを選択したときの望ましい画質を設定します。数値が大きいほど画質が向上しますが、ファイルは大きくなります。数値が小さいほど、非可逆圧縮が多く、送信時間が短く、画質が低く、ファイルが小さくなります。(デフォルト値 = 50)

- nJ 画質係数 n を維持しながら、画像をできるだけ圧縮する ($n = 0 \sim 100$)
- 0J 最低画質 (最小ファイル)
- 100J 最高画質 (最大ファイル)

K - Gamma Correction (ガンマ補正)

ガンマは、画像が生成する中間トーン値の明るさを表します。ガンマ補正を使用すると、画像を明るくしたり暗くしたりできます。ガンマ補正を大きくすると、全体的に明るい画像が得られます。設定を低くするほど、画像は暗くなります。テキスト画像に最も適した設定は 50K です。

- 0K ガンマ補正オフ (デフォルト)
- 50K 標準的な文書画像を明るくするためのガンマ補正を適用
- nK ガンマ補正係数 n を適用する ($n = 0 \sim 1,000$)

例：

ガンマ補正を 0K に設定：



ガンマ補正を 50K に設定：



ガンマ補正を 255K に設定：



L, R, T, B, M - Image Cropping (画像切り取り)

左、右、上、下のピクセル座標を指定して画像のウィンドウを送ります。デバイス列には0~1279の番号が付けられ、デバイス行には0~959の番号が付けられています。

- nL 送信画像の左端は、メモリ内の画像の n 列に対応します。範囲：000~639 (デフォルト値 = 0)
- nR 送信画像の右端は、メモリ内の画像の $n - 1$ 列に対応します。範囲：000~639 (デフォルト値 = 全列)
- nT 送信画像の上端は、メモリ内の画像の n 行に対応します。範囲：000~479 (デフォルト値 = 0)
- nB 送信画像の下端は、メモリ内の画像の $n - 1$ 行に対応します。範囲：000~479 (デフォルト値 = 全行)

例：

切り取りなしの画像： Image Crop (画像切り取り) を 300R に設定時： Image Crop (画像切り取り) を 300L に設定時：



Image Crop (画像切り取り) を 200B に設定時： Image Crop (画像切り取り) を 200T に設定時：



あるいは、画像の外側マージンから切り取るピクセル数を指定すると、中央のピクセルのみが送信されます。

- nM マージン：画像の左から n 列、右から $n + 1$ 列、上から n 行、下から $n + 1$ 行を切り取ります。残った中央のピクセルが送られます。範囲：0~238 (デフォルト値 = 0、または全画像)

例：

Image Crop (画像切り取り) を 238M に設定時：



P - Protocol (プロトコル)

画像の送信に使用します。プロトコルは、ホストに送信される画像データの2つの機能に対応しています。すなわち、データを送信するために使用されるプロトコル (Hmodem: 追加のヘッダー情報を有する Xmodem 1K のバリエーション)、および送信される画像データのフォーマットに対応しています。

0P	なし (生データ)
2P	なし (USB のデフォルト)
3P	Hmodem 圧縮 (RS232 のデフォルト)
4P	Hmodem

S - Pixel Ship (ピクセル送信)

Pixel Ship (ピクセル送信) は、元のサイズと同じ比率で画像をサイズ設定します。スペースで規則的に区切られた一定のピクセルのみを送ることによって画像を縮小します。たとえば、「4S」は、4行ごとに4ピクセルおきに送信します。送信されるピクセル数が少ないほど、画像は小さくなりますが、一定のポイントを超えると、画像を使用できなくなります。

1S	すべてのピクセルを送信する (デフォルト)
2S	縦横両方で、2ピクセルごとに送信する
3S	縦横両方で、3ピクセルごとに送信する

例:

Pixel Ship (ピクセル送信) を 1S に設定時:	Pixel Ship (ピクセル送信) を 2S に設定時:	Pixel Ship (ピクセル送信) を 3S に設定時:	Pixel Ship (ピクセル送信) を 4S に設定時:
--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------



U - Document Image Filter (文書画像フィルター)

パラメーターを入力することで、画像内のテキストのエッジをシャープにし、エッジとエッジとの間の領域を滑らかにできます。このフィルターは、ガンマ補正 (p.160 を参照) と一緒に使用する必要があります。スキャン・エンジンをスタンドに置き、次のコマンドを使用して画像を取り込みます。

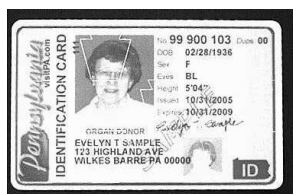
IMGSNP1POL168W90%32D

このフィルターを使用すると、通常、標準の E - Edge Sharpen (エッジ・シャープニング) コマンド (163 ページを参照) よりも良好な JPEG 圧縮が得られます。このフィルターは、白黒のみの画像 (ピクセルあたり 1 ビット) を送るときにも良好に機能します。最適設定は 26U です。

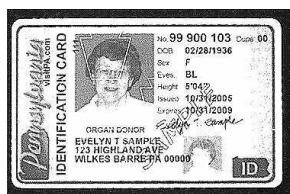
- 0U 文書画像フィルター・オフ (デフォルト)
- 26U 標準的な文書画像に文書画像フィルターを適用する
- nU グレースケールの閾値 n を使用して文書画像フィルターを適用する。画像コントラストが低いときは数値を下げてください。1U は、E - Edge Sharpen (エッジ・シャープニング) (157 ページ) を 22e に設定すると同様の効果があります。範囲: 0-255。

例:

Document Image Filter
(文書画像フィルター) を
0U に設定時:



Document Image Filter (文
書画像フィルター) を 26U
に設定時:



V - Blur Image (画像ぼかし)

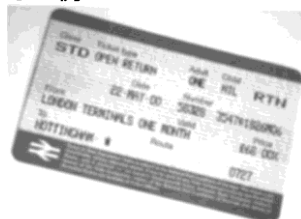
境界線のハードエッジに隣接するピクセルと画像内の陰影領域を平均化して、変わりを滑らかにします。

- 0V ぼかさない (デフォルト)
- 1V ぼかす

Blur Image (画像ぼかし) をオフ
にした例



Blur Image (画像ぼかし) をオンに
した例



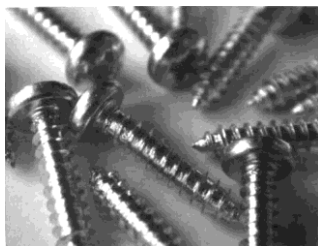
W - Histogram Ship (ヒストグラム送信)

ヒストグラムによって、画像の色調範囲すなわちキーのタイプをすばやく識別できます。ローキー画像はシャドウに、ハイキー画像はハイライトに、アベレージキー画像は中間調にディテールが集中します。このモディファイアは画像用のヒストグラムを送信します。

- 0W ヒストグラムを送信しない (デフォルト)

- 1W ヒストグラムを送信する

ヒストグラムに使用した画像：



左の画像のヒストグラム：

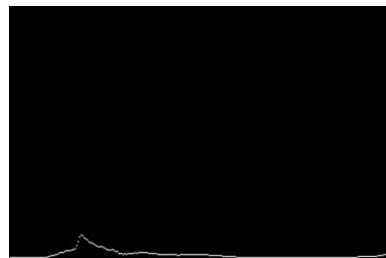


Image Size Compatibility (画像サイズの互換性)

画像送信で正確に 640x480 ピクセルが返されるようにアプリケーションを設定している場合、Force VGA Resolution (VGA 解像度を強制する) バーコードをスキャンします。デフォルト値 = Native Resolution (元の解像度)



IMGVGA1.

Force VGA Resolution (VGA 解像度を強制する)



IMGVGA0.

* Native Resolution (元の解像度)

インテリジェント・シグネチャ・キャプチャ - IMGBOX

IMGBOX を使用すると、バーコードに近接しているシグネチャ・キャプチャ・エリアのサイズや位置を修正できます。これにより、シグネチャ・キャプチャ・エリアを特定のフォームに合わせることができます。IMGBOX を使うためには、バーコードに対してシグネチャ・ボックスが既知位置になるようフォームを設定する必要があります。シグネチャ・エリアは、全体サイズの入力に加え、シグネチャ・エリアとバーコードとの水平および垂直距離も指定できます。また、取り込んだシグネチャ画像の最終出力に対する解像度とファイル形式も設定できます。

注： IMGBOX コマンドを起動するには、以下のいずれかのバーコードを使用する必要があります—PDF417、Code 39、Code 128、Aztec、Codabar、Interleaved 2 of 5。これらのシンボル体系のうちいずれかが読み取られると、IMGBOX コマンドを受け付けるために画像が保持されます。

Signature Capture Optimize (シグネチャ・キャプチャの最適化)

スキャン・エンジンを使用して頻繁にシグネチャ・キャプチャを行う場合は、最適化を行ってください。ただし、このモードを有効にするとバーコード読み取り速度が低下する場合がありますので注意してください。デフォルト値 = Off (オフ)。



Optimize On (最適化オン)



* Optimize Off (最適化オフ)

シグネチャ・キャプチャ・アプリケーションの例を以下に示します。この例では、エイマーをシグネチャ・キャプチャ・エリアの中心に置き、トリガーを引きます。ブザーが一度鳴り、スキャン・エンジンが Code 128 バーコードを読み取り、データがホストシステムへと転送されたことを知らせます。Granit スキャン・エンジンを使用している場合は、スキャン・エンジンも振動します。これで、ホストから IMGBOX コマンドを送信して、そのコードの下のシグネチャ・キャプチャ・エリアの座標を指定し、そのシグネチャを含むエリアのみを画像としてホストに転送するよう指示することができます。

この例を確認するには、エイマーを（バーコードではなく）シグネチャ・エリアに合わせ、トリガーを引きます。

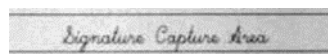


ボタンを押した後、以下の IMGBOX コマンド文字列を送信します。

例：IMGBOX245w37h55y.

注：コマンド文字列において大文字 と小文字の区別は重要ではありません。ここでは説明のために使用しています。

以下のような画像が得られます。



IMGBOX コマンドには、スキャン・エンジンから出力されるシグネチャ画像のサイズや表示を変えることができる多種多様なモディファイアが用意されています。モディファイアは、送信画像には効力がありますが、メモリ内の画像には影響しません。IMGBOX コマンドには、任意の数のモディファイアを追加できます。

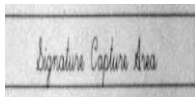
注：IMGBOX コマンドは、ウィンドウサイズ（高さと幅）が指定されない限り、NAK を返します。[H - Height of Signature Capture Area（シグネチャ・キャプチャ・エリアの高さ）](#)（167 ページ）および[W - Width of Signature Capture Area（シグネチャ・キャプチャ・エリアの幅）](#)（168 ページ）を参照してください。

IMGBOX モディファイア

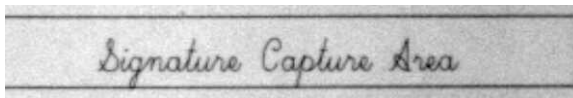
A - Output Image Width（出力画像の幅）

このオプションは、画像を水平方向にサイズ変更するときに使用します。このオプションを使用した場合、解像度（R）は 0 に設定されます。

画像幅を■に設定した場合



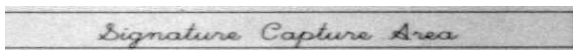
画像幅を■に設定した場合



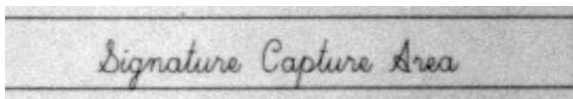
B - Output Image Height（出力画像の高さ）

このオプションは、画像を垂直方向にサイズ変更するときに使用します。このオプションを使用した場合、解像度（R）は 0 に設定されます。

画像の高さを 50B に設定した場合：



画像の高さを 100B に設定した場合：



D - Pixel Depth（ピクセル深度）

送信画像のピクセルあたりのビット数を示し、グレースケールか白黒かを規定します。

- 8D ピクセルあたり 8 ビット、グレースケール画像（デフォルト）
- 1D ピクセルあたり 1 ビット、白黒画像

F - File Format（ファイルフォーマット）

画像を保存するファイルフォーマットの種類を示します。

- 0F KIM フォーマット

- 1F TIFF バイナリ
- 2F TIFF バイナリ・グループ4、圧縮
- 3F TIFF グレースケール
- 4F 非圧縮バイナリ
- 5F 非圧縮グレースケール
- 6F JPEG 画像 (デフォルト)
- 7F 輪郭画像
- 8F BMP フォーマット

H - Height of Signature Capture Area (シグナチャ・キャプチャ・エリアの高さ)

シグナチャ・キャプチャ・エリアの高さは、0.01 インチごとに測定する必要があります。例では、取り込む領域の高さが 3/8 インチであるため、H の値 = $0.375/0.01 = 37.5$ となります。

例: *IMGBOX245w37h55y.*

K - Gamma Correction (ガンマ補正)

ガンマは、画像が生成する中間トーン値の明るさを表します。ガンマ補正を使用すると、画像を明るくしたり暗くしたりできます。ガンマ補正を大きくすると、全体的に明るい画像が得られます。設定を低くするほど、画像は暗くなります。

テキスト画像に最も適した設定は 50K です。

- 0K ガンマ補正オフ (デフォルト)
- 50K 標準的な文書画像を明るくするためのガンマ補正を適用
- nK ガンマ補正係数 n を適用する ($n = 1 \sim 255$)

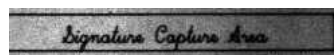
ガンマ補正を OK に設定した
例:



ガンマ補正を 50K に設定した
例:



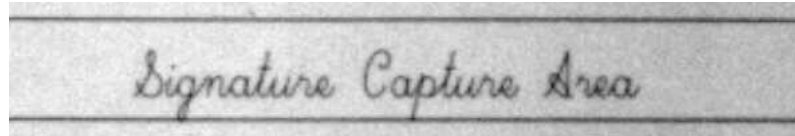
ガンマ補正を 255K に設定した
例:



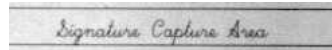
R - Resolution of Signature Capture Area (シグナチャ・キャプチャ・エリアの解像度)

解像度とは、スキャン・エンジンが各最小バー幅に対して出力するピクセル数です。R の値を大きくすると画質が良くなりますが、ファイルサイズも大きくなります。値は 1000 からです。スキャン・エンジンは自動的に、最初の桁と次の桁の間に小数点を挿入します。たとえば、解像度を 2.5 に指定するには、値を「2500」にします。A および B のモディファイアを使用するときは、0 に設定します (166 ページの「A - Output Image Width (出力画像の幅)」および「B - Output Image Height (出力画像の高さ)」を参照してください)。

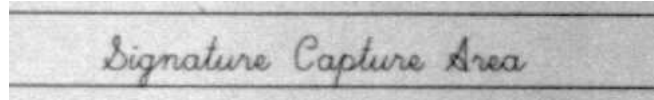
解像度を OR に設定した例：



解像度を ■ に設定した例：



解像度を ■ に設定した例：



S - Bar Code Aspect Ratio (バーコードのアスペクト比)

IMGBOX に用いられる寸法はすべて、バーコードの最小エレメントサイズの倍数で測られます。Bar Code Aspect Ratio (バーコードのアスペクト比) では、バーコードの高さとナローエレメント幅の比率を設定できます。例では、ナローエレメント幅が 0.010 インチ、バーコードの高さは 0.400 インチなので、S の値 = $0.4/0.01 = 40$ となります。

W - Width of Signature Capture Area (シグナチャ・キャプチャ・エリアの幅)

シグナチャ・キャプチャ・エリアの幅は、0.01 インチごとに測定する必要があります。例では、取り込む領域の幅が 2.4 インチであるため、W の値 = $2.4/0.01 = 240$ となります。(ここでは画像エリアを少し大きめに調節するため、245 が使用されています。)

例：IMGBOX245w37h55y.

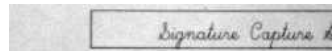
X - Horizontal Bar Code Offset (水平バーコード・オフセット)

水平バーコード・オフセットを使用すると、シグナチャ・キャプチャ・エリアの水平方向の中心をオフセットできます。プラスの値を入力すると、水平中心が右に移動し、マイナスの値を入力すると左に移動します。数値は最小バー幅の倍数です。

水平オフセットを ■ に設定した例：



水平オフセットを -■ に設定した例：



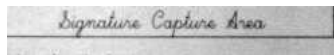
Y - Vertical Bar Code Offset (垂直バーコード・オフセット)

垂直バーコード・オフセットを使用すると、シグナチャ・キャプチャ・エリアの垂直方向の中心をオフセットできます。マイナスの値はシグネチャ・キャプチャがバーコードの上であり、プラスの値はバーコードの下にあることを示します。数値は最小バー幅の倍数です。

垂直オフセットを-7Y に設定した例：



垂直オフセットを65Y に設定した例：



RF のデフォルト撮影デバイス

このスキャン・エンジンは撮影コマンド処理 (IMGSHF、IMGSNP、IMG-BOX) に対応しており、EZConfig-Scanning (173 ページ参照) やその他のアプリケーションがスキャナと直接接続されているかのように撮影機能を実行できます。これを行うため、スキャナは、RF_DID (RF Default Imaging Device [RF のデフォルト撮影デバイス]) というメニュー・コマンドを使用します。RF_DID は、撮影コマンドを受信するスキャナ (BT_NAM) の名前です。RF_DID のデフォルトは「*」で、これは、すべての関連スキャナに撮影コマンドが送信されることを示します。撮影コマンドを特定のスキャナに送信するには、設定を「RF_DIDscanner_name」に変更します。

第 8 章-ユーティリティ

すべてのシンボル体系にテスト・コード ID プレフィックスを追加する

これを選択すると、シンボル体系をデコードする前に、コード ID の送信をオンにできます。(各シンボル体系を識別する単一文字コードについては、「[シンボル体系チャート](#)」(209 ページ以降)を参照してください)。この操作では、最初に現在のプレフィックスがすべてクリアされ、次にすべてのシンボル体系に対してコード ID プレフィックスがプログラムされます。これは一時的な設定であり、ユニットの電源を入れ直すと削除されます。



PRECA2,BK2995C80!

Add Code I.D. Prefix to All Symbologies
(Temporary) (すべてのシンボル体系に
コード ID プレフィックスを追加 [一時的])

ソフトウェアの改訂情報を表示する

ソフトウェアの最新の改訂情報、ユニットのシリアル番号、およびスキャン・エンジンやベースの双方に関するその他の製品情報を出力するには、以下のバーコードをスキャンします。



REVINF.

Show Software Revision (ソフトウェアの改訂情報を表示する)

データ・フォーマットを表示する

現在のデータ・フォーマット設定を表示するには、以下のバーコードをスキャンします。



DFMBK3?.

Data Format Settings (データ・フォーマット設定)

テスト・メニュー

Test Menu On (テスト・メニュー・オン) コードをスキャンしてから本書のプログラミング・コードをスキャンすると、スキャン・エンジンにプログラミング・コードの内容が表示されます。プログラミング機能はそのまま実行されますが、これに加えてそのプログラミング・コードの内容が端末に出力されます。

注：この機能は通常のスキャン・エンジン操作では使用しないでください。



TSTMNU1.

On (オン)



TSTMNU0.

* Off (オフ)

EZConfig-Scanning の概要

EZConfig for Scanning は、PC の COM ポートに接続されたスキャン・エンジンで実行可能な、PC ベースのさまざまなプログラミング機能を提供します。EZConfig for Scanning を使用すると、スキャン・エンジンのファームウェアのアップグレードのダウンロード、プログラム済みパラメーターの変更、プログラミング・バーコードの作成と印刷を行うことができます。

また、EZConfig for Scanning を使用することで、スキャン・エンジンのプログラミング・パラメーターを保存したり開いたりすることもできます。この保存したファイルを電子メール送信したり、必要に応じて、カスタマイズしたプログラミング・パラメーターをすべて含めた単一のバーコードを作成し、電子メールや Fax で任意の場所に送信したりできます。他の場所にいるユーザーは、そのバーコードをスキャンして、カスタマイズされたプログラムを読み込むことができます。

スキャン・エンジンと通信するためには、EZConfig for Scanning は、少なくとも 1 つの使用可能なシリアル通信ポート、または物理 USB ポートを使用したシリアルポート・エミュレーションが PC に取り付けられている必要があります。シリアルポートと RS232 ケーブルを使用する場合は、外部電源が必要です。USB シリアルポート・エミュレーションを使用する場合は、USB ケーブルのみが必要です。

EZConfig for Scanning の動作

EZConfig for Scanning ソフトウェアは、以下の動作を実行します。

Scan Data (データのスキャン)

Scan Data (データのスキャン) を使用すると、バーコードをスキャンし、バーコード・データをウィンドウに表示できます。Scan Data (データのスキャン) では、スキャン・エンジンにシリアル・コマンドを送信し、スキャン・エンジンの応答を受信して Scan Data (データのスキャン) ウィンドウで確認できます。Scan Data (データのスキャン) ウィンドウに表示されたデータは、ファイルに保存または印刷できます。

Configure (構成)

Configure (構成) には、スキャン・エンジンのプログラミング・データおよび構成データが表示されます。スキャン・エンジンのプログラミング・データおよび構成データは、いくつかのカテゴリにグループ化されています。各カテゴリは、エクスプローラー・アプリケーションの「Configure」(構成) ツリー・ノード下にツリー項目として表示されます。これらのツリー・ノードのいずれかをクリックすると、その特定のカテゴリに属するパラメーター・フォームが右側に読み込まれます。「Configure」(構成) ツリー・オプションには、スキャン・エンジン用のプログラミング・パラメーターおよび構成パラメーターがすべて含まれています。これらのパラメーターは、必要に応じて設定または変更できます。その後、変更した設定をスキャン・エンジンに書き込んだり、dcf ファイルに保存したりできます。

Imaging (撮影)

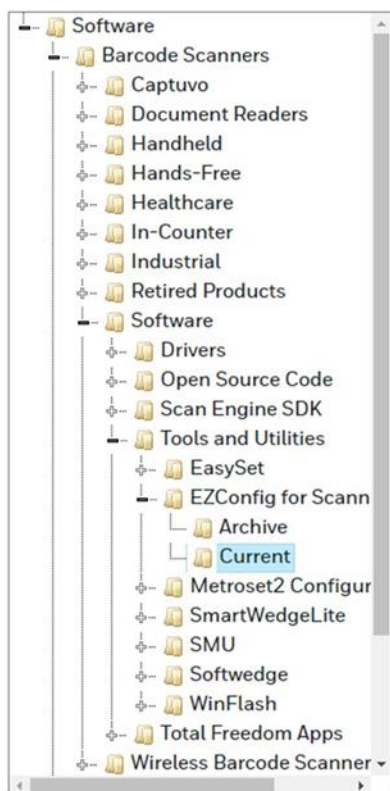
ここでは、2次元スキャン・エンジンが実行できるすべての画像関連機能を行えます。現在の設定を利用して画像を取り込むことができます。画像はイメージウィンドウに表示されます。スキャン・エンジンでスキャンした画像は、別の画像形式で保存が可能です。画像設定は、変更して INI ファイルに保存できます。INI ファイルは、画像の新規取り込み時に後で読み込めます。また、スキャン・エンジンで連続的に取り込んだ画像をプレビューすることもできます。

EZConfig for Scanning ツールのインストール

EZConfig のダウンロードおよびインストール：

1. Honeywell のテクニカル・サポート・ダウンロード・ポータル (<https://hsmftp.honeywell.com/>) にアクセスします。
2. (登録していない場合は) 登録を行い、ログインします。

3. Software (ソフトウェア) > Barcode Scanners (バーコードスキャナ) > Software (ソフトウェア) > Tools and Utilities (ツールをユーティリティ) > EZConfig for Scanning > Current (最新) と進み、ツールをダウンロードします。



4. Setup.exe ファイルをダブルクリックします。画面の指示に従って、EZConfig for Scanning Tool をインストールします。
5. EZConfig を開き、スキャナを設定します。

工場出荷時設定にリセットする



注意： このオプションはすべての設定を消去して、スキャン・エンジンを元の工場出荷時設定にリセットします。これにより、プラグインもすべて無効になります。

スキャン・エンジンに設定されているプログラミング・オプションが不明の場合や、一部のオプションの変更後にスキャン・エンジンを工場出荷時設定に戻したい場合は、まず Remove Custom Defaults（カスタム・デフォルトを削除する）バーコードをスキャンしてから、Activate Defaults（デフォルトを有効化する）をスキャンします。これにより、スキャン・エンジンは工場出荷時設定にリセットされます。



DEFOVR.

Remove Custom Defaults
(カスタム・デフォルトを削除する)



DEFAULT.

Activate Defaults (デフォルトを有効化する)

181 ページ以降の「[メニュー・コマンド](#)」には、各コマンドの工場出荷時設定（プログラミング・ページではアスタリスク（*）付きで示されています）が記載されています。

第9章—シリアル・プログラミング・コマンド

シリアル・プログラミング・コマンドは、プログラミング・バーコードの代わりに使用することができます。スキャン・エンジンのプログラミングには、シリアル・コマンドとプログラミング・バーコードの両方を使用できます。各シリアル・プログラミング・コマンドの説明と例については、本書の対応するプログラミング・バーコードを参照してください。

デバイスはRS232 インターフェース向けに設定されている必要があります（7 ページを参照してください）。以下のコマンドは、ターミナル・エミュレーション・ソフトウェアを使用して、PC COM ポート経由で送信することができます。

表記規則

メニュー・コマンドおよびクエリ・コマンドの説明に使用する表記規則は、以下のとおりです。

パラメーター コマンドの一部として送信する実際の値を表すラベル。

[オプション] コマンドのオプション部分。

{データ} コマンド内の選択肢。

太字 画面上に表示されるメニュー、メニュー・コマンド、ボタン、ダイアログ・ボックス、およびウィンドウの名前。

メニュー・コマンド構文

メニュー・コマンドの構文は以下のとおりです（スペースは、わかりやすくするために挿入しています）。

Prefix Tag SubTag {Data} [, SubTag {Data}] [: Tag SubTag {Data}] [...] Storage

プレフィックス 3つの ASCII 文字：SYN M CR (ASCII 22、77、13)

Tag (タグ)	目的のメニュー・コマンド・グループを識別する、大文字と小文字を区別しない 3 文字のフィールド。たとえば、RS-232 構成の設定はすべて、232 という Tag (タグ) で識別されます。
SubTag (サブタグ)	タグ・グループ内にある目的のメニュー・コマンドを識別する、大文字と小文字を区別しない 3 文字のフィールド。たとえば、RS-232 ボーレートの SubTag (サブタグ) は BAD です。
Data (データ)	Tag (タグ) または SubTag (サブタグ) で識別される、メニュー設定の新しい値。
Storage (ストレージ)	コマンドを適用するストレージ・テーブルを指定する 1 文字。 感嘆符 (!)：デバイスの揮発性メニュー構成テーブル上でコマンドの操作を実行します。 ピリオド (.)：デバイスの不揮発性メニュー構成テーブル上でコマンドの操作を実行します。不揮発性テーブルは、電源を入れ直したときにも保持したい半恒久的な変更についてのみ使用してください。

注： **重要：** スキャン・エンジンのフラッシュが有する書き込みサイクルは、数が限られています。コマンドを頻繁に送信する場合は、揮発性 (! 感嘆符) メモリをできるだけ頻繁に使用することをお勧めします。

シリアル・コマンドの例

RS232 ボーレートを 115,200 に設定：SYN M CR 232BAD9. または
¥x16M¥x0D232BAD9.

プレフィックス	Tag (タグ)	SubTag (サブタグ)	Data (データ)	Storage (ストレージ)
SYN M CR	232	BAD	9	.

クエリ・コマンド

デバイスの設定を照会するには、特殊文字を使用します。

- ^ 設定のデフォルト値。
- ? デバイスの現在の設定値。
- * 設定可能な値の範囲。(デバイスの応答では、値の連続範囲を示すためにダッシュ (-) を使用します。連続しない値のリストでは、項目をパイプ (|) で区切ります。)

:Name:フィールドの使い方 (オプション)

このコマンドはスキャン・エンジンからクエリ情報を取得します。

Tag フィールドの使い方

Tag フィールドの代わりにクエリを使用すると、コマンドの Storage フィールドで指定された特定のストレージ・テーブルで使用可能なコマンド・セット全体にそのクエリが適用されます。この場合、SubTag および Data フィールドはデバイスで無視されるため、使用しないでください。

SubTag フィールドの使い方

SubTag フィールドの代わりにクエリを使用すると、Tag フィールドに一致する使用可能なコマンドのサブセットにのみ、そのクエリが適用されます。この場合、Data フィールドはデバイスで無視されるため、使用しないでください。

Data フィールドの使い方

Data フィールドの代わりにクエリを使用すると、Tag フィールドおよび SubTag フィールドで識別される特定のコマンドにのみ、そのクエリが適用されます。

複数コマンドの連結

1 つの Prefix/Storage シーケンス内に複数のコマンドを発行できます。シーケンス内の各コマンドで繰り返す必要があるのは、Tag、SubTag、および Data フィールドだけです。同じ Tag に追加のコマンドを適用する場合、新しいコマンド・シーケンスをカンマ (,) で区切り、追加コマンドの SubTag および Data フィールドのみが発行されます。追加コマンドに別の Tag フィールドが必要な場合は、コマンドと前のコマンドをセミコロン (;) で区切ります。

応答

デバイスは、シリアル・コマンドに対して以下の 3 つの応答を返します。

ACK	コマンドが正常に処理されたことを示します。
ENQ	Tag または SubTag コマンドが無効であることを示します。
NAK	コマンドが正常でも、Data フィールドへの入力がこの Tag と SubTag の組み合わせの許容範囲を超えていたことを示します。たとえば、フィールドに 2 文字しか入力できない場合に、メッセージの最小長の入力値が 100 である場合などです。

応答する際、デバイスはコマンドの各句読点（ピリオド、感嘆符、カンマ、セミコロン）の直前にステータス・キャラクタを挿入して、コマンド・シーケンスをエコー・バックします。

クエリ・コマンドの例

以降の例で、角かっこ ([]) は非表示応答を示します。

例：Codabar Coding Enable の設定可能な値の範囲は？

入力： cbrena*
応答： CBRENA0-1[ACK]

この応答は、Codabar コード有効化（CBRENA）の値の範囲が0～1（オフおよびオン）であることを示しています。

例：Codabar コード有効化のデフォルト値は？

入力： cbrena^
応答： CBRENA1[ACK]

この応答は、Codabar コード有効化（CBRENA）のデフォルト値が1、つまりオンであることを示しています。

例：Codabar コード有効化に対するデバイスの現在値は？

入力： cbrena?
応答： CBRENA1[ACK]

この応答は、デバイスのCodabar コード有効化（CBRENA）が1、つまりオンに設定されていることを示しています。

例：Codabar のすべてのオプションに対する、デバイスの設定は？

入力： cbrena?
応答： CBRENA1[ACK],
 SSX0[ACK],
 CK20[ACK],
 CCT1[ACK],
 MIN2[ACK],
 MAX60[ACK],
 DFT[ACK].

この応答は、デバイスのCodabar コード有効化（CBRENA）が1、つまりオンに設定されていることを示しています。

- スタート/ストップ・キャラクタ（SSX）が「0」または「Don't Transmit」（送信しない）に設定されている。
- チェック・キャラクタ（CK2）が「0」または「Not Required」（不要）に設定されている。
- 連結（CCT）が「1」または「Enabled」（有効）に設定されている。
- メッセージの最小長（MIN）が2文字に設定されている。
- メッセージの最大長（MAX）が60文字に設定されている。
- デフォルト設定（DFT）に値がない。

カスタム・デフォルトを設定する

シリアル・コマンドを送信することで、カスタム・デフォルトを設定できます。カスタム・デフォルトをお使いの製品に保存するには、以下の連結コマンド・フォーマットを使用します。

MNUCDF;DEFOVR;<CMD1>;<CMD2>;... <CMDX>;MNUCDS_②

Set Custom Defaults (カスタム・デフォルトを設定する)	Remove Custom Default List (カスタム・デフォルト・リストを削除する)	メニュー・コマンド・リスト (Menu Command List)	Save Custom Defaults (カスタム・デフォルトを保存する) (② = カスタム・デフォルト・テーブルに保存)
MNUCDF	DEFOVR	<CMD1>;<CMD2>;... <CMDX>	MNUCDS _②

カスタム・デフォルトはすぐには適用されません。有効化するには、Activate Defaults (デフォルトを有効化する) コマンドを送信するか、下記の **DEFAULT** (デフォルト) バーコードを読み込みます。

カスタム・デフォルトをリセットする

カスタム・デフォルト設定をスキャン・エンジンに復元したい場合は、以下の Activate Custom Defaults (カスタム・デフォルトを有効化する) バーコードをスキャンします。これにより、スキャン・エンジンがカスタム・デフォルト設定にリセットされます。カスタム・デフォルト設定がない場合、スキャン・エンジンは工場出荷時設定にリセットされます。カスタム・デフォルトで指定されていない設定は、デフォルトで工場出荷時設定になります。



DEFAULT.

Activate Custom Defaults (カスタム・デフォルトを有効化する)

以降のページの表には、各コマンドの工場出荷時設定 (プログラミング・ページではアスタリスク (*) 付きで示されています) が記載されています。

注：カスタム・デフォルトを削除するには、「[工場出荷時設定にリセットする](#)」(176 ページ) を参照してください。

メニュー・コマンド

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
製品のデフォルト設定			
Setting Custom Defaults (カスタム・デフォルトの設定)	Set Custom Defaults (カスタム・デフォルトを設定する)	MNUCDF	4
	Save Custom Defaults (カスタム・デフォルトを保存する)	MNUCDS	4
Resetting the Custom Defaults (カスタム・デフォルトのリセット)	Activate Custom Defaults (カスタム・デフォルトを有効化する)	DEFAULT	5
Resetting the Factory Defaults (工場出荷時設定へのリセット)	Remove Custom Defaults (カスタム・デフォルトを削除する)	DEFOVR	176
インターフェースのプログラミング			

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
RS232 Interface (RS232 インターフェース)	RS232 Serial Port (RS232 シリアルポート)	TERMID0;232BAD9;23 2WRD2	7
Plug and Play Codes:USB (プラグアンドプレイ・コード : USB)	USB Keyboard (PC) (USB キーボード [PC])	PAP124	8
	USB Keyboard (Mac) (USB キーボード [Mac])	PAP125	8
	USB HID	TERMID131	9
	USB Serial (USB シリアル)	TERMID130	9
	CTS/RTS Emulation On (CTS/RTS エミュレーション・オン)	USBCTS1	9
	CTS/RTS Emulation Off* (CTS/RTS エミュレーション・オフ*)	USBCTS0	9
	ACK/NAK Mode On (ACK/NAK モード・オン)	USBACK1	9
	ACK/NAK Mode Off* (ACK/NAK モード・オフ*)	USBACK0	9
Remote MasterMind for USB (USB 用 Remote MasterMind)	* ReM Off (ReM オフ)	REMIFC0	10
	ReM On (ReM オン)	REMIFC1	10
Program Keyboard Country (国別キーボードの設定)	* U.S.A. (米国)	KBDCTY0	10
	Albania (アルバニア)	KBDCTY35	10
	Azeri (Cyrillic) (アゼリ語 [キリル])	KBDCTY81	10
	Azeri (Latin) (アゼリ語 ([ラテン])	KBDCTY80	10
	Belarus (ベラルーシ)	KBDCTY82	10
	Belgium (ベルギー)	KBDCTY1	11
	Bosnia (ボスニア)	KBDCTY33	11
	Brazil (ブラジル)	KBDCTY16	11
	Brazil (MS) (ブラジル [MS])	KBDCTY59	11
	Bulgaria (Cyrillic) (ブルガリア [キリル])	KBDCTY52	11
	Bulgaria (Latin) (ブルガリア [ラテン])	KBDCTY53	11
	Canada (French legacy) (カナダ [フランス語レガシー])	KBDCTY54	11
	Canada (French) (カナダ [フランス語])	KBDCTY18	11
	Canada (Multilingual) (カナダ [マルチリンガル])	KBDCTY55	11
	Croatia (クロアチア)	KBDCTY32	11
	Czech (チェコ語)	KBDCTY15	11
	Czech (Programmers) (チェコ語 [プログラマー])	KBDCTY40	11
	Czech (QWERTY) (チェコ語 [QWERTY])	KBDCTY39	12
	Czech (QWERTZ) (チェコ語 [QWERTZ])	KBDCTY38	12
	Denmark (デンマーク)	KBDCTY8	12
	Dutch (Netherlands) (オランダ語 [オランダ])	KBDCTY11	12
	Estonia (エストニア)	KBDCTY41	12
	Faeroese (フェロー語)	KBDCTY83	12
	Finland (フィンランド)	KBDCTY2	12
	France (フランス)	KBDCTY3	12

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
	Gaelic (ゲール語)	KBDCTY84	12
	Germany (ドイツ)	KBDCTY4	12
	Greek (ギリシャ語)	KBDCTY17	12
	Greek (220 Latin) (ギリシャ語 [220 ラテン])	KBDCTY64	12
	Greek (220) (ギリシャ語 [220])	KBDCTY61	13
	Greek (319 Latin) (ギリシャ語 [319 ラテン])	KBDCTY65	13
	Greek (319) (ギリシャ語 [319])	KBDCTY62	13
	Greek (Latin) (ギリシャ語 [ラテン])	KBDCTY63	13
	Greek (MS) (ギリシャ語 [MS])	KBDCTY66	13
	Greek (Polytonic) (ギリシャ語 [ポリトニック])	KBDCTY60	13
	Hebrew (ヘブライ語)	KBDCTY12	13
	Hungarian (101 key) (ハンガリー語 [101 キーボード])	KBDCTY50	13
	Hungary (ハンガリー)	KBDCTY19	13
	Iceland (アイスランド)	KBDCTY75	13
	Irish (アイルランド語)	KBDCTY73	13
	Italian (142) (イタリア語 [142])	KBDCTY56	13
	Italy (イタリア)	KBDCTY5	14
	Japan ASCII (日本 ASCII)	KBDCTY28	14
	Kazakh (カザフ語)	KBDCTY78	14
	Kyrgyz (Cyrillic) (キルギス語 [キリル])	KBDCTY79	14
	Latin America (ラテン・アメリカ)	KBDCTY14	14
	Latvia (ラトビア)	KBDCTY42	14
	Latvia (QWERTY) (ラトビア [QWERTY])	KBDCTY43	14
	Lithuania (リトアニア)	KBDCTY44	14
	Lithuania (IBM) (リトアニア [IBM])	KBDCTY45	14
	Macedonia (マケドニア)	KBDCTY34	14
	Malta (マルタ)	KBDCTY74	14
	Mongolian (Cyrillic) (モンゴル語 [キリル])	KBDCTY86	14
	Norway (ノルウェー)	KBDCTY9	15
	Poland (ポーランド)	KBDCTY20	15
	Polish (214) (ポーランド語 [214])	KBDCTY57	15
	Polish (Programmers) (ポーランド語 [プログラマー])	KBDCTY58	15
	Portugal (ポルトガル)	KBDCTY13	15
	Romania (ルーマニア)	KBDCTY25	15
	Russia (ロシア)	KBDCTY26	15
	Russian (MS) (ロシア語 [MS])	KBDCTY67	15
	Russian (Typewriter) (ロシア語 [タイプライター])	KBDCTY68	15

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
	SCS	KBDCTY21	15
	Serbia (Cyrillic) (セルビア [キリル])	KBDCTY37	15
	Serbia (Latin) (セルビア [ラテン])	KBDCTY36	15
	Slovakia (スロバキア)	KBDCTY22	16
	Slovakia (QWERTY) (スロバキア [QWERTY])	KBDCTY49	16
	Slovakia (QWERTZ) (スロバキア [QWERTZ])	KBDCTY48	16
	Slovenia (スロベニア)	KBDCTY31	16
	Spain (スペイン)	KBDCTY10	16
	Spanish variation (スペイン語バリエーション)	KBDCTY51	16
	Sweden (スウェーデン)	KBDCTY23	16
	Switzerland (French) (スイス [フランス語])	KBDCTY29	16
	Switzerland (German) (スイス [ドイツ語])	KBDCTY6	16
	Tatar (タタール語)	KBDCTY85	16
	Turkey F (トルコ F)	KBDCTY27	16
	Turkey Q (トルコ Q)	KBDCTY24	16
	Ukrainian (ウクライナ語)	KBDCTY76	17
	United Kingdom (イギリス)	KBDCTY7	17
	United States (Dvorak right) (米国 [Dvorak 右])	KBDCTY89	17
	United States (Dvorak left) (米国 [Dvorak 左])	KBDCTY88	17
	United States (Dvorak) (米国 [Dvorak])	KBDCTY87	17
	United States (International) (米国 [インターナショナル])	KBDCTY30	17
	Uzbek (Cyrillic) (ウズベク語 [キリル])	KBDCTY77	17
キーボード変換	* Keyboard Conversion Off (キーボード変換オフ)	KBDCNV0	18
	Convert All Characters to Upper Case (すべての文字を大文字に変換する)	KBDCNV1	18
	Convert All Characters to Lower Case (すべての文字を小文字に変換する)	KBDCNV1	19
キーボード配列	* Regular (標準)	KBDSTY0	17
	Caps Lock (Caps ロック)	KBDSTY1	17
	Shift Lock (Shift ロック)	KBDSTY2	18
	Automatic Caps Lock (自動 Caps ロック)	KBDSTY6	18
	Emulate External Keyboard (外付けキーボードをエミュレートする)	KBDSTY5	18
制御文字出力	* Control Character Output Off (制御文字出力オフ)	KBDNPE0	19
	* Control Character Output On (制御文字出力オン)	KBDNPE1	19
Keyboard Modifiers (キーボードの修飾キー)	* Control + X Off (Control + X オフ)	KBDCAS0	20
	DOS Mode Control + X (DOS モードの Control + X)	KBDCAS1	20
	Windows Mode Control + X (Windows モードの Control + X)	KBDCAS2	20
	Windows Mode Prefix/Suffix Off (Windows モードのプレフィックス/サフィックス・オフ)	KBDCAS3	20

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
	DOS Mode Control + X Mode On with Windows Mode Prefix/Suffix (DOS モードの Control+X モード・オン、Windows モードのプレフィックス/サフィックス付き)	KBDCAS4	20
	* Turbo Mode Off (ターボモード・オフ)	KBDTMD0	20
	Turbo Mode On (ターボモード・オン)	KBDTMD1	20
	* Numeric Keypad Off (テンキー・オフ)	KBDNPS0	20
	Numeric Keypad On (テンキー・オン)	KBDNPS1	20
	* Auto Direct Connect Off (自動直接接続モード・オフ)	KBDADC0	21
	Auto Direct Connect On (自動直接接続モード・オン)	KBDADC1	21
Baud Rate (ボーレート)	300 BPS	232BAD0	21
	600 BPS	232BAD1	21
	1200 BPS	232BAD2	21
	2400 BPS	232BAD3	21
	4800 BPS	232BAD4	21
	9600 BPS	232BAD5	21
	19200 BPS	232BAD6	22
	38400 BPS	232BAD7	22
	57600 BPS	232BAD8	22
	* 115200 BPS	232BAD9	22
Word Length: Data Bits, Stop Bits, and Parity (ワード長: データビット、ストップビット、パリティ)	7 Data, 1 Stop, Parity Even (7 データビット、1 ストップビット、パリティ偶数)	232WRD3	22
	7 Data, 1 Stop, Parity None (7 データビット、1 ストップビット、パリティなし)	232WRD0	22
	7 Data, 1 Stop, Parity Odd (7 データビット、1 ストップビット、パリティ奇数)	232WRD6	22
	7 Data, 2 Stop, Parity Even (7 データビット、2 ストップビット、パリティ偶数)	232WRD4	22
	7 Data, 2 Stop, Parity None (7 データビット、2 ストップビット、パリティなし)	232WRD1	22
	7 Data, 2 Stop, Parity Odd (7 データビット、2 ストップビット、パリティ奇数)	232WRD7	23
	8 Data, 1 Stop, Parity Even (8 データビット、1 ストップビット、パリティ偶数)	232WRD5	23
	* 8 Data, 1 Stop, Parity None (* 8 データビット、1 ストップビット、パリティなし)	232WRD2	23
	8 Data, 1 Stop, Parity Odd (8 データビット、1 ストップビット、パリティ奇数)	232WRD8	23
	8 Data, 1 Stop, Parity Mark (8 データビット、1 ストップビット、パリティマーク)		23
RS232 Receiver Time-Out (RS232 レシーバー・タイムアウト)	Range 0 - 300 seconds (範囲 0~300 秒)	232LPT###	23

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
RS232 Handshaking (RS232 ハンドシェイク)	* RTS/CTS Off (RTS/CTS オフ)	232CTS0	24
	Flow Control, No Timeout (フロー制御、タイムアウトなし)	232CTS1	24
	Two-Direction Flow Control (2方向フロー制御)	232CTS2	24
	Flow Control with Timeout (フロー制御、タイムアウトあり)	232CTS3	24
	RS232 Timeout (RS232 タイムアウト)	232DEL####	24
	* XON/XOFF Off (XON/XOFF オフ)	232XON0	25
	XON/XOFF On (XON/XOFF オン)	232XON1	24
	* ACK/NAK Off (ACK/NAK オフ)	232ACK0	25
	ACK/NAK On (ACK/NAK オン)	232ACK1	25
入出力の選択			
Power Up Beeper (起動ブザー)	Power Up Beeper Off - Scanner (起動ブザー・オフ - スキャナ)	BEPFWRO	27
	* Power Up Beeper On - Scanner (起動ブザー・オン - スキャナ)	BEPFWR1	27
Beeper on BEL Character (BEL 文字受信時のブザー音)	Beeper on BEL On (BEL 文字受信時のブザー音オン)	BELBEP1	27
	* Beeper on BEL Off (BEL 文字受信時のブザー音オフ)	BELBEP0	27
Beeper - Good Read (ブザー - 読み取り成功時)	Off (オフ)	BEPBEP0	28
	* On (オン)	BEPBEP1	28
Beeper Volume - Good Read (ブザーの音量 - 読み取り成功時)	Off (オフ)	BEPLVL0	28
	Low (低)	BEPLVL1	28
	Medium (中)	BEPLVL2	28
	* High (高)	BEPLVL3	28
Beeper Pitch - Good Read (Frequency) (ブザーのピッチ - 読み取り成功時 【周波数】)	Low (1600) (min 400Hz) (低 [1600] [400Hz 以上])	BEPFQ11600	28
	* Medium (中 [2700])	BEPFQ12700	29
	(高 [4200] [9,000Hz 以下])	BEPFQ14200	29
Beeper Pitch - Error (Frequency) (ブザーのピッチ - エラー時【周波数】)	* Razz (250) (min 200Hz) (ブザー音 [250] [200Hz 以上])	BEPFQ2800	29
	Medium (3250) (中 [3250])	BEPFQ23250	29
	(高 [4200] [9,000Hz 以下])	BEPFQ24200	29
Beeper Duration - Good Read (ブザーの長さ - 読み取り成功時)	* Normal Beep (通常のブザー音)	BEPBIP0	29
	Short Beep (短いブザー音)	BEPBIP1	29
LED - Good Read (LED - 読み取り成功時)	Off (オフ)	BEPLED0	30
	* On (オン)	BEPLED1	30
Number of Beeps - Error (ブザーの回数 - エラー時)	* 1	BEPERR3	30
	Range 1 - 9 (範囲 1~9)	BEPERR#	30
Number of Beeps - Good Read (ブザーの回数 - 読み取り成功時)	* 1	BEPRPT1	30
	Range 1 - 9 (範囲 1~9)	BEPRPT#	30
Good Read Delay (読み取り成功時の遅延)	* No Delay (遅延なし)	DLYGRD0	31
	Short Delay (500 ms) (短い遅延 [500ms])	DLYGRD500	31
	Medium Delay (1000 ms) (中程度の遅延 [1,000ms])	DLYGRD1000	31
	Long Delay (1500 ms) (長い遅延 [1,500ms])	DLYGRD1500	31

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
User-Specified Good Read Delay (ユーザー指定の読み取り成功時の遅延)	Range 0 - 30,000 ms (範囲 0~30,000ms)	DLYGRD#####	31
ブザー信号の反転	PWM Active Low (Idle High) (PWM アクティブロー [アイドルハイ])	BEPINV0	28
	* PWM Active High (Idle Low) (PWM アクティブハイ [アイドルロー])	BEPINV1	28
	CD Active Low (Idle high) (CD アクティブロー [アイドルハイ])	BEPINV2	28
	DC Active High (Idle low) (DC アクティブハイ [アイドルロー])	BEPINV3	28
携帯電話読み取りモード	Streaming Presentation - Mobile Phone (ストリーミング・プレゼンテーション - 携帯電話)	PAPSPC	32
Presentation Mode (プレゼンテーション・モード)	Presentation Mode (プレゼンテーション・モード)	PAPTPR	32
Presentation Mode - Full Depth of Field (プレゼンテーション・モード - 最大被写界深度)	Presentation Mode - Full Depth of Field (プレゼンテーション・モード - 最大被写界深度)	PAPTPE	33
Streaming Presentation (ストリーミング・プレゼンテーション)	Streaming Presentation Mode - Normal (ストリーミング・プレゼンテーション・モード - 標準)	PAPSPN	33
	Streaming Presentation Mode - Enhanced (ストリーミング・プレゼンテーション・モード - 拡張)	PAPSPE	33
LED Illumination - Presentation Mode (LED 照明 - プレゼンテーション・モード)	Off (オフ)	PWRLDC0	33
	Low (低)	PWRLDC100	33
	* High (高)	PWRLDC150	33
Idle Illumination - Presentation Mode (アイドル照明 - プレゼンテーション・モード)	Off (オフ)	PWRIDL0	34
	Low (低)	PWRIDL7	34
	Medium (中)	PWRIDL15	34
	* High (高)	PWRIDL50	34
Presentation LED Behavior After Decode (デコード後のプレゼンテーション LED 挙動)	* LEDs On (LED オン)	TRGPCK1	35
	LEDs Off (LED オフ)	TRGPCK0	35
Presentation Centering Window (プレゼンテーション・センタリング・ウィンドウ)	Presentation Centering On (プレゼンテーション・センタリング・オン)	PDCWIN1	35
	* Presentation Centering Off (プレゼンテーション・センタリング・オフ)	PDCWIN0	35
	Left of Presentation Centering Window (プレゼンテーション・センタリング・ウィンドウ左辺 [*40%])	PDCLFT###	37
	Right of Presentation Centering Window (プレゼンテーション・センタリング・ウィンドウ右辺 [*60%])	PDCRGT###	37
	Top of Presentation Centering Window (*40%) (プレゼンテーション・センタリング・ウィンドウ上辺 [*40%])	PDCTOP###	37
	Bottom of Presentation Centering Window (プレゼンテーション・センタリング・ウィンドウ下辺 [*60%])	PDCBOT###	37
CodeGate	* CodeGate Off Out-of-Stand (CodeGate オフ、スタンド不使用時)	AOSCGD0.	37
	CodeGate On Out-of-Stand (CodeGate オン、スタンド不使用時)	AOSCGD1.	37
Character Activation Mode (文字有効化モード)	* Off (オフ)	HSTCEN0	38
	On (オン)	HSTCEN1	38
Activation Character (Range 0-255) (有効化文字 [範囲 0~255])	*12 [DC2]	HSTACH###	38
End Character Activation After Good Read (読み取り成功後に文字有効化を終了)	* Do Not End Character Activation After Good Read (読み取り成功後に文字有効化を終了しない)	HSTCGD0	38
	End Character Activation After Good Read (読み取り成功後に文字有効化を終了)	HSTCGD1	38

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
Character Activation Timeout (Range 1 - 300,000) (文字有効化タイムアウト [範囲 1~300,000])	* 30,000ms	HSTCDT#####	38
Character Deactivation Mode (文字無効化モード)	* Off (オフ)	HSTDEN0	39
	On (オン)	HSTDEN1	39
Deactivation Character (Range 0-255) (無効化文字 [範囲 0~255])	*14 [DC4]	HSTOCH###	39
Poor Quality Codes (低品質コード)	Poor Quality 1D Reading On (低品質 1 次元読み取りオン)	DECLDI1	40
	* Poor Quality 1D Reading Off (低品質 1 次元読み取りオフ)	DECLDI0	40
	Poor Quality PDF Reading On (低品質 PDF 読み取りオン)	PDFXPR1	40
	* Poor Quality PDF Reading Off (低品質 PDF 読み取りオフ)	PDFXPR0	40
Decoding Security (デコードセキュリティ)	Very High Reading Tolerance (読み取り許容レベル：非常に高い)	DECSEC0	40
	High Reading Tolerance (読み取り許容レベル：高)	DECSEC1	40
	* Medium Reading Tolerance (読み取り許容レベル：中)	DECSEC2	40
	Low Reading Tolerance (読み取り許容レベル：低)	DECSEC3	40
Decode Time-Out (デコードタイムアウト)	0~2500ms	DECTMX#####	41
Reread Delay (再読み取り遅延)	Short (500 ms) (短 [500ms])	DLYRRD500	41
	* Medium (750 ms) (中 [750ms])	DLYRRD750	41
	Long (1000 ms) (長 [1,000ms])	DLYRRD1000	42
	Extra Long (2000 ms) (極長 [2,000ms])	DLYRRD2000	42
User-Specified Reread Delay (ユーザー指定の再読み取り遅延)	Range 0 - 30,000 ms (範囲 0~30,000ms)	DLYRRD#####	42
2D Reread Delay (2次元再読み取り遅延)	* 2D Reread Delay Off (2次元再読み取り遅延オフ)	DLY2RR0	42
	Short (1000ms) (短 [1,000ms])	DLY2RR1000	42
	Medium (2000ms) (中 [2,000ms])	DLY2RR2000	42
	Long (3000ms) (長 [3,000ms])	DLY2RR3000	42
	Extra Long (4000ms) (極長 [4,000ms])	DLY2RR4000	42
Illumination Lights (照明)	* Lights On (照明オン)	SCNLED1	43
	Lights Off (照明オフ)	SCNLED0	43
	Lights On - Mobile Phone Reading (照明オン - 携帯電話読み取り)	SCNLED3	43
Centering Window (センタリング・ウィンドウ)	Centering On (センタリング・オン)	DECWIN1	44
	* Centering Off (センタリング・オフ)	DECWIN0	44
	Top of Centering Window (*40%) (センタリング・ウィンドウ上辺 [*40%])	DECTOP###	44
	Bottom of Centering Window (*60%) (センタリング・ウィンドウ下辺 [*60%])	DECBOT###	44
Preferred Symbology (優先シンボル体系)	On (オン)	PRFENA1	45
	* Off (オフ)	PRFENA0	45
	High Priority Symbology (高優先度シンボル体系)	PRFCOD##	45
	Low Priority Symbology (低優先度シンボル体系)	PRFBLK##	46
	Preferred Symbology Time-out (*500) Range 100-3000 (優先シンボル体系タイムアウト [*500] 範囲 100~3000)	PRFPOT#####	46
	Preferred Symbology Default (優先シンボル体系のデフォルト設定)	PRFDFT	46

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
Output Sequence Editor (出力シーケンス・エディタ)	Enter Sequence (入力シーケンス)	SEQBLK	49
	Default Sequence (デフォルト・シーケンス)	SEQDFT	49
Partial Sequence (部分シーケンス)	Transmit Partial Sequence (部分シーケンスを送信)	SEQTTS1	49
	* Discard Partial Sequence (部分シーケンスを破棄)	SEQTTS0	49
Require Output Sequence (出力シーケンスの必須化)	Required (必須)	SEQ_EN2	50
	On/Not Required (オン/必須ではない)	SEQ_EN1	50
	* Off (オフ)	SEQ_EN0	50
複数シンボル	On (オン)	SHOTGN1	50
	* Off (オフ)	SHOTGN0	50
No Read (読み取りなし)	On (オン)	SHWNRD1	51
	* Off (オフ)	SHWNRD0	51
Video Reverse (ビデオ・リバース)	Video Reverse Only (ビデオ・リバースのみ)	VIDLDP1	51
	Video Reverse and Standard Bar Codes (ビデオ・リバースおよび標準のバーコード)	VIDLDP2	51
	* Video Reverse Off (ビデオ・リバース・オフ)	VIDLDP0	51
Working Orientation (読み取り方向)	* Upright (直立)	ROTATN0	52
	Vertical, Bottom to Top (Rotate CCW 90°) (垂直、先頭下 [反時計回りに90°回転])	ROTATN1	52
	Upside Down (上下反対)	ROTATN2	52
	Vertical, Top to Bottom (Rotate CW 90°) (垂直、先頭上 [時計回りに90°回転])	ROTATN3	52
プレフィックス/サフィックスの選択			
Add CR Suffix to All Symbologies (すべてのシンボル体系にCRサフィックスを追加)		VSUFCR	55
プレフィックス	Add Prefix (プレフィックスを追加)	PREBK2##	55
	Clear One Prefix (1つのプレフィックスをクリア)	PRECL2	55
	Clear All Prefixes (すべてのプレフィックスをクリア)	PRECA2	55
サフィックス	Add Suffix (サフィックスを追加)	SUFBK2##	56
	Clear One Suffix (1つのサフィックスをクリア)	SUFCL2	56
	Clear All Suffixes (すべてのサフィックスをクリア)	SUFCA2	56
Function Code Transmit (ファンクション・コードの送信)	* Enable (有効)	RMVFNC0	56
	Disable (無効)	RMVFNC1	56
Intercharacter Delay (文字間遅延)	Range 0 - 1000 (5 ms increments) (範囲 0~1000 [5ms 単位])	DLYCHR##	57
User Specified Intercharacter Delay (ユーザー指定の文字間遅延)	Delay Length (遅延時間) 0 - 1000 (5 ms increments) (0~1000 [5ms 単位])	DLYCRX##	57
	Character to Trigger Delay (遅延を発生させる文字)	DLY_XX##	57
Interfunction Delay (ファンクション間遅延)	Range 0 - 1000 (5 ms increments) (範囲 0~1000 [5ms 単位])	DLYFNC##	58
Intermessage Delay (メッセージ間遅延)	Range 0 - 1000 (5 ms increments) (範囲 0~1000 [5ms 単位])	DLYMSG##	58

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
データ・フォーマッターの選択			
Data Format Editor (データ・フォーマット・エディタ)	* Default Data Format (None) (デフォルト・データ・フォーマット [なし])	DFMDF3	60
	Enter Data Format (データ・フォーマットを入力)	DFMBK3##	61
	Clear One Data Format (1つのデータ・フォーマットをクリア)	DFMCL3	61
	Clear All Data Formats (すべてのデータ・フォーマットをクリア)	DFMCA3	61
Data Formatter (データ・フォーマッター)	Data Formatter Off (データ・フォーマッター・オフ)	DFM_EN0	75
	* Data Formatter On, Not Required, Keep Prefix/Suffix (データ・フォーマッター・オン、必須ではない、プレフィックス/サフィックスを保持)	DFM_EN1	75
	Data Format Required, Keep Prefix/Suffix (データ・フォーマット必須、プレフィックス/サフィックスを保持)	DFM_EN2	76
	Data Formatter On, Not Required, Drop Prefix/Suffix (データ・フォーマッター・オン、必須ではない、プレフィックス/サフィックスを破棄)	DFM_EN3	75
	Data Format Required, Drop Prefix/Suffix (データ・フォーマット必須、プレフィックス/サフィックスを破棄)	DFM_EN4	76
Data Format Non-Match Error Tone (データ・フォーマット不一致エラー・トーン)	* Data Format Non-Match Error Tone On (データ・フォーマット不一致エラー・トーン・オン)	DFMDEC0	76
	Data Format Non-Match Error Tone Off (データ・フォーマット不一致エラー・トーン・オフ)	DFMDEC1	76
Primary/Alternate Data Formats (基準/代用データ・フォーマット)	Primary Data Format (基準データ・フォーマット)	ALTFNM0	76
	Data Format 1 (データ・フォーマット 1)	ALTFNM1	76
	Data Format 2 (データ・フォーマット 2)	ALTFNM2	77
	Data Format 3 (データ・フォーマット 3)	ALTFNM3	77
Single Scan Data Format Change (シングル・スキャン・データ・フォーマットの変更)	Single Scan-Primary Data Format (シングル・スキャン - 基準データ・フォーマット)	VSAF_0	77
	Single Scan-Data Format 1 (シングル・スキャン - データ・フォーマット 1)	VSAF_1	77
	Single Scan-Data Format 2 (シングル・スキャン - データ・フォーマット 2)	VSAF_2	77
	Single Scan-Data Format 3 (シングル・スキャン - データ・フォーマット 3)	VSAF_3	77
シンボル体系			
All Symbologies (すべてのシンボル体系)	All Symbologies Off (すべてのシンボル体系をオフ)	ALLENA0	80
	All Symbologies On (すべてのシンボル体系をオン)	ALLENA1	80
Codabar	Default All Codabar Settings (Codabar の設定をすべてデフォルトに戻す)	CBRDFT	81
	Off (オフ)	CBRENA0	81
	* On (オン)	CBRENA1	81
Codabar Start/Stop Char. (Codabar のスタート/ストップ・キャラクタ)	* Don't Transmit (送信しない)	CBRSSX0	81
	Transmit (送信する)	CBRSSX1	81
Codabar Check Char. (Codabar のチェック・キャラクタ)	* No Check Character (チェック・キャラクタなし)	CBRCK20	82
	Validate Modulo 16, but Don't Transmit (モジュラス 16 を検証するが送信しない)	CBRCK21	82
	Validate Modulo 16 and Transmit (モジュラス 16 を検証して送信)	CBRCK22	82

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
Codabar Concatenation (Codabar の連結)	* Off (オフ)	CBRCCT0	82
	On (オン)	CBRCCT1	82
	Require (要求する)	CBRCCT2	82
Codabar Message Length (Codabar のメッセージ長)	Minimum (2 - 60) *4 (最小長 [2~60] *4)	CBRMIN##	83
	Maximum (2 - 60) *60 (最大長 [2~60] *60)	CBRMAX##	83
Code 39	Default All Code 39 Settings (Code 39 の設定をすべてデフォルトに戻す)	C39DFT	83
	Off (オフ)	C39ENA0	83
	* On (オン)	C39ENA1	83
Code 39 Start/Stop Char. (Code 39 のスタート/ストップ・キャラクタ)	* Don't Transmit (送信しない)	C39SSX0	83
	Transmit (送信する)	C39SSX1	83
Code 39 Check Char. (Code 39 のチェック・キャラクタ)	* No Check Char. (チェック・キャラクタなし)	C39CK20	84
	Validate, but Don't Transmit (検証するが送信しない)	C39CK21	84
	Validate and Transmit (検証して送信)	C39CK22	84
Code 39 Message Length (Code 39 のメッセージ長)	Minimum (0 - 48) *0 (最小長 [0~48] *0)	C39MIN##	84
	Maximum (0 - 48) *48 (最大長 [0~48] *48)	C39MAX##	84
Code 39 Redundancy (Code 39 照合設定)	Range (0-10) *0 (範囲 [0~10] *0)	C39VOT##	85
Code 39 Append (Code 39 の連結)	* Off (オフ)	C39APP0	85
	On (オン)	C39APP1	85
Code 32 Pharmaceutical (PARAF)	* Off (オフ)	C39B320	85
	On (オン)	C39B321	85
Code 39 Full ASCII	* Off (オフ)	C39ASC0	86
	On (オン)	C39ASC1	86
Code 39 Code Page (Code 39 のコードページ)	Code 39 Code Page (Code 39 のコードページ)	C39DCP	86
Code 39 Unconventional Inter-Character Gaps (Code 39 Unconventional の文字間ギャップ)	* Off (オフ)	C39UIC0	87
	On (オン)	C39UIC1	87
Trioptic Code	* Off (オフ)	TRIENA0	87
	On (オン)	TRIENA1	87
Trioptic Redundancy (Trioptic 照合設定)	Range (0-10) *0 (範囲 [0~10] *0)	TRIVOT##	87
Interleaved 2 of 5	Default All Interleaved 2 of 5 Settings (Interleaved 2 of 5 の設定をすべてデフォルトに戻す)	I25DFT	88
	Off (オフ)	I25ENA0	88
	* On (オン)	I25ENA1	88
Interleaved 2 of 5 Check Digit (Interleaved 2 of 5 のチェック・デジット)	* No Check Char. (チェック・キャラクタなし)	I25CK20	88
	Validate, but Don't Transmit (検証するが送信しない)	I25CK21	88
	Validate and Transmit (検証して送信)	I25CK22	89

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
Interleaved 2 of 5 Message Length (Interleaved 2 of 5 のメッセージ長)	Minimum (2 - 80) *4 (最小長 [2~80] *4)	I25MIN##	89
	Maximum (2 - 80) *80 (最大長 [2~80] *80)	I25MAX##	89
FEBRABAN Decode (FEBRABAN のデコード)	* Off (オフ)	I25PAY0	89
	On (オン)	I25PAY1	89
NEC 2 of 5	Default All NEC 2 of 5 Settings (NEC 2 of 5 の設定をすべてデフォルトに戻す)	N25DFT	89
	Off (オフ)	N25ENA0	90
	* On (オン)	N25ENA1	90
NEC 2 of 5 Check Digit (NEC 2 of 5 のチェック・デジット)	* No Check Char. (チェック・キャラクタなし)	N25CK20	90
	Validate, but Don't Transmit (検証するが送信しない)	N25CK21	90
	Validate and Transmit (検証して送信)	N25CK22	90
NEC 2 of 5 Message Length (NEC 2 of 5 のメッセージ長)	Minimum (2 - 80) *4 (最小長 [2~80] *4)	N25MIN##	90
	Maximum (2 - 80) *80 (最大長 [2~80] *80)	N25MAX##	90
NEC 2 of 5 Redundancy (NEC 2 of 5 照合設定)	Range (0-10) *0 (範囲 [0~10] *0)	N25VOT##	91
Code 93	Default All Code 93 Settings (Code 93 の設定をすべてデフォルトに戻す)	C93DFT	91
	Off (オフ)	C93ENA0	91
	* On (オン)	C93ENA1	91
Code 93 Message Length (Code 93 のメッセージ長)	Minimum (0 - 80) *0 (最小長 [0~80] *0)	C93MIN##	92
	Maximum (0 - 80) *80 (最大長 [0~80] *80)	C93MAX##	92
Code 93 Redundancy (Code 93 照合設定)	Range (0-10) *0 (範囲 [0~10] *0)	C93VOT##	92
Code 93 Append (Code 93 の連結)	On (オン)	C93APP1	92
	* Off (オフ)	C93APP0	92
Code 93 Code Page (Code 93 のコードページ)	Code 93 Code Page (Code 93 のコードページ)	C93DCP	93
Straight 2 of 5 Industrial	Default All Straight 2 of 5 Industrial Settings (Straight 2 of 5 Industrial の設定をすべてデフォルトに戻す)	R25DFT	93
	* Off (オフ)	R25ENA0	93
	On (オン)	R25ENA1	93
Straight 2 of 5 Industrial Message Length (Straight 2 of 5 Industrial のメッセージ長)	Minimum (1 - 48) *4 (最小長 [1~48] *4)	R25MIN##	93
	Maximum (1 - 48) *48 (最大長 [1~48] *48)	R25MAX##	93
Straight 2 of 5 Industrial Redundancy (Straight 2 of 5 Industrial 照合設定)	Range (0-10) *0 (範囲 [0~10] *0)	R25VOT##	94
Straight 2 of 5 IATA	Default All Straight 2 of 5 IATA Settings (Straight 2 of 5 IATA の設定をすべてデフォルトに戻す)	A25DFT	94
	* Off (オフ)	A25ENA0	94
	On (オン)	A25ENA1	94
Straight 2 of 5 IATA Message Length (Straight 2 of 5 IATA のメッセージ長)	Minimum (1 - 48) *4 (最小長 [1~48] *4)	A25MIN##	94
	Maximum (1 - 48) *48 (最大長 [1~48] *48)	A25MAX##	94
Straight 2 of 5 IATA Redundancy (Straight 2 of 5 IATA 照合設定)	Range (0-10) *0 (範囲 [0~10] *0)	A25VOT##	95

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
Matrix 2 of 5	Default All Matrix 2 of 5 Settings (Matrix 2 of 5 の設定をすべてデフォルトに戻す)	X25DFT	95
	* Off (オフ)	X25ENAO	95
	On (オン)	X25ENA1	95
Matrix 2 of 5 Message Length (Matrix 2 of 5 のメッセージ長)	Minimum (1 - 80) *4 (最小長 [1~80] *4)	X25MIN##	96
	Maximum (1 - 80) *80 (最大長 [1~80] *80)	X25MAX##	96
Matrix 2 of 5 Redundancy (Matrix 2 of 5 照合設定)	Range (0-10) *0 (範囲 [0~10] *0)	X25VOT##	96
Code 11	Default All Code 11 Settings (Code 11 の設定をすべてデフォルトに戻す)	C11DFT	96
	* Off (オフ)	C11ENAO	96
	On (オン)	C11ENA1	96
Code 11 Check Digits Required (Code 11 のチェック・デジット必須)	1 Check Digit (チェック・デジット1つ)	C11CK20	97
	* 2 Check Digits (チェック・デジット2つ)	C11CK21	97
Code 11 Message Length (Code 11 のメッセージ長)	Minimum (1 - 80) *4 (最小長 [1~80] *4)	C11MIN##	97
	Maximum (1 - 80) *80 (最大長 [1~80] *80)	C11MAX##	97
Code 11 Redundancy (Code 11 照合設定)	Range (0-10) *0 (範囲 [0~10] *0)	C11VOT##	97
Code 128	Default All Code 128 Settings (Code 128 の設定をすべてデフォルトに戻す)	128DFT	98
	Off (オフ)	128ENAO	98
	* On (オン)	128ENA1	98
ISBT Concatenation (ISBT の連結)	* Off (オフ)	ISBENAO	98
	On (オン)	ISBENA1	98
ISBT 128 Concatenation Mode (ISBT 128 連結モード)	None (なし)	ISBCCT0	98
	* Required (必須)	ISBCCT1	98
	Optional (オプション)	ISBCCT2	99
ISBT 128 Strict Concatenation (ISBT 128 の厳密連結)	* On (オン)	ISBSTR1	99
	Off (オフ)	ISBSTRO	99
ISBT 128 Concatenation Alignment (ISBT 128 連結アライメント)	On (オン)	ISBALI1	99
	* Off (オフ)	ISBALI0	99
ISBT 128 Alternate ID (ISBT 128 代替 ID)	On (オン)	ISBALT1	100
	* Off (オフ)	ISBALTO	100
Code 128 Message Length (Code 128 のメッセージ長)	Minimum (0 - 90) *0 (最小長 [0~90] *0)	128MIN##	100
	Maximum (0 - 90) *80 (最大長 [0~90] *80)	128MAX##	100
Code 128 Append (Code 128 の連結)	* On (オン)	128APP1	100
	Off (オフ)	128APP0	100
Code 128 Code Page (Code 128 のコードページ)	Code 128 Code Page (*2) (Code 128 のコードページ [*2])	128DCP##	101
Code 128 Redundancy (Code 128 照合設定)	Range (0-10) *0 (範囲 [0~10] *0)	128VOT##	101

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
GS1-128	Default All GS1-128 Settings (GS1-128の設定をすべてデフォルトに戻す)	GS1DFT	101
	* On (オン)	GS1ENA1	102
	Off (オフ)	GS1ENA0	102
GS1-128 Message Length (GS1-128のメッセージ長)	Minimum (1 - 80) *1 (最小長 [1~80] *1)	GS1MIN	102
	Maximum (0 - 80) *80 (最大長 [0~80] *80)	GS1MAX	102
GS1-128 Redundancy (GS1-128 照合設定)	Range (0-10) *0 (範囲 [0~10] *0)	GS1VOT##	102
Telepen	Default All Telepen Settings (Telepenの設定をすべてデフォルトに戻す)	TELDFT	102
	* Off (オフ)	TELENA0	103
	On (オン)	TELENA1	103
Telepen Output (Telepenの出力)	* AIM Telepen Output (TelepenのAIM出力)	TELOLD0	103
	Original Telepen Output (Telepenのオリジナル出力)	TELOLD1	103
Telepen Message Length (Telepenのメッセージ長)	Minimum (1 - 60) *1 (最小長 [1~60] *1)	TELMIN##	103
	Maximum (1 - 60) *60 (最大長 [1~60] *60)	TELMAX##	103
Telepen Redundancy (Telepen 照合設定)	Range (0-10) *0 (範囲 [0~10] *0)	TELVOT##	103
UPC-A	Default All UPC-A Settings (UPC-Aの設定をすべてデフォルトに戻す)	UPADFT	104
	Off (オフ)	UPBENA0	104
	* On (オン)	UPBENA1	104
UPC-A Check Digit (UPC-Aのチェック・デジット)	Off (オフ)	UPACKX0	104
	* On (オン)	UPACKX1	104
UPC-A Number System (UPC-Aのナンバー・システム)	Off (オフ)	UPANSX0	105
	* On (オン)	UPANSX1	105
UPC-A Redundancy (UPC-A 照合設定)	Range (0-10) *0 (範囲 [0~10] *0)	UPAVOT##	105
UPC-A 2 Digit Addenda (UPC-Aの2桁のアドオン)	* Off (オフ)	UPAAD20	105
	On (オン)	UPAAD21	105
UPC-A 5 Digit Addenda (UPC-Aの5桁のアドオン)	* Off (オフ)	UPAAD50	106
	On (オン)	UPAAD51	105
UPC-A Addenda Required (UPC-A アドオン必須)	* Not Required (必須ではない)	UPAARQ0	106
	Required (必須)	UPAARQ1	106
Addenda Timeout (アドオンのタイムアウト)	Range (0-65535) *100 (範囲 [0~65535] *100)	DLYADD####	106
UPC-A Addenda Separator (UPC-Aのアドオン・セパレーター)	Off (オフ)	UPAADS0	106
	* On (オン)	UPAADS1	106
UPC-A/EAN-13 with Extended Coupon Code (拡張クーポン・コード付き UPC-A/EAN-13)	* Off (オフ)	CPNENA0	107
	Allow Concatenation (連結許可)	CPNENA1	107
	Require Concatenation (連結必須)	CPNENA2	107
Coupon GS1 DataBar Output (クーポン GS1 DataBar 出力)	GS1 Output Off (GS1 出力オフ)	CPNGS10	107
	GS1 Output On (GS1 出力オン)	CPNGS11	107

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
UPC-E0	Default All UPC-E Settings (UPC-E の設定をすべてデフォルトに戻す)	UPEDFT	108
	Off (オフ)	UPEEN00	108
	* On (オン)	UPEEN01	108
UPC-E0 Expand (UPC-E0 拡張)	* Off (オフ)	UPEEXP0	108
	On (オン)	UPEEXP1	108
UPC-E0 Redundancy (UPC-E0 照合設定)	Range (0-10)*0 (範囲 [0~10] *0)	UPEVOT##	108
UPC-E0 Addenda Required (UPC-E0 アドオン必須)	Required (必須)	UPEARQ1	109
	* Not Required (必須ではない)	UPEARQ0	109
UPC-E0 Addenda Separator (UPC-E0 のアドオン・セパレーター)	* On (オン)	UPEADS1	109
	Off (オフ)	UPEADS0	109
UPC-E0 Check Digit (UPC-E0 のチェック・デジット)	Off (オフ)	UPECKX0	109
	* On (オン)	UPECKX1	109
UPC-E0 Leading Zero (UPC-E0 の先頭のゼロ)	Off (オフ)	UPENSX0	110
	* On (オン)	UPENSX1	110
UPC-E0 Addenda (UPC-E0 のアドオン)	2 Digit Addenda On (2桁のアドオン・オン)	UPEAD21	110
	* 2 Digit Addenda Off (2桁のアドオン・オフ)	UPEAD20	110
	5 Digit Addenda On (5桁のアドオン・オン)	UPEAD51	110
	* 5 Digit Addenda Off (5桁のアドオン・オフ)	UPEAD50	110
UPC-E1	* Off (オフ)	UPEEN10	111
	On (オン)	UPEEN11	111
EAN/JAN-13	Default All EAN/JAN Settings (EAN/JAN の設定をすべてデフォルトに戻す)	E13DFT	111
	Off (オフ)	E13ENA0	111
	* On (オン)	E13ENA1	111
Convert UPC-A to EAN-13 (UPC-A を EAN-13 に変換する)	UPC-A Converted to EAN-13 (UPC-A を EAN-13 に変換する)	UPAENA0	111
	Do not Convert UPC-A (UPC-A を変換しない)	UPAENA1	111
EAN/JAN-13 Check Digit (EAN/JAN-13 のチェック・デジット)	Off (オフ)	E13CKX0	112
	* On (オン)	E13CKX1	112
EAN/JAN-13 Redundancy (EAN/JAN-13 照合設定)	Range (0-10)*0 (範囲 [0~10] *0)	E13VOT##	112
EAN/JAN-13 2 Digit Addenda (EAN/JAN-13 の 2桁のアドオン)	2 Digit Addenda On (2桁のアドオン・オン)	E13AD21	112
	* 2 Digit Addenda Off (2桁のアドオン・オフ)	E13AD20	112
	5 Digit Addenda On (5桁のアドオン・オン)	E13AD51	112
	* 5 Digit Addenda Off (5桁のアドオン・オフ)	E13AD50	113
EAN/JAN-13 Addenda Required (EAN/JAN-13 アドオン必須)	* Not Required (必須ではない)	E13ARQ0	113
	Required (必須)	E13ARQ1	113
EAN/JAN-13 Beginning with 290 Addenda Required (290 から始まる EAN/JAN-13 へのアドオン要求)	* Don't Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを要求しない)	ARQ2900	113
	Require 5 Digit Addend (5桁のアドオンを要求する)	ARQ2901	113

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
EAN/JAN-13 Beginning with 378/379 Addenda Required (378/379から始まる EAN/JAN-13 へのアドオン要求)	* Don't Require Addenda (アドオンを要求しない)	ARQ3780	114
	Require 2 Digit Addend (2桁のアドオンを要求する)	ARQ3781	114
	Require 5 Digit Addend (5桁のアドオンを要求する)	ARQ3782	114
	Require 2 or 5 Digit Addenda (2桁または5桁のアドオンを要求する)	ARQ3783	114
EAN/JAN-13 Beginning with 414/419 Addenda Required (414/419から始まる EAN/JAN-13 へのアドオン要求)	* Don't Require Addenda (アドオンを要求しない)	ARQ4140	114
	Require 2 Digit Addend (2桁のアドオンを要求する)	ARQ4141	114
	Require 5 Digit Addend (5桁のアドオンを要求する)	ARQ4142	114
	Require 2 or 5 Digit Addenda (2桁または5桁のアドオンを要求する)	ARQ4143	114
EAN/JAN-13 Beginning with 434/439 Addenda Required (434/439から始まる EAN/JAN-13 へのアドオン要求)	* Don't Require Addenda (アドオンを要求しない)	ARQ4340	115
	Require 2 Digit Addend (2桁のアドオンを要求する)	ARQ4341	115
	Require 5 Digit Addend (5桁のアドオンを要求する)	ARQ4342	115
	Require 2 or 5 Digit Addenda (2桁または5桁のアドオンを要求する)	ARQ4343	115
EAN/JAN-13 Beginning with 491 Addenda Required (491から始まる EAN/JAN-13 へのアドオン要求)	* Don't Require Addenda (アドオンを要求しない)	ARQ4910	116
	Require 2 Digit Addend (2桁のアドオンを要求する)	ARQ4911	116
	Require 5 Digit Addend (5桁のアドオンを要求する)	ARQ4912	116
	Require 2 or 5 Digit Addenda (2桁または5桁のアドオンを要求する)	ARQ4913	116
EAN/JAN-13 Beginning with 977 Addenda Required (977から始まる EAN/JAN-13 へのアドオン要求)	* Don't Require 2 Digit Addenda (2桁のアドオンを要求しない)	ARQ9770	116
	Require 2 Digit Addend (2桁のアドオンを要求する)	ARQ9771	116
EAN/JAN-13 Beginning with 978 Addenda Required (978から始まる EAN/JAN-13 へのアドオン要求)	* Don't Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを要求しない)	ARQ9780	117
	Require 5 Digit Addend (5桁のアドオンを要求する)	ARQ9781	117
EAN/JAN-13 Beginning with 979 Addenda Required (979から始まる EAN/JAN-13 へのアドオン要求)	* Don't Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを要求しない)	ARQ9790	117
	Require 5 Digit Addend (5桁のアドオンを要求する)	ARQ9791	117
EAN/JAN-13 Addenda Separator (EAN/JAN-13のアドオン・セパレーター)	Off (オフ)	E13ADS0	118
	* On (オン)	E13ADS1	118
ISBN Translate (ISBN変換)	* Off (オフ)	E13ISB0	118
	On (オン)	E13ISB1	118
EAN/JAN-8	Default All EAN/JAN 8 Settings (EAN/JAN-8の設定をすべてデフォルトに戻す)	EA8DFT	119
	Off (オフ)	EA8ENA0	119
	* On (オン)	EA8ENA1	119
EAN/JAN-8 Check Digit (EAN/JAN-8のチェック・デジット)	Off (オフ)	EA8CKX0	119
	* On (オン)	EA8CKX1	119
EAN/JAN-8 Redundancy (EAN/JAN-8 照合設定)	Range (0-10)*0 (範囲 [0~10] *0)	EA8VOT##	119
EAN/JAN-8 Addenda (EAN/JAN-8のアドオン)	* 2 Digit Addenda Off (2桁のアドオン・オフ)	EA8AD20	120
	2 Digit Addenda On (2桁のアドオン・オン)	EA8AD21	120
	5 Digit Addenda On (5桁のアドオン・オン)	EA8AD51	120
	* 5 Digit Addenda Off (5桁のアドオン・オフ)	EA8AD50	120

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
EAN/JAN-8 Addenda Required (EAN/JAN-8 アドオン必須)	* Not Required (必須ではない)	EA8ARQ0	120
	Required (必須)	EA8ARQ1	120
EAN/JAN-8 Addenda Separator (EAN/JAN-8 のアドオン・セパレーター)	Off (オフ)	EA8ADS0	120
	* On (オン)	EA8ADS1	120
MSI	Default All MSI Settings (MSI の設定をすべてデフォルトに戻す)	MSIDFT	121
	* Off (オフ)	MSIENA0	121
	On (オン)	MSIENA1	121
MSI Check Character (MSI のチェック・キャラクタ)	* Validate Type 10, but Don't Transmit (タイプ 10 を検証するが送信しない)	MSICHK0	121
	Validate Type 10 and Transmit (タイプ 10 を検証して送信)	MSICHK1	121
	Validate 2 Type 10 Chars, but Don't Transmit (2 つのタイプ 10 文字を検証するが送信しない)	MSICHK2	121
	Validate 2 Type 10 Chars and Transmit (2 つのタイプ 10 文字を検証して送信)	MSICHK3	121
	Validate Type 11 then Type 10 Character, but Don't Transmit (タイプ 11 文字の後でタイプ 10 文字を検証するが送信しない)	MSICHK4	122
	Validate Type 11 then Type 10 Character and Transmit (タイプ 11 文字の後でタイプ 10 文字を検証して送信)	MSICHK5	122
	Disable MSI Check Characters (MSI のチェック・キャラクタ無効)	MSICHK6	122
MSI Message Length (MSI のメッセージ長)	Minimum (4 - 48) *4 (最小長 [4~48] *4)	MSIMIN##	122
	Maximum (4 - 48) *48 (最大長 [4 - 48] *48)	MSIMAX##	122
MSI Redundancy (MSI 照合設定)	Range (0-10) *0 (範囲 [0~10] *0)	MSIVOT##	122
GS1 DataBar Omnidirectional	Default All GS1 DataBar Omnidirectional Settings (GS1 DataBar Omnidirectional の設定をすべてデフォルトに戻す)	RSSDFT	123
	Off (オフ)	RSSENA0	123
	* On (オン)	RSSENA1	123
GS1 DataBar Omnidirectional	Range (0-10) *0 (範囲 [0~10] *0)	RSSVOT##	123
GS1 DataBar Limited	Default All GS1 DataBar Limited Settings (GS1 DataBar Limited の設定をすべてデフォルトに戻す)	RSLDFT	123
	Off (オフ)	RSLENA0	124
	* On (オン)	RSLENA1	124
GS1 DataBar Limited Redundancy (GS1 DataBar Limited 照合設定)	Range (0-10) *0 (範囲 [0~10] *0)	RSLVOT##	124
GS1 DataBar Expanded	Default All GS1 DataBar Expanded Settings (GS1 DataBar Expanded の設定をすべてデフォルトに戻す)	RSEDFT	124
	Off (オフ)	RSEENA0	124
	* On (オン)	RSEENA1	124
GS1 DataBar Expanded Msg. Length (GS1 DataBar Expanded のメッセージ長)	Minimum (4 - 74) *4 (最小長 [4~74] *4)	RSEMIN##	125
	Maximum (4 - 74) *74 (最大長 [4 - 74] *74)	RSEMAX##	125
GS1 DataBar Expanded Redundancy (GS1 DataBar Expanded 照合設定)	Range (0-10) *0 (範囲 [0~10] *0)	RSEVOT##	125

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
Codablock A	Default All Codablock A Settings (Codablock A の設定をすべてデフォルトに戻す)	CBADFT	126
	* Off (オフ)	CBAENAO	126
	On (オン)	CBAENA1	126
Codablock A Msg. Length (Codablock A のメッセージ長)	Minimum (1 - 600) *1 (最小長 [1~600] *1)	CBAMIN####	126
	Maximum (1 - 600) *600 (最大長 [1~600] *600)	CBAMAX####	126
Codablock F	Default All Codablock F Settings (Codablock F の設定をすべてデフォルトに戻す)	CBFDFT	126
	* Off (オフ)	CBFENAO	127
	On (オン)	CBFENA1	127
Codablock F Msg. Length (Codablock F のメッセージ長)	Minimum (1 - 2048) *1 (最小長 [1~2048] *1)	CBFMIN####	127
	Maximum (1 - 2048) *2048 (最大長 [1~2048] *2048)	CBFMAX####	127
Label Code (ラベル・コード)	On (オン)	LBLENA1	126
	* Off (オフ)	LBLENA0	126
PDF417	Default All PDF417 Settings (PDF417 の設定をすべてデフォルトに戻す)	PDFDFT	128
	* On (オン)	PDFENA1	128
	Off (オフ)	PDFENA0	128
PDF417 Msg. Length (PDF417 のメッセージ長)	Minimum (1 - 2750) *1 (最小長 [1~2750] *1)	PDFMIN	128
	Maximum (1 - 2750) *2750 (最大長 [1~2750] *2750)	PDFMAX	128
PDF417 Code Page (PDF417 のコードページ)	PDF417 Code Page (PDF417 のコードページ)	PDFDCP##	128
MacroPDF417	* On (オン)	PDFMAC1	129
	Off (オフ)	PDFMAC0	129
MicroPDF417	Default All Micro PDF417 Settings (MicroPDF417 の設定をすべてデフォルトに戻す)	MPDDFT	129
	On (オン)	MPDENA1	129
	* Off (オフ)	MPDENA0	129
MicroPDF417 Msg.Length (MicroPDF417 のメッセージ長)	Minimum (1 - 366) *1 (最小長 [1~366] *1)	MPDMIN	129
	Maximum (1 - 366) *366 (最大長 [1~366] *366)	MPDMAX	129
MicroPDF417 Code Page (MicroPDF417 のコードページ)	MicroPDF417 Code Page (MicroPDF417 のコードページ) (*30)	MPDDCP##	130
GS1 Composite Codes (GS1 コンボジット・コード)	On (オン)	COMENA1	130
	* Off (オフ)	COMENAO	130
UPC/EAN Version (UPC/EAN のバージョン)	On (オン)	COMUPC1	131
	* Off (オフ)	COMUPCO	131
GS1 Composite Codes Msg. Length (GS1 コンボジット・コードのメッセージ長)	Minimum (1 - 2435) *1 (最小長 [1~2435] *1)	COMMIN	131
	Maximum (1 - 2435) *2435 (最大長 [1~2435] *2435)	COMMAX	131
GS1 Composite Code Code Page (GS1 コンボジット・コードのコードページ)	GS1 Composite Code Code Page (GS1 コンボジット・コードのコードページ)	COMDCP##	131

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
GS1 Emulation (GS1 エミュレーション)	GS1-128 Emulation (GS1-128 エミュレーション)	EANEMU1	132
	GS1 DataBar Emulation (GS1 DataBar エミュレーション)	EANEMU2	132
	GS1 Code Expansion Off (GS1 コード拡張オフ)	EANEMU3	132
	EAN8 to EAN13 Conversion (EAN8をEAN13に変換)	EANEMU4	132
	* GS1 Emulation Off (GS1 エミュレーション・オフ)	EANEMU0	132
TCIF Linked Code 39	On (オン)	T39ENA1	133
	* Off (オフ)	T39ENA0	133
QR Code	Default All QR Code Settings (QRコードの設定をすべてデフォルトに戻す)	QRCDFT	133
	* On (オン)	QRCENA1	133
	Off (オフ)	QRCENA0	133
QR Code Msg. Length (QRコードのメッセージ長)	Minimum (1 - 7089) *1 (最小長 [1~7089] *1)	QRCCMIN	133
	Maximum (1 - 7089) *7089 (最大長 [1~7089] *7089)	QRCCMAX	133
QR Code Append (QRコードの連結)	* On (オン)	QRCCAPP1	134
	Off (オフ)	QRCCAPP0	134
QR Code Page (QRコードのコードページ)	QR Code Page (QRコードのコードページ) (*3)	QRCCDCP##	134
QR Code No Quiet Zone (無QRコードのクワイエットゾーン)	On (オン)	QRCCNQZ1	134
	Off (オフ)	QRCCNQZ0	134
DotCode (ドットコード)	Default All DotCode Settings (ドットコードの設定をすべてデフォルトに戻す)	DOTDFT	135
	On (オン)	DOTENA1	135
	* Off (オフ)	DOTENA0	135
Poor Quality DotCodes (低品質ドットコード)	Poor Quality DotCodes On (低品質ドットコード・オン)	DOTEXS1	135
	* Poor Quality DotCodes Off (低品質ドットコード・オフ)	DOTEXS0	135
DotCode Message Length (ドットコードのメッセージ長)	Minimum (1 - 2400) *1 (最小長 [1~2400] *1)	DOTMIN####	136
	Maximum (1 - 2400) *2400 (最大長 [1~2400] *2400)	DOTMAX####	136
Digimarc Barcode (Digimarc バーコード)	Decoder Attempts (0-10) *3 (デコーダの試行 [0~10] *3)	DIGSTR##	136
	Off (オフ)	DIGENA0	136
	On (オン)	DIGENA1	136
	Uses ID Decoder then Both Decoders (IDデコーダの使用後、両方のデコーダを使用する)	DIGIENA2	136
	* Uses Digimarc Decoder then Both Decoders (Digimarcデコーダの使用後、両方のデコーダを使用する)	DIGIENA3	136
	Uses ID Decoder then Alternates Decoders (IDデコーダの使用後、交互にデコーダを使用する)	DIGIENA4	136
	Uses Digimarc Decoder then Alternates Decoders (Digimarcデコーダの使用後、交互にデコーダを使用する)	DIGIENA5	136
Data Matrix	Default All Data Matrix Settings (Data Matrixの設定をすべてデフォルトに戻す)	IDMDFT	137
	* On (オン)	IDMENA1	137
	Off (オフ)	IDMENA0	137

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
Low Contrast Data Matrix Enhancements (低コントラスト Data Matrix の拡張)	* Low Contrast Data Matrix Enhancements On (低コントラスト Data Matrix の拡張をオン)	DPMENA1	138
	Low Contrast Data Matrix Enhancements Off (低コントラスト Data Matrix の拡張をオフ)	DPMENAO	138
	Reflective Low Contrast Data Matrix Enhancements On (反射型・低コントラスト Data Matrix の拡張をオン)	DPMENA2	138
Data Matrix Small Reflective Barcodes (Data Matrix 小型反射型バーコード)	On (オン)	DPMRSZ1	138
	* Off (オフ)	DPMRSZ0	138
Data Matrix Msg. Length (Data Matrix のメッセージ長)	Minimum (1-3116)*1 (最小長 [1~3116] *1)	IDMMIN	138
	Maximum (1-3116)*3116 (最大長 [1~3116] *3116)	IDMMAX	138
Data Matrix Code Page (Data Matrix コードのコードページ)	Data Matrix Code Page (Data Matrix コードのコードページ) (*51)	IDMDCP##	139
Grid Matrix	Default All Grid Matrix Settings (Grid Matrix の設定をすべてデフォルトに戻す)	GMXDFT	139
	On (オン)	GMXENA1	139
	* Off (オフ)	GMXENAO	140
Grid Matrix Message Length (Grid Matrix のメッセージ長)	Minimum (1-2751)*1 (最小長 [1~2751] *1)	GMXMIN####	140
	Maximum (1-2751)*2751 (最大長 [1~2751] *2751)	GMXMAX####	140
MaxiCode	Default All MaxiCode Settings (MaxiCode の設定をすべてデフォルトに戻す)	MAXDFT	140
	* On (オン)	MAXENA1	140
	Off (オフ)	MAXENAO	140
MaxiCode Message Format (MaxiCode のメッセージ・フォーマット)	Primary Message Only (プライマリ・メッセージのみ)	MAXFMT0	141
	Primary Required, Secondary if Available (プライマリ必須、セカンダリは可能な場合)	MAXFMT1	141
	Both Primary and Secondary Required (プライマリとセカンダリのいずれも必須)	MAXFMT2	141
MaxiCode Msg. Length (MaxiCode のメッセージ長)	Minimum (1-150)*1 (最小長 [1~150] *1)	MAXMIN	141
	Maximum (1-150)*150 (最大長 [1~150] *150)	MAXMAX	141
Aztec Code	Default All Aztec Code Settings (Aztec Code の設定をすべてデフォルトに戻す)	AZTDFT	141
	* On (オン)	AZTENA1	141
	Off (オフ)	AZTENAO	141
Aztec Code Msg. Length (Aztec Code のメッセージ長)	Minimum (1-3832)*1 (最小長 [1~3832] *1)	AZTMIN	142
	Maximum (1-3832)*3832 (最大長 [1~3832] *3832)	AZTMAX	142
Aztec Append (Aztec の連結)	* On (オン)	AZTAPP1	142
	Off (オフ)	AZTAPP0	142
Aztec Code Page (Aztec のコードページ)	Aztec Code Page (Aztec のコードページ) (*51)	AZTDCP##	142
Chinese Sensible (Han Xin) Code (Chinese Sensible [Han Xin] コード)	Default All Han Xin Code Settings (Han Xin コードの設定をすべてデフォルトに戻す)	HX_DFT	143
	On (オン)	HX_ENA1	143
	* Off (オフ)	HX_ENAO	143
Chinese Sensible (Han Xin) Code Msg.Length (Chinese Sensible (Han Xin) コードのメッセージ長)	Minimum (1-7833)*1 (最小長 [1~7833] *1)	HX_MIN	143
	Maximum (1-7833)*7833 (最大長 [1~7833] *7833)	HX_MAX	143
Postal Codes - 2D (郵便コード - 2次元)			

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
2D Postal Codes (2次元郵便コード)	* Off (オフ)	POSTAL0	144
Single 2D Postal Codes (単独2次元郵便コード)	Australian Post On (Australian Post オン)	POSTAL1	144
	British Post On (British Post オン)	POSTAL7	144
	Canadian Post On (Canadian Post オン)	POSTAL30	144
	Intelligent Mail Bar Code On (Intelligent Mail バーコード・オン)	POSTAL10	144
	Japanese Post On (日本郵便オン)	POSTAL3	144
	KIX Post On (KIX Post オン)	POSTAL4	144
	Planet Code On (Planet Code オン)	POSTAL5	144
	Postal-4i On (Postal-4i オン)	POSTAL9	144
	Postnet On (Postnet オン)	POSTAL6	145
	Postnet with B and B' Fields On (Postnet B および B'フィールド・オン)	POSTAL11	145
Combination 2D Postal Codes (組み合わせの2次元郵便コード)	InfoMail On (InfoMail オン)	POSTAL2	145
	InfoMail and British Post On (InfoMail と British Post オン)	POSTAL8	145
	Intelligent Mail Bar Code and Postnet with B and B' Fields On (Intelligent Mail バーコードならびに Postnet B および B'フィールド・オン)	POSTAL20	145
	Postnet and Postal-4i On (Postnet と Postal-4i オン)	POSTAL14	145
	Postnet and Intelligent Mail Bar Code On (Postnet と Intelligent Mail バーコード・オン)	POSTAL16	145
	Postal-4i and Intelligent Mail Bar Code On (Postal-4i と Intelligent Mail バーコード・オン)	POSTAL17	145
	Postal-4i and Postnet with B and B' Fields On (Postal-4i ならびに Postnet B および B'フィールド・オン)	POSTAL19	145
	Planet and Postnet On (Planet と Postnet オン)	POSTAL12	146
	Planet and Postnet with B and B' Fields On (Planet ならびに Postnet B および B'フィールド・オン)	POSTAL18	146
	Planet and Postal-4i On (Planet と Postal-4i オン)	POSTAL13	146
	Planet and Intelligent Mail Bar Code On (Planet と Intelligent Mail バーコード・オン)	POSTAL15	146
	Planet, Postnet, and Postal-4i On (Planet、Postnet、および Postal-4i オン)	POSTAL21	146
	Planet, Postnet, and Intelligent Mail Bar Code On (Planet、Postnet、および Intelligent Mail バーコード・オン)	POSTAL22	146
	Planet, Postal-4i, and Intelligent Mail Bar Code On (Planet、Postal-4i、および Intelligent Mail バーコード・オン)	POSTAL23	146
	Postnet, Postal-4i, and Intelligent Mail Bar Code On (Postnet、Postal-4i、および Intelligent Mail バーコード・オン)	POSTAL24	146
	Planet, Postal-4i, and Postnet with B and B' Fields On (Planet、Postal-4i、ならびに Postnet B および B'フィールド・オン)	POSTAL25	146
	Planet, Intelligent Mail Bar Code, and Postnet with B and B' Fields On (Planet、Intelligent Mail バーコード、ならびに Postnet B および B'フィールド・オン)	POSTAL26	146
Postal-4i, Intelligent Mail Bar Code, and Postnet with B and B' Fields On (Postal-4i、Intelligent Mail バーコード、ならびに Postnet B および B'フィールド・オン)	POSTAL27	147	

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
	Planet, Postal-4i, Intelligent Mail Bar Code, and Postnet On (Planet, Postal-4i, Intelligent Mail バーコード、および Postnet オン)	POSTAL28	147
	Planet, Postal-4i, Intelligent Mail Bar Code, and Postnet with B and B' Fields On (Planet, Postal-4i, Intelligent Mail バーコード、ならびに Postnet B および B'フィールド・オン)	POSTAL29	147
Planet Code Check Digit (Planet Code のチェック・デジット)	Transmit (送信する)	PLNCKX1	147
	* Don't Transmit (送信しない)	PLNCKX0	147
Postnet Check Digit (Postnet のチェック・デジット)	Transmit (送信する)	NETCKX1	147
	* Don't Transmit (送信しない)	NETCKX0	147
Australian Post Interpretation (Australian Post の解釈)	Bar Output (バー出力)	AUSINT0	148
	Numeric N Table (数字 N テーブル)	AUSINT1	148
	Alphanumeric C Table (英数字 C テーブル)	AUSINT2	148
	Combination N and C Tables (N および C テーブルの組み合わせ)	AUSINT3	148
郵便コード - リニア			
China Post (Hong Kong 2 of 5)	Default All China Post (Hong Kong 2 of 5) Settings (China Post [Hong Kong 2 of 5] の設定をすべてデフォルトに戻す)	CPCDFT	148
	* Off (オフ)	CPCENAO	149
	On (オン)	CPCENA1	149
China Post (Hong Kong 2 of 5) Msg. Length (China Post (Hong Kong 2 of 5) のメッセージ長) 長さ	Minimum (2 - 80) *4 (最小長 [2~80] *4)	CPCMIN##	149
	Maximum (2 - 80) *80 (最大長 [2~80] *80)	CPCMAX##	149
China Post Redundancy (China Post 照合設定)	Range (0-10) *0 (範囲 [0~10] *0)	CPCVOT##	149
Korean Post	Default All Korea Post Settings (Korean Post の設定をすべてデフォルトに戻す)	KPCDFT	149
	* Off (オフ)	KPCENAO	150
	On (オン)	KPCENA1	150
Korea Post Msg. Length (Korean Post のメッセージ長) 長さ	Minimum (2 - 80) *4 (最小長 [2~80] *4)	KPCMIN##	150
	Maximum (2 - 80) *48 (最大長 [2~80] *48)	KPCMAX##	150
Korea Post Check Digit (Korean Post のチェック・デジット)	Transmit Check Digit (チェック・デジットを送信する)	KPCCHK1	150
	* Don't Transmit Check Digit (チェック・デジットを送信しない)	KPCCHK0	150
撮影のデフォルトコマンド			
Image Snap (イメージ・スナップ)	Default all Imaging Commands (撮影コマンドをすべてデフォルトに戻す)	IMGDFT	151
	Imaging Style - Decoding (撮影スタイル - デコード)	SNPSTY0	152
	* Imaging Style - Photo (撮影スタイル - 写真)	SNPSTY1	152
	Imaging Style - Manual (撮影スタイル - 手動)	SNPSTY2	152
	Beeper On (ビーブ音オン)	SNPBEP1	152
	* Beeper Off (ビーブ音オフ)	SNPBEP0	152
	* Wait for Trigger Off (トリガー待機オフ)	SNPTRGO	153
	Wait for Trigger On (トリガー待機オン)	SNPTRG1	153
	* LED State - Off (LED 状態 - オフ)	SNPLED0	153
	LED State - On (LED 状態 - オン)	SNPLED1	153

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
	Exposure (露出) 1-26,000 microseconds (1~26,000 マイクロ秒)	SNPEXP	153
	*Gain - None (ゲイン - なし)	SNPGAN1	154
	Gain - Medium (ゲイン - 中)	SNPGAN2	154
	Gain - Heavy (ゲイン - 大)	SNPGAN4	154
	Gain - Maximum (ゲイン - 最大)	SNPGAN8	154
	Target White Value (0-255) *125 (ターゲットホワイト値 [0~255] *125)	SNPWHT###	154
	Delta for Acceptance (0-255) *25 (許容デルタ [0~255] *25)	SNPDEL###	154
	Update Tries (0-10) *6 (更新試行回数 [0~10] *6)	SNPTRY##	155
	Target Set Point Percentage (1-99) *50 (ターゲット・セットポイント割合 [1~99] *50)	SNPPCT##	155
Image Snap (画像送信)	* Infinity Filter - Off (無限遠フィルター・オフ)	IMGINFO	156
	Infinity Filter - On (無限遠フィルター・オン)	IMGINF1	156
	* Compensation Off (補正オフ)	IMGCOR0	156
	Compensation On (補正オン)	IMGCOR1	156
	* Pixel Depth - 8 bits/pixel (grayscale) (ピクセル深度 - 8 ビット/ピクセル [グレースケール])	IMGBPP8	156
	Pixel Depth - 1 bit/pixel (B&W) (ピクセル深度 - 1 ビット/ピクセル [白黒])	IMGBPP1	156
	* Don't Sharpen Edges (エッジをシャープニングしない)	IMGEDG0	157
	Sharpen Edges (0-23) (エッジをシャープニングする [0~23])	IMGEDG##	157
	* File Format - JPEG (ファイルフォーマット - JPEG)	IMGFMT6	157
	File Format - KIM (ファイルフォーマット - KIM)	IMGFMT0	157
	File Format - TIFF binary (ファイルフォーマット - TIFF バイナリ)	IMGFMT1	157
	File Format - TIFF binary group 4, compressed (ファイルフォーマット - TIFF バイナリ・グループ4、圧縮)	IMGFMT2	157
	File Format - TIFF grayscale (ファイルフォーマット - TIFF グレースケール)	IMGFMT3	157
	File Format - Uncompressed binary (ファイルフォーマット - 非圧縮バイナリ)	IMGFMT4	157
	File Format - Uncompressed grayscale (ファイルフォーマット - 非圧縮グレースケール)	IMGFMT5	157
	File Format - BMP (ファイルフォーマット - BMP)	IMGFMT8	157
	* Histogram Stretch Off (ヒストグラム・ストレッチ・オフ)	IMGHIS0	158
	Histogram Stretch On (ヒストグラム・ストレッチ・オン)	IMGHIS1	158
	* Noise Reduction Off (ノイズ低減オフ)	IMGFSP0	159
	Noise Reduction On (ノイズ低減オン)	IMGFSP1	159
	Invert Image around X axis (X 軸を中心に画像反転)	IMGNVX1	158
	Invert Image around Y axis (Y 軸を中心に画像反転)	IMGNVY1	158
	Rotate Image none (画像回転なし)	IMGROTO	159
	Rotate Image 90° right (90°右側に画像を回転)	IMGROT1	159
	Rotate Image 180° right (180°右側に画像を回転)	IMGROT2	159

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
	Rotate Image 90° left (90°左側に画像を回転)	IMGROT3	159
	JPEG Image Quality (0-100) *50 (JPEG画質 [0~100] *50)	IMGJQF###	160
	* Gamma Correction Off (ガンマ補正オフ)	IMGGAM0	160
	Gamma Correction On (0-1000) (ガンマ補正オン [0~1000])	IMGGAM###	160
	Image Crop - Left (0-639) *0 (画像切り取り - 左 [0~639] *0)	IMGWNL###	161
	Image Crop - Right (0-639) *all columns (画像切り取り - 右 [0~639] *全列)	IMGWNR###	161
	Image Crop - Top (0-479) *0 (画像切り取り - 上 [0~479] *0)	IMGWNT###	161
	Image Crop - Bottom (0-479) *all rows (画像切り取り - 下 [0~479] *全行)	IMGWNB###	161
	Image Crop - Margin (1-238) *0 (画像切り取り - マージン [1~238] *0)	IMGMAR###	161
	Protocol - None (raw) (プロトコル - なし [生])	IMGXFR0	161
	Protocol - None (default USB) (プロトコル - なし [デフォルト USB])	IMGXFR2	161
	Protocol - Hmodem Compressed (プロトコル - Hmodem 圧縮)	IMGXFR3	161
	Protocol - Hmodem (プロトコル - Hmodem)	IMGXFR4	161
	Ship Every Pixel (すべてのピクセルを送信する)	IMGSUB1	162
	Ship Every 2nd Pixel (2ピクセルごとに送信する)	IMGSUB2	162
	Ship Every 3rd Pixel (3ピクセルごとに送信する)	IMGSUB3	162
	* Document Image Filter Off (文書画像フィルター・オフ)	IMGUSH0	162
	Document Image Filter On (0-255) (文書画像フィルター・オン [0~255])	IMGUSH###	162
	* Don't Ship Histogram (ヒストグラムを送信しない)	IMGHST0	163
	Ship Histogram (ヒストグラムを送信する)	IMGHST1	163
Image Size Compatibility (画像サイズの互換性)	Force VGA Resolution (VGA解像度を強制する)	IMGVGA1	164
	* Native Resolution (元の解像度)	IMGVGA0	164
Intelligent Signature Capture (インテリジェント・シグネチャ・キャプチャ)	Optimize On (最適化オン)	DECBN1	164
	* Optimize Off (最適化オフ)	DECBN0	164
ユーティリティ			
Add Code I.D.Prefix to All Symbolologies (Temporary) (すべてのシンボル体系にコードIDプレフィックスを追加 [一時的])		PRECA2,BK2995C80!	171
Show Software Revision (ソフトウェアの改訂情報を表示する)		REVINF	171
Show Data Format (データ・フォーマットを表示する)		DFMBK3?	171
Test Menu (テスト・メニュー)	On (オン)	TSTMNU1	172
	* Off (オフ)	TSTMNU0	172
Resetting the Factory Defaults (工場出荷時設定へのリセット)	Remove Custom Defaults (カスタム・デフォルトを削除する)	DEFOVR	176
	Activate Defaults (デフォルトを有効化する)	DEFALT	176

HF52X の製品仕様

機械仕様	
寸法	41.7mm x 41.7mm x 32.5mm
重量	58g
ホストインターフェース	USB、RS-232
電気仕様	
入力電圧	4.5~5.5VDC
待機電流	0.7W (140mA @ 5VDC)
動作電流 (標準)	2.1W (420mA @ 5VDC)
光源	白色 LED
環境仕様	
動作温度*	-10~50°C (14~122°F)
保管温度	-40~70°C (-40~158°F)
湿度	相対湿度 5~95%、結露なきこと
耐落下	1.5m の高さからセメント床への 2 回の落下に耐えること
光量	0~100,000lux
IP 等級	IP40
画像	
画像サイズ	640 x 480 ピクセル
スキャン性能	
スキュー角	±65°
ピッチ角	±55°
シンボルコントラスト	25%
モーショントレランス	100cm/秒 (39 インチ/秒)

最大被写界深度

最大被写界深度の測定には以下のパラメーターを使用しています。

- 距離は、ハウジングの前面中心から測定。
- 25°C (77°F)、200lux (暗所)
- 写真コード
- シリアル・トリガー・モード

注： 最大被写界深度は、スキャナをシリアル・トリガー・モードにして測定します（ソフトウェア・コマンドの送信によりスキャナが作動）。この構成は、読み取り距離が最も長くなります。ただし、デフォルト設定ではありません。デフォルトのトリガー・モードは[プレゼンテーション・モード](#)です。このモードではスナップ性とモーショントレランスで最高性能が得られます。プレゼンテーション・モードでは、被写界深度の測定値は以下の測定値よりも小さくなります。

標準性能

シンボル体系	被写界深度
10 mil Code 39	2~102mm (0.08~4.02 インチ)
13 mil UPC-A	15~110mm (0.59~4.33 インチ)
20 mil Code 39	18~150mm (0.71~5.90 インチ)
20 mil QR コード	12~90mm (0.47~3.54 インチ)

視野

機種	FOV
HF52X	80° x 64° ±2°

第 11 章—メンテナンスおよびトラブルシューティング

修理

本製品の修理やアップグレードを行わないでください。これらのサービスは、必ず正規サービス・センターで行う必要があります。「製品サービスおよび修理」(xix ページ)を参照してください。

ケーブルおよびコネクタの点検

スキャン・エンジンのインターフェースケーブルおよびコネクタに摩耗や損傷の痕跡がないか点検してください。ケーブルの摩耗やコネクタの損傷がひどい場合は、スキャン・エンジンの動作が妨げられることがあります。ケーブルの交換については、担当の Honeywell 販売店にお問い合わせください。

トラブルシューティング

スキャン・エンジンは電源投入時に自己診断を自動的に実行します。スキャン・エンジンが正常に機能しない場合は、以下のトラブルシューティング・ガイドに従って問題を特定してください。

電源は入っていますか?赤色または緑色エイミングラインがオンになっていませんか?

エイミングラインが表示されない場合は、次の点を確認してください。

- ケーブルが正しく接続されているか。
- ホストシステムの電源が入っているか (外部電源を使用していない場合)。

スキャン・エンジンでシンボル読み取りが問題なくできますか?

スキャン・エンジンでシンボルをうまく読み取れない場合は、以下についてシンボルを確認してください。

- シンボルに汚れ、荒れ、傷、あるいは欠けがないか。
- シンボルの表面に霜や水滴が付いていないか。

- シンボルがスキャン・エンジン、またはスキャン・エンジンが接続されているデコードで有効になっているか。

バーコードが表示されているのに入力されませんか？

バーコードがホストデバイスに正しく表示されていても、入力するにはキーを押す必要があります（Enter/Return キーまたはTab キーなど）。

サフィックスをプログラムする必要があります。サフィックスをプログラムすると、スキャン・エンジンがバーコードのデータおよび必要なキー（「CR」など）を出力して、アプリケーションにデータを入力できます。詳細は、4～53 ページの「プレフィックス／サフィックスの概要」を参照してください。

スキャン・エンジンがバーコードを正しく読み取りませんか？

スキャン・エンジンがバーコードを読み取りますが、ホスト画面にデータが正しく表示されない場合：

- スキャン・エンジンが、適切な端末インターフェース用にプログラムされていない可能性があります。たとえば、「12345」をスキャンすると、ホストが「@es%」と表示します。

スキャン・エンジンを正しいプラグアンドプレイまたは端末選択バーコードで再プログラムしてください。第 2 章および第 3 章を参照してください。

スキャン・エンジンがバーコード・データを正しく出力するようにプログラムされていない可能性があります。たとえば、「12345」をスキャンすると、ホストが「A12345B」と表示します。

スキャン・エンジンを適切なシンボル体系オプションで再プログラミングしてください。第 6 章を参照してください。

スキャン・エンジンがバーコードをまったく読み取らない。

1. 本書巻末のサンプルバーコードを読み取ります。スキャン・エンジンでサンプルバーコードを読み取る場合は、対象のバーコードが読み取り可能か確認してください。バーコードのシンボル体系が有効になっているか確認します（第 6 章を参照）。
2. それでもスキャン・エンジンがサンプルバーコードを読み取れない場合は、6-80 ページの「All Symbolologies」（すべてのシンボル体系）をスキャンします。

スキャン・エンジンでどのようなプログラミング・オプションが設定されているか分からない場合、または工場出荷時のデフォルト設定を復元したい場合は、176 ページの [Reset the Factory Defaults](#)（工場出荷時設定へのリセット）をスキャンしてください。

付録 A—リファレンス・チャート

シンボル体系チャート

注： 「m」はAIM 修飾文字を表します。AIM 修飾文字の詳細は、国際技術仕様書の「シンボル識別子」を参照してください。

特定のシンボル体系に関するプレフィックスまたはサフィックスの入力は、汎用 (All Symbolologies [すべてのシンボル体系]、99) の入力に優先します。

コード ID と AIM ID の使用方法の詳細については、53 ページ以降の「[データ編集](#)」と 59 ページ以降の「[データ・フォーマット](#)」を参照してください。

リニア・シンボル体系

シンボル体系	AIM		Honeywell	
	ID	使用可能な修飾文字 (m)	ID	Hex
All Symbolologies (すべてのシンボル体系)				99
Codabar]Fm	0-1	a	61
Code 11]H3		h	68
Code 128]Cm	0, 1, 2, 4	j	6A
Code 32 Pharmaceutical (PARAF)]X0		<	3C
Code 39 (Full ASCII モードに対応)]Am	0, 1, 3, 4, 5, 7	b	62
TCIF Linked Code 39 (TLC39)]L2		T	54
Code 93 および 93i]Gm	0-9, A-Z, a-m	i	69
EAN]Em	0, 1, 3, 4	d	64
EAN-13 (Bookland EAN を含む)	X0		d	64
アドオン付き EAN-13]E3		d	64
拡張クーポン・コード付き EAN-13]E3		d	64
EAN-8]E4		D	44
アドオン付き EAN-8]E3		D	44

シンボル体系	AIM		Honeywell	
	ID	使用可能な修飾文字 (m)	ID	Hex
GS1				
GS1 DataBar]em	0	y	79
GS1 DataBar Limited]em		{	7B
GS1 DataBar Expanded]em		}	7D
GS1-128]C1		l	49
2 of 5				
China Post (Hong Kong 2 of 5)]X0		Q	51
Interleaved 2 of 5]lm	0, 1, 3	e	65
Matrix 2 of 5]X0		m	6D
NEC 2 of 5]X0		Y	59
Straight 2 of 5 IATA]Rm	0, 1, 3	f	66
Straight 2 of 5 Industrial]S0		f	66
MSI]Mm	0, 1	g	67
Telepen]Bm		t	74
UPC		0, 1, 2, 3, 8, 9, A, B, C		
UPC-A]E0		c	63
アドオン付き UPC-A]E3		c	63
拡張クーポン・コード付き UPC-A]E3		c	63
UPC-E]E0		E	45
アドオン付き UPC-E]E3		E	45
UPC-E1]X0		E	45

Honeywell コード ID の追加				5C80
AIM コード ID の追加				5C81
バックスラッシュの追加				5C5C
バッチモード数			5	35

2次元シンボル体系

シンボル体系	AIM		Honeywell	
	ID	使用可能な修飾文字 (m)	ID	Hex
All Symbolologies (すべてのシンボル体系)				99
Aztec Code]zm	0-9, A-C	z	7A
Chinese Sensible Code (Han Xin Code)]X0		H	48
Codablock A]O6	0, 1, 4, 5, 6	V	56
Codablock F]Om	0, 1, 4, 5, 6	q	71
Code 49]Tm	0, 1, 2, 4	l	6C
Data Matrix]dm	0-6	w	77
GS1]em	0-3	y	79
GS1 コンポジット]em	0-3	y	79
GS1 DataBar Omnidirectional]em		y	79
MaxiCode]Um	0-3	x	78
PDF417]Lm	0-2	r	72
MicroPDF417]Lm	0-5	R	52
QR Code]Qm	0-6	s	73
Micro QR Code]Qm		s	73

郵便シンボル体系

シンボル体系	AIM		Honeywell	
	ID	使用可能な修飾文字 (m)	ID	Hex
All Symbolologies (すべてのシンボル体系)				99
オーストラリア郵便]X0		A	41
英国郵便]X0		B	42
カナダ郵便]X0		C	43
中国郵便]X0		Q	51
InfoMail]X0		,	2c
Intelligent Mail バーコード]X0		M	4D
日本郵便]X0		J	4A
KIX (オランダ) 郵便]X0		K	4B
韓国郵便]X0		?	3F
Planet Code]X0		L	4C
Postal-4i]X0		N	4E
Postnet]X0		P	50

ASCII Conversion Chart (Code Page 1252) (ASCII 変換表 [コードページ 1252])

キーボード・アプリケーションでは、以下に示す 3 つの異なる方法で ASCII 制御文字を表すことができます。CTRL+X 機能は、OS およびアプリケーションによって異なります。以下の表に、よく使用される Microsoft の機能の一部を記載します。この表は、US 配列キーボードに適用されます。一部の文字は、国コードや PC の地域設定によって異なる場合があります。

印刷できない		ASCII 制御文字	キーボード Control + ASCII (CTRL+X) モード		
DEC	HEX	文字	キーボード Control + X モード・オフ (KBDCAS0)	Windows モード Control + X モード・オン (KBDCAS2)	
				CTRL + X	CTRL + X 機能
0	00	NUL	予備	CTRL+@	
1	01	SOH	NP Enter	CTRL+A	すべて選択
2	02	STX	Caps Lock (Caps ロック)	CTRL+B	太字
3	03	ETX	ALT Make	CTRL+C	コピー
4	04	EOT	ALT Break	CTRL+D	ブックマーク
5	05	ENQ	CTRL Make	CTRL+E	中央揃え
6	06	ACK	CTRL Break	CTRL+F	検索
7	07	BEL	Enter / Return	CTRL+G	
8	08	BS	(Apple Make)	CTRL+H	履歴
9	09	HT	Tab	CTRL+I	斜体
10	0A	LF	(Apple Break)	CTRL+J	両端揃え
11	0B	VT	Tab	CTRL+K	ハイパーリンク
12	0C	FF	Delete	CTRL+L	リスト、 左揃え
13	0D	CR	Enter / Return	CTRL+M	
14	0E	SO	Insert	CTRL+N	新規
15	0F	SI	ESC	CTRL+O	開く
16	10	DLE	F11	CTRL+P	印刷
17	11	DC1	Home	CTRL+Q	終了
18	12	DC2	PrtScn	CTRL+R	
19	13	DC3	BackSpace	CTRL+S	Save (保存)
20	14	DC4	Back Tab	CTRL+T	
21	15	NAK	F12	CTRL+U	
22	16	SYN	F1	CTRL+V	貼り付け
23	17	ETB	F2	CTRL+W	
24	18	CAN	F3	CTRL+X	
25	19	EM	F4	CTRL+Y	

印刷できない		ASCII 制御文字	キーボード Control + ASCII (CTRL+X) モード		
DEC	HEX	文字	Control + X モード・オフ (KBDCAS0)	Windows モード Control + X モード・オン (KBDCAS2)	
				CTRL + X	CTRL + X 機能
26	1A	SUB	F5	CTRL+Z	
27	1B	ESC	F6	CTRL+[
28	1C	FS	F7	CTRL+¥	
29	1D	GS	F8	CTRL+]	
30	1E	RS	F9	CTRL+^	
31	1F	US	F10	CTRL+-	
127	7F	?	NP Enter		

下位 ASCII 参照表

注：Windows のコードページ 1252 と下位 ASCII で使用する文字は同じです。

印刷可能文字								
DEC	HEX	キャラクタ	DEC	HEX	キャラクタ	DEC	HEX	キャラクタ
32	20	<SPACE>	64	40	@	96	60	`
33	21	!	65	41	A	97	61	a
34	22	"	66	42	B	98	62	b
35	23	#	67	43	C	99	63	c
36	24	\$	68	44	D	100	64	d
37	25	%	69	45	E	101	65	e
38	26	&	70	46	F	102	66	f
39	27	'	71	47	G	103	67	g
40	28	(72	48	H	104	68	h
41	29)	73	49	I	105	69	i
42	2A	*	74	4A	J	106	6A	j
43	2B	+	75	4B	K	107	6B	k
44	2C	,	76	4C	L	108	6C	l
45?	2D	-	77	4D	M	109	6D	m
46	2E	.	78	4E	N	110	6E	n
47	2F	/	79	4F	O	111	6F	o
48	30	0	80	50	P	112	70	p
49	31	1	81	51	Q	113	71	q
50	32	2	82	52	R	114	72	r

印刷可能文字 (続き)								
DEC	HEX	キャラクタ	DEC	HEX	キャラクタ	DEC	HEX	キャラクタ
51	33	3	83	53	S	115	73	s
52	34	4	84	54	T	116	74	t
53	35	5	85	55	U	117	75	u
54	36	6	86	56	V	118	76	v
55	37	7	87	57	W	119	77	w
56	38	8	88	58	X	120	78	x
57	39	9	89	59	Y	121	79	y
58	3A	:	90	5A	Z	122	7A	z
59	3B	;	91	5B	[123	7B	{
60	3C	<	92	5C	¥	124	7C	
61	3D	=	93	5D]	125	7D	}
62	3E	>	94	5E	^	126	7E	~
63	3F	?	95	5F	_	127	7F	?

拡張 ASCII 文字					
DEC	HEX	CP 1252			
128	80	€	Ç	上矢印↑	0x48
129	81		ü	下矢印↓	0x50
130	82	,	é	右矢印→	0x4B
131	83	f	â	左矢印←	0x4D
132	84	„	ä	Insert	0x52
133	85	…	à	Delete	0x53
134	86	†	á	Home	0x47
135	87	‡	ç	End	0x4F
136	88	^	ê	Page Up	0x49
137	89	%oo	ë	Page Down	0x51
138	8A	Š	è	右の ALT	0x38
139	8B	<	ï	右の CTRL	0x1D
140	8C	Œ	î	予備	n/a
141	8D		ì	予備	n/a
142	8E	Ž	Ä	テンキーの Enter	0x1C
143	8F		Å	テンキーの /	0x35
144	90		É	F1	0x3B
145	91	‘	æ	F2	0x3C

拡張 ASCII 文字 (続き)					
DEC	HEX	CP 1252	ASCII	代替拡張	PS2 スキャンコード
146	92	'	Æ	F3	0x3D
147	93	“	ô	F4	0x3E
148	94	”	ö	F5	0x3F
149	95	•	ò	F6	0x40
150	96	–	û	F7	0x41
151	97	—	ù	F8	0x42
152	98	˘	ÿ	F9	0x43
153	99	™	Û	F10	0x44
154	9A	š	Ü	F11	0x57
155	9B	>	ƒ	F12	0x58
156	9C	œ	£	テンキーの+	0x4E
157	9D		¥	テンキーの-	0x4A
158	9E	ž	€	テンキーの*	0x37
159	9F	ÿ	f	Caps Lock (Caps ロック)	0x3A
160	A0		á	Num Lock	0x45
161	A1	ı	í	左の Alt	0x38
162	A2	ƒ	ó	左の Ctrl	0x1D
163	A3	£	ú	左の Shift	0x2A
164	A4	¤	ñ	右の Shift	0x36
165	A5	¥	Ñ	Print Screen	n/a
166	A6	ı	ª	Tab	0x0F
167	A7	§	º	Shift Tab	0x8F
168	A8	”	¿	Enter	0x1C
169	A9	©	ƒ	Esc	0x01
170	AA	ª	˘	Alt Make	0x36
171	AB	«	½	Alt Break	0xB6
172	AC	˘	¼	Control Make	0x1D
173	AD		ı	Control Break	0x9D
174	AE	®	«	1 文字を含む Alt シーケンス	0x36
175	AF	˘	»	1 文字を含む Ctrl シーケンス	0x1D
176	B0	º	☒		
177	B1	±	☒		
178	B2	²	☒		
179	B3	³			

拡張 ASCII 文字 (続き)					
DEC	HEX	CP 1252	ASCII	代替拡張	PS2 スキャンコード
180	B4	´	†		
181	B5	µ	‡		
182	B6	¶	‡		
183	B7	·	‡		
184	B8	¸	‡		
185	B9	¹	‡		
186	BA	º	‡		
187	BB	»	‡		
188	BC	¼	‡		
189	BD	½	‡		
190	BE	¾	‡		
191	BF	¿	‡		
192	C0	À	¸		
193	C1	Á	¸		
194	C2	Â	¸		
195	C3	Ã	¸		
196	C4	Ä	¸		
197	C5	Å	¸		
198	C6	Æ	¸		
199	C7	Ç	¸		
200	C8	È	¸		
201	C9	É	¸		
202	CA	Ê	¸		
203	CB	Ë	¸		
204	CC	Ì	¸		
205	CD	Í	¸		
206	CE	Î	¸		
207	CF	Ï	¸		
208	D0	Ð	¸		
209	D1	Ñ	¸		
210	D2	Ò	¸		
211	D3	Ó	¸		
212	D4	Ô	¸		
213	D5	Õ	¸		
214	D6	Ö	¸		

拡張 ASCII 文字 (続き)					
DEC	HEX	CP 1252	ASCII	代替拡張	PS2 スキャンコード
215	D7	×	†		
216	D8	∅	‡		
217	D9	Ù	¸		
218	DA	Ú	ˆ		
219	DB	Û	•		
220	DC	Ü	▪		
221	DD	Ý	¸		
222	DE	þ	¸		
223	DF	β	▪		
224	E0	à	α		
225	E1	á	β		
226	E2	â	Γ		
227	E3	ã	π		
228	E4	ä	Σ		
229	E5	å	σ		
230	E6	æ	μ		
231	E7	ç	τ		
232	E8	è	Φ		
233	E9	é	Θ		
234	EA	ê	Ω		
235	EB	ë	δ		
236	EC	ì	∞		
237	ED	í	φ		
238	EE	î	ε		
239	EF	ï	∩		
240	F0	ð	≡		
241	F1	ñ	±		
242	F2	ò	≥		
243	F3	ó	≤		
244	F4	ô	∫		
245	F5	õ	∫		
246	F6	ö	÷		
247	F7	÷	≈		
248	F8	ø	°		


拡張 ASCII 文字 (続き)					
DEC	HEX	CP 1252	ASCII	代替拡張	PS2 スキャンコード
249	F9	ù	·		
250	FA	ú	·		
251	FB	û	√		
252	FC	ü	n		
253	FD	ý	²		
254	FE	þ	■		
255	FF	ÿ			

ISO 2022/ISO 646 置換文字

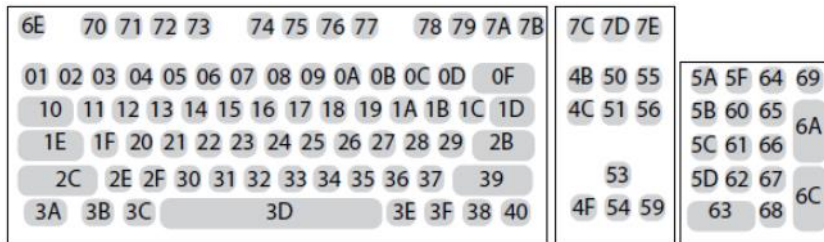
コードページでは、文字コードから文字へのマッピングを定義します。受信したデータが正しい文字で表示されない場合は、スキャンしたバーコードがホスト・プログラムの想定とは異なるコードページを使用して作成されたものである可能性があります。そのような場合は、バーコードが作成されたコードページを選択してください。これにより、データの文字が正しく表示されるようになります。

コードページの選択方法/国	標準	キーボード国番号	Honeywell コードページ・オプション
米国 (標準 ASCII)	ISO/IEC 646-IRV	?n/a	1
各国文字の自動置換	ISO/IEC 2022	?n/a	2 (デフォルト値)
バイナリ・コードページ	?n/a	?n/a	3
デフォルトの「各国文字の自動置換」では、Code 128、Code 39、および Code 93 に対して以下の Honeywell コードページ・オプションが選択されます。			
United States (米国)	ISO/IEC 646-06	0	1
Canada (カナダ)	ISO /IEC 646-121	54	95
Canada (カナダ)	ISO /IEC 646-122	18	96
Japan (日本)	ISO/IEC 646-14	28	98
China (中国)	ISO/IEC 646-57	92	99
Great Britain (イギリス) (UK)	ISO /IEC 646-04	7	87
France (フランス)	ISO /IEC 646-69	3	83
Germany (ドイツ)	ISO/IEC646-21	4	84
Switzerland (スイス)	ISO /IEC 646-CH	6	86
Sweden / Finland (extended Annex C) (スウェーデン/ フィンランド (拡張 Annex C))	ISO/IEC 646-11	2	82
Ireland (アイルランド)	ISO /IEC 646-207	73	97
Denmark (デンマーク)	ISO/IEC 646-08	8	88
Norway (ノルウェー)	ISO/IEC 646-60	9	94
Italy (イタリア)	ISO/IEC 646-15	5	85
Portugal (ポルトガル)	ISO/IEC 646-16	13	92

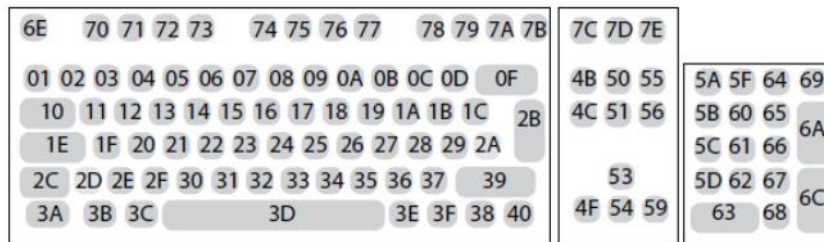
コードページの選択方法/国	標準	キーボード国番号	Honeywell コードページ・オプション
Spain (スペイン)	ISO/IEC 646-17	10	90
Spain (スペイン)	ISO/IEC 646-85	51	91

DEC			35	36	64	91	92	93	94	96	123	124	125	126
Hex			23	24	40	5B	5C	5D	5E	60	7B	7C	7D	7E
US	0	1	#	\$	@	[¥]	^	`	{		}	~
CA	54	95	#	\$	à	â	ç	ê	î	ô	é	ù	è	û
CA	18	96	#	\$	à	â	ç	ê	É	ô	é	ù	è	û
JP	28	98	#	\$	@	[¥]	^	`	{		}	-
CN	92	99	#	¥	@	[¥]	^	`	{		}	-
GB	7	87	£	\$	@	[¥]	^	`	{		}	~
FR	3	83	£	\$	à	°	ç	š	^	μ	é	ù	è	ˆ
DE	4	84	#	\$	š	Ä	Ö	Ü	^	`	ä	ö	ü	ß
CH	6	86	ù	\$	à	é	ç	ê	î	ô	ä	ö	ü	û
SE/FI	2	82	#	¤	É	Ä	Ö	Å	Ü	é	ä	ö	å	ü
DK	8	88	#	\$	@	Æ	Ø	Å	^	`	æ	ø	å	~
NO	9	94	#	\$	@	Æ	Ø	Å	^	`	æ	ø	å	-
IE	73	97	£	\$	Ó	É	Í	Ú	Á	ó	é	í	ú	á
IT	5	85	£	\$	š	°	ç	é	^	ù	à	ò	è	ì
PT	13	92	#	\$	š	Ã	Ç	Õ	^	`	ã	ç	õ	°
ES	10	90	#	\$	š	ı	Ñ	¿	^	`	°	ñ	ç	~
ES	51	91	#	\$	·	ı	Ñ	Ç	¿	`	·	ñ	ç	ˆ
 国別キーボード Honeywell コードページ			ISO/IEC 646 国別置換文字											

キーボードのキーマップ



104 キーUS 配列キーボード



105 キーEU 配列キーボード

シンボルの例

UPC-A



0 123456 7890

Interleaved 2 of 5



1234567890

EAN-13



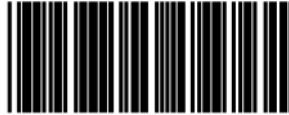
9 780330 290951

Code 128



Code 128

Code 39



BC321

Codabar



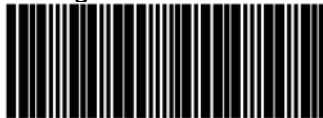
A13579B

Code 93



123456-9\$

Straight 2 of 5 Industrial



123456

Matrix 2 of 5



6543210

RSS-14



(01)00123456789012

シンボルの例

PDF417



車両登録

Postnet



郵便番号

Code 49



1234567890

Data Matrix



テスト・シンボル

QR Code



数字

Aztec



Package Label
(パッケージ・ラベル)

MaxiCode



テスト・メッセージ

MicroPDF417



テスト・メッセージ

プログラミング・チャート



K0K
0



K2K
2



K4K
4



K6K
6



K8K
8



K1K
1



K3K
3



K5K
5



K7K
7



K9K
9

プログラミング・チャート



KAK
A



KCK
C



KEK
E



MNUSAV.
Save (保存)



RESET_
Reset (リセット)



KBK
B



KDK
D



KFK
F



MNUABT.
Discard (破棄)

注： 文字または数字のスキンを間違えた場合は (Save (保存) をスキャンする前に)、Discard (破棄) をスキャンしてから、正しい文字または数字をもう一度スキャンし、Save (保存) をスキャンしてください。

日本ハネウェル株式会社
セーフティ&プロダクティビティソリューションズ
〒105-0022 東京都港区海岸 1-16-1
ニューピア竹芝サウスタワー20階
電話：03-6730-7344
<https://honeywell.co.jp>